- こも伸性子科		
授業のタイトル (科目名) 日本国憲法	授業の種類(講義・演習・実技・実習) 講義	授業担当者 古川 利通
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター
***************************************	ら員(東京都)として福祉行政に従事、	
[授業の目的・ねらい] 皆さんは、保育士		
守り、発展させる仕事につきます。また皆 あり労働者になります。ですから、子ども		
を学び、人権を守る力と主権を持つ国民と		
[授業全体の内容の概要] 日本国憲法は、		
権にかかわる部分からできています。ここ		
一緒に考える		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 子いるか、課題は何かなどについて、保護者		
[授業の日程と各回のテー		[準備学修の内容]
1) 授業計画、試験方法、授業感想表、「1		
法」とはどういう法律か他の法律と何が違 を読み、全体と3つの基本原理を知る。マ		和問題、子ともの事件、格差問題等人権に関わる報道に目を向け考える。授
を試み、主体と3つの基本原理を知る。 マ	一ガーとハ伝、ナイストが必要です	権に関わる報道に日を向け考える。技 業感想表作成
2)「憲法」という法律は、大きな社会の変	動とともに発展してきました。現在の	未您心女下灰
平和主義と人権規定、違憲立法審査権を定		
どのような位置にあるのか、なぜ、どのよ		
3) 「尊属殺重罰規定違憲判決」を取り上け	、人間の「命」の平等と社会的身分の	
関係を学ぶ		
4) 「法の下の平等」と実質的平等との間		
差、ジェンダーなど平等にかかわることを		
5) 「子どもの権利」に関する憲法の規定に利」だけである。現在、子どもの権利が国		
れ」にけてめる。現在、丁ともの権利が国 になったのはなぜか?人類の歴史の中で、		
のかを検討する。	1 2 0 142 0 2 7 (21)(4240 (272	
6) 「子どもの権利」の内容を、子どもの権	利条約と憲法に基づき検討し、「幼保	
一元」の意義と問題点について考える		
7) 現代に生きる人間にとって自由とは何		
ます。思想や良心の自由、表現の自由などの	D精神的自由と経済的自由です。まず、	
精神的自由について検討する 		
8) 経済的自由や財産権と貧富の格差の発生	主、社会権が 21 世紀になって誕生した	
意義を学ぶ 9) 生存権論①生存権の意義とその発生の歴	乗用を受び、短短の世末したる実法 9F	
条の生存権の暗記	在文を子み。価値の基本となる思伝 25	
10) 生存権論②朝日訴訟を取り上げ、生存	権特に生活保護受給権について学び	
現代の生活保護をめぐる問題を議論する	TETT - IT PRODUCTION	
11) 人身の自由と刑事手続き①日本国憲法		
ているか。無実であるのに、死刑判決など	を受ける事態になるのはなぜか、刑事	
手続きの概要と問題点を知る		
12)人身の自由と刑事手続き②免田栄事件		
り上げ、冤罪がなくならない日本の司法手 13)憲法9条論①憲法9条(戦争放棄)条		
13) 憲伝 9 朱諞①憲伝 9 朱(戦争放集) 余・戦とはどのような戦争であったかを知る	頃は、なせ誕生したが?第二次世界人	
14) 憲法9条と現代日本の安全保障体制(アメリカの"核の傘" 日米宏保条約	
による沖縄などの在日米軍基地、自衛隊の		
実を認識する	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
15) 中国、韓国、北朝鮮、米口に取り囲ま		
ナ海の軍事状況の問題、憲法9条の意義に		
[使用テキスト] 古川利通『日本の憲法』		
[参考文献] 芦部信喜(著),『憲法 第	三版』,2002 年,岩波書店	
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
① 到達度の確認(30%)		
② 実技・作品発表 (%)		
【定期試験】		
① 筆記試験(70%)		
② レポート(%)		
③ 実技試験(%)		
④ 面接試験(%)		
☑ 受講	態度その他必要と認められる事項を学	修成果の評価に加味する
平常点評価 口 受講	態度その他必要と認められる事項を学	修成果の評価に加味しない
	範解答を開示する	
[備考] 講義を聴きながらノートをとるこ	とができる力を身に付ける。板書を写	さず考えながらノートをとる。

子ども福祉学科					
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・	実習) 授業担当者			
情報教育入門	演習	苅谷 由佳			
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1 セメスター			
☑ 実務経験 いろいろな会社・	店舗のチラシ作成、帳票づくりを生か	いし、実務に役立つ講義・演習につなげる。			
[授業の目的・ねらい]		主に対応するDP			
今やビジネスや社会の中で必須となる	るパソコンの操作、文書作成、表計算、	プレゼンテーションの基本操 4			
作を理解し、演習によって実務に活力	いせる知識や技術を身につけることを	目的とする。			
[授業全体の内容の概要]					
パソコン(Windows11)の基本操作か	6, Microsoft Office (Word, Excel,	PowerPoint) をアプリケーションごとに演習			
	F成、完成できるように講義をすすめ				
[授業修了時の達成課題(到達目標)					
		長現し人に伝えることができるスライドを、自			
らの力で確実に作成できるスキルを		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			
「授業の日程と各回のテ		「準備学修の内容]			
	、文字入力の練習、フォイルやフォ				
ルダ、USB の使い方	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	60D 2 4 M 0 C 0 9 7			
2) Word の基本操作①画面、文章入力	ページ設定・立書休報・書式変更				
あいさつ文、文字の挿入・削除、コリ					
3) Word の基本操作②ワードアート、					
文字列の折り返し、文字の効果、ペー					
4) Excel の基本操作①画面、表作成、					
列)、セル、罫線の設定、シート・フ					
5) Excel の基本操作②関数、表の書					
作、データベース、データの並べ替え					
6) PowerPoint の基本操作①画面、ラ					
図形、SmartArt の挿入、画面切り替					
7) PowerPoint の基本操作②アニメーション、プレゼンテーション、アプ 次週のプレゼンテーションのための各自ネー					
リ間でのデータの共有、発表のための		探しやその素材集めや準備(30分~1時間)			
8) Word や PowerPoint 資料作りやプレゼンテーションを行う。					
[使用テキスト]					
『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』, 2019年, FOM 出版					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認(50%)機能	の理解や操作の習得度を、授業内や提	出課題において確認する。			
② 実技・作品発表(30%)課題	や演習やプレゼンテーション等で理解	度や完成度を確認する。			
【定期試験】					
① 筆 記 試 験(%)					
	 受業でのプレゼンテーションをブラッ	シュアップして提出する			
③ 実 技 試 験 (%)					
①					
	受講熊度その他必要と認められる事	でな一般の一般では、 では、一般では、 では、一般では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、			
平常点評価					
「フィードバックの古社」	受講態度その他必要と認められる事	実で 十形风木の計測に加州しばい			
[フィードバックの方法]	□ ナレム Ø辛与たたらっ				
8時間目で、提出課題についての総評、まとめ、留意点を伝える。					
[備考] 第1回目授業の最初に、USBの使い方等の資料を配り、それに沿って講義・演習をする。各授業で作成した課題					
を保存するための USB メモリーを、一人 1 個、毎回の授業で持参してもらう。					

トとも保祉学科			
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	技·実習) 授業担当者	
英語	演習	高瀬 峻	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位		
	者まで英語指導した経験を活かし円滑な	コミュニケーション能力の能動的学習を図	る
[授業の目的・ねらい]		主に対応するⅠ	ЭP
□ 英語圏の重謡や早口言葉等の字行□ 化を考 察できる。	習を通し、生きた英語に触れながら、豊 -	かな人間性、感性、異文 4	
		語に親しみ、正しい英語の発音を身につけ	る。
 [授業修了時の達成課題(到達目	票)]		
1. 英語の発音・構造を理解し説			
2. 保育園・幼稚園・福祉施設等			
[授業の日程と各回の	テーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]	
1) 発音講習 Step1 母音 (6 種)			
2) 文法講義 Step1 文型、品詞	、名詞		
3) 発音講習 Step2 二重母音		前回授業に対応する動画教材を視聴し、	
		英文作成(30分)	
4) 文法講義 Step2 動詞、人称	と現在形		
5) 発音講習 Step3 「Th」の発	音	前回授業に対応する動画教材を視聴し、	
		英文作成(30分)	
6) 文法講義 Step3 三単現の S.	、代名詞		
7) 発音講習 Step4「L」と「R」	の発音		
8) 中間課題発表(達成度確認	目)	発音動画の撮影など課題提出を行うこと	
		(30 分)	
9) 文法講義 Step4 形容詞、副詞			
10) 発音講習 Step5 濁る「T」、消える「T」		前回授業に対応する動画教材を視聴し、	
		英文作成(30分)	
11) 文法講義 Step5 不定詞			
12) 発音講習 Step6 リンキング、「F」と「V」			
13) 発音講習 Step7 声の高さ・	イントネーション、早口言葉		
14) 課題発表準備(質疑応答)、最終課題のチーム分けと課題曲選定			
15) 課題発表準備(質疑応答)、総復習 課題曲の練習、発表準備(1 時間)			
[使用テキスト]			
プリント配布、動画教材			
[参考文献]			
1		ことめた ネイティブ発音のコツ 33』, 2013 ト中学英語』, 2015年, KADOKAWA/中経出版	
中、明日省山版社 ■フクラマミ 「試験の方法と学修成果の評価基		中子英語』,2015 年,KADOKAWA/ 中框山版	<u></u>
【平常試験】	+-]		
①到達度の確認(%)			
	果題の提出物とその内容で評価します。		
②実技・作品発表(75%) 課題の提出物とその内容で評価します。 【定期試験】			
①筆記試験(%)			
②レポート(%)			
1 +	う游戯会を想定した英語音経の発表を通		<u> </u>
1 (3)主 技 試 鰤(25%) 1	ションを取れる力が身についているかを		
④面 接 試 験(%)			
立帝上 新师	☑ 受講態度その他必要と認められる	事項を学修成果の評価に加味する	
平常点評価 平常点評価	□ 受講態度その他必要と認められる	事項を学修成果の評価に加味しない	
[フィードバックの方法]			••••••
課題発表について、改善点を試験	期間終了後に開示		
[備考] 大学配布のアカウントで Google	Classroomにログインできろ状能で授業	に臨んでください	

ナとも抽似子符		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	・実習) 授業担当者
体育(講義)	講義	
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2 セメスター
□ 実務経験		
[授業の目的・ねらい]		主に対応するDP
乳幼児の身体・発達・心理の特性を	理解し、運動・体育活動のあり方につ	いて学ぶ 4
保育者として運動・体育活動をする	上での大切な視点や関わり方について	イメージを持つ
[授業全体の内容の概要]		
乳幼児期の発達や身体の特性につい	ての知識を会得し、本来子どもが持ち	得ている欲求や年齢傾向を知る。(乳幼児理解)
これらの特性を踏まえた乳幼児にふ	さわしい運動プログラム(サーキット	遊び・ふれあいゲームなど)を視聴するなど、
実際の活動の様子を知る。		
[授業修了時の達成課題(到達目標]		
	の内容とその意味や意義を理解し、学	生自身の経験や価値観を見つめ直し、新たな子
ども観や指導観を持つ。		
[授業の日程と各回のデ	ーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) オリエンテーション		これまでの体育活動についてイメージしてお
授業の概要を説明し、社会の状	況や保育現場の現状や課題などを伝	<
え、この授業で何を学んで欲し	いのかを伝える	
2) 保育指針、教育要領、保育要領域	こおける体育活動の位置づけについて	保育指針、教育要領、保育要領について調べ
学ぶ		ておく
3) 乳幼児の体力と発達		子どもの発達について調べてみる
乳幼児期の身体の仕組みと発達	の特性について学ぶ	
4) サーキット遊びの実際と考察		サーキット遊びについて調べてみる
具体的な活動としてサーキット	遊びを紹介し、その内容と意義につい	
て学ぶ		
5) 幼児期の発達(全身・手指・言	葉)	幼児の発達について調べてみる
幼児理解の上で捉える視点とし		
6) 技能動作のメカニズムと補助法	①	マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動について調
マット・跳び箱・鉄棒の技能動	作のメカニズムと補助法を学ぶ	べてみる
7) 技能動作のメカニズムと補助法	2	マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動について調
マット・跳び箱・鉄棒の技能動	作のメカニズムと補助法を学ぶ	べてみる
8) 授業のまとめと課題作成		
[使用テキスト] 特になし(必要に	応じて資料などを配布する)	
[参考文献] 特になし		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認 (100%) 出席	点、毎回のレポート	
②実技・作品発表(%)		
【定期試験】		
①筆 記 試 験 (%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④ 接 試 験 (%)		
	 受講態度その他必要と認められる事	であ一人の対価に加味する
平常点評価		
	ス 時間欠 C V/旧必女 C 前 Ø /り4 V の 手	一点ですじル木ツ町側に加水しなり
レポートの内容に対してコメントな	ゾでフィードバッカを行 る	
[備考]	C C / 1	
「順考」 平常試験の内訳:出席点60%、レス	5- b 4 0%	
	1 4 0 /0	

~ども福祉学科			
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者	
体育(実技)	実技	坂 比呂志	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1 セメスター	
□ 実務経験			
[授業の目的・ねらい] 生涯にわたり健康	で有意義な生活を送るために、主体的に	自他の健康の保持増進 主に対応するDP	
に努める能力を養う力を身につけることを	目標とする。スポーツ活動・集団活動を	通して社会性を学びな 4	
がら、それを日常生活に生かせる力を養う	0		
[授業全体の内容の概要]スポーツ活動を通	して身体を動かす心地よさや、集団で	行う楽しさを味わいながら運動そのも	
のの本質を学び、実践する力を身につける	0		
[授業修了時の達成課題(到達目標)]自他の	の健康の保持増進に必要なトレーニング	方法を知るとともに、集団で協力して	
物事をやり遂げる力をつける。 	·		
[授業の日程と各回のテーマ・ 		[準備学修の内容]	
1) オリエンテーション 授業の目的と進め	方の説明を受け、概要を理解す		
る。			
2) 縄跳び 短縄と長縄を使用した様々な打			
3) ストレッチング 方法を理解し実施でき	£ 3.		
4) マット運動 基本的な技ができる。			
5) 鉄棒運動 基本的な技ができる。			
6) 歩・走の基本的な動きができる。			
7) ボール運動 体ほぐしの運動ができる。	-		
8) ボール運動 色々なボール操作ができる	Ď ₀		
9) 伝承遊び1 伝承遊びを知る。			
10) 伝承遊び2 伝承遊びを理解する。			
11) 障碍者のスポーツ活動とその支援がで			
12) 応急手当、胸骨圧迫・AED 使用ができ	5.		
13) 身体表現、グループでダンスを作る。			
14) 身体表現、グループでダンスを作る。			
15) 身体表現発表会、授業のまとめの解説。 [使用テキスト]			
適宜資料を配布します。			
適宜資料を配布します。 [参考文献]			
身体表現についての文献。			
「試験の方法と学修成果の評価基準」			
【平常試験】			
①到達度の確認(60%)			
②実技・作品発表(40%)			
【定期試験】			
①筆 記 試 験 (%)			
②レポート(%)			
③実 技 試 験 (%)			
④面 接 試 験(%)			
	態度その他必要と認められる事項を学修	冬成果の評価に加味する	
平常点評価	態度その他必要と認められる事項を学順		
提出された課題について、次回授業時に解説し、フィードバックを行います。			
[備考]			

子ども福祉学科				
授業のタイトル (科目名) 保育原理	授業の種類(講義・演習・実技 講義	・実習) 授	受業担当者 高砂	用子
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	西i		メスター
□実務経験		1 11		
「授業の目的・ねらい」				主に対応するDP
・保育の意義、目的、理念、役割、法令及	び制度を学び、子どもの最善の	利益を尊重	できるようにかる	
・保育の基本原則、目標と方法、子育て支				0 1.2
・保育の思想と歴史、現状や課題、保育者				
[授業全体の内容の概要]				
・保育の目的・目標・役割、保育制度、保			の保育の基本につ	いて講義をする。
・保育の思想と歴史、わが国と諸外国の保			知るポートーンフェ	> hn=M 1- w
・子ども・保育に関する事例から保育問題	!を考察することで、目身の子と	ごも観、保育	親を形成できるよ	り 解説する。
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・保育所における保育の理念、法的枠組み	歴中的亦運を理解し 祝春の	7.4.4.6.4.6.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1	について説明でき	· Z
・基礎技術など保育活動全般にわたる保育				
・保育者の専門性、倫理性を理解し、保育				
[授業の日程と各回のテーマ・		1	「準備学修の内	
1) オリエンテーション 保育の目的、意		・子どもや		象を日常見聞きし
				語等があれば調べ
			説書 p. 12-18	
2) 保育に関する法令及び制度①			返りレポートを携	
保育に関する法令及び制度① 制度、法令	、実施体系	は授業内に	説明する。解説書	∮p356-359
3)保育に関する法令及び制度②	. ^	前講を振り:	返りレポートを携	計してる。テーマ
保育所保育指針に基づく保育制度、関係法新聞記事等からディスカッションを行い、			説明する。解説書 した保育問題の記	
保育、子育て支援制度について学ぶ	丁ともの取音の利益を与思した	合日が芋浦	した休月问題の記	1争とまとめる
4) 保育所保育に関する基本原則 養護と	教育の一体 保育の目標	前議を振り	返りレポートをキ	是出する。テーマ
実習園の事例と授業テーマとを関連させる			説明する。解説書	
5) 乳幼児期に育みたい資質・能力① 3点			返りレポートを携	
実習園の事例と授業テーマとを関連させる			説明する。解説書	
6) 乳幼児期に育みたい資質・能力② 3 歳	 現以上児の保育			是出する。テーマ
【ゲストスピーカー予定】	m &d)		説明する。解説書	
7) 保育の社会的役割と責任①保育士の倫理	埋観と専門性		返りレポートを携	
 8) 保育の社会的役割と意義②グループ活動	新 <i>(</i> 理度な通)を収 <i>玄</i>)		綱領」を熟読する 返りレポートを打	
の。依有の江云町及前と思義のフルーノ伯郎	別(塚児で通じた休日)	р. 24-29	KYVW PCD	た四ック。 作机音
9) 諸外国の保育の現状と課題①ニュージー	ーランド等諸外国の保育		返りレポートを抗	是出する。諸外国
The state of the s	2 - 1 - 3 MB2 D - 1 - 1 - 1 - 1		べてまとめる。	
10)諸外国の保育の現状と課題②ウェーデ	ン等の諸外国の保育		返りレポートを抗	是出する。諸外国
【ゲストスピーカー予定】			べてまとめる。	
11) 保育の思想と歴史的変遷①子ども・保	:育の思想と歴史			是出する。保育の
19) 伊玄の田相と歴史的亦漢の日本の伊玄	(A) 田相 1) 展出		てまとめる。	是出する。日本の
12) 保育の思想と歴史的変遷②日本の保育 【ゲストスピーカー予定】	の心思と歴史		を調べてまとめる	
13) 子どもの理解に基づく保育の過程				。 是出する。テーマ
保育の計画、実践、省察、評価、改善の循	環		説明する。解説書	
14) 保育の目標と方法 グループワーク (是出する。テーマ
事例に基づき遊びを通して総合的に行う保	:育、個と集団について		説明する。実習の	
15) 授業のまとめ	1 12 7			是出する。内容を
保育の現状と課題について学んだことをま	とめる		授業内で配布され 。14 回分の授業に	れた資料をまとめ プルントの復習
[使用テキスト]		(登埋する)	。14 四万の15未2	/ リ / 下 り 没 白
倉田新・近藤幹生(著),【「現代保育原	理 保育の思想・哲学・科学	とを学び実践	する一】, 2024年	F. ななみ書房
[参考文献] ■厚生労働省(編),『保育				
要領解説』,2018年,フレーベル館 ■内	閣府・文部科学省・厚生労働省	(著),『幼	が保連携型認定こ	ども園教育・保育
要領解説』,2018年,フレーベル館 ■日	日岡由美子(編), 『ともに生き	る保育原理』	, 2018年, みら	, V \
[試験の方法と学修成果の評価基準]				
【平常試験】				
①到達度の確認(40%)				
②実技・作品発表 (%)				
【定期試験】				
①筆 記 試 験 (60%)				
②レポート(%)				
③実 技 試 験 (%)				
④面 接 試 験 (%)				
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	態度その他必要と認められる事	事項を学修成	果の評価に加味す	
	態度その他必要と認められる事			
[フィードバックの方法] 定期試験の解答				
[備考]テキストや配布資料を読み到達度確	-	「をする 調~	ベたこし学しだこ	レをましめる
Lvm・フ」/ ・・・・・ トローロ 貝付 と 肌ルア利達反性	:	ユ フ ′ω′ ο IV川 ′	にしてナルにこ	しょみしいつ。

とども福祉学科				
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・	•実習)	授業担当者	
教育原理(制度・経営的事項を含む)	講義		今滝 憲雄	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位		配当 1 セメスター	
□ 実務経験				
[授業の目的・ねらい]	4- \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	-	主に対応するDP	
教育の歴史と現状からその意義や目的を理	解し、今後の課題について把握	きした上で	解決方法を採求する。 2,3	
[授業全体の内容の概要] 教育の歴史と現状からその意義や目的を解	部1 たトで - 今日における勤奇	が細題を	坦却! 解沖七津について老家する	
	就した上で、フロビがどのお月	1月7日本人と (灰地 し件仄刀 仏に フバ くつ宗 タ 'ひ。	
授業で学んだ内容に基づいて教育的課題を	把握し、今後の教育のあり方に	こついて考	察したものを表現することができる。	
[授業の日程と各回のテーマ・			[準備学修の内容]	
1) オリエンテーション、日本の教育の歴史	と 現状	配布資料	を通読し、課題作文を作成する。	
2) 現代子ども論①―今を生きる子どもの成	込長・発達上の課題	前講を振	り返り、レポートを作成する。	
3) 現代子ども論②―子どもの生活・文化と	:人間形成の問題	次講のテ	ーマについて、事前学習を行う。	
4) 現代教師論①―今、求められる教育者と	:は(グループ交流)	前講を振	り返り、成果発表の準備を行う。	
5) 現代教師論②―今、求められる教育者と	:は(交流の成果発表)	前講を振	り返り、自己評価文をまとめる。	
6) 現代日本の教育改革―21世紀の教育改	女革に関する提言の検討	前講を振	り返り、レポートを作成する。	
7) 新しい学校園づくり①―どんな園づくり)を目指すか(グループ交流)	前講を振	り返り、成果発表の準備を行う。	
8) 新しい学校園づくり②―どんな園づくり)を目指すか(交流の成果発表)	前講を振	り返り、自己評価文をまとめる。	
9) 現代教育制度論①―今日における学校園	園の課題と教育行政の役割	次講のテ	ーマについて、事前学習を行う。	
10) 現代教育制度論②―今日における教育	・保育政策の問題	前講を振	り返り、レポートを作成する。	
11) 教育・保育政策に関する「調べ学習」	①(研究調査活動)	前講を振	り返り、成果発表の準備を行う。	
12) 教育・保育政策に関する「調べ学習」②(まとめと発表準備) 前講を振り返り、成果発表の準備を行う。				
13) 教育・保育政策に関する「調べ学習」	③(研究調査の成果発表)	前講を振	り返り、自己評価文をまとめる。	
14) 教育・保育政策に関する「調べ学習」④(研究調査の成果発表) 前講を振り返り、自己評価文をまとめる。				
15) まとめ 全体を振り返り、授業内容を総括する。 全体を振り返り、レポートを作成する。				
[使用テキスト]				
授業内で必要な資料を配布する。				
[参考文献] ■堀尾輝久(著),『教育入門	門』, 1989 年, 岩波書店 ■堀	尾輝久(著	ぎ)、『人間形成と教育―発達教育学	
への道』,1991年,岩波書店 ■土屋基規	」(編著),『現代教育制度論』	, 2011年	ミ, ミネルヴァ書房	
[試験の方法と学修成果の評価基準]				
【平常試験】				
① 到達度の確認(60%)				
② 実技・作品発表 (%)				
【定期試験】 ① 第 記 計 験 (%)				
① 筆 記 試 験 (%) ② レ ポ ー ト (40%)				
③ 実技試験(%)				
④ 面 接 試 験(%)				
☑態度	 その他必要と認められる事項を	学修成果		
平常点評価 □ 受講	態度その他必要と認められる事	耳項を学修		
各レポートに対して次講で添削・返却し、	一部授業内で紹介する形でフィ	ードバッ	クを行う。	
[備考]				

·ども福祉学科		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習	·実技·実習) 授業担当者
発達心理学	講義	野村 朋
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2	単位 配当 1 セメスター
☑ 実務経験 自治体発達権	目談員の経験を活かし、発達の道筋と	:保育について講義する
[授業の目的・ねらい]		主に対応するD
「子どもの育ちを支える」ため	に発達のみちすじと発達に応じた保	育・教育のあり方について理解し、人 1,2
間の持つ可能性と価値について	考えを深めることを目的とする。	
[授業全体の内容の概要]		
発達のとらえ方、発達のみちす	じ、発達に応じた保育・教育のあり	方について基礎的な知識を学ぶ
[授業修了時の達成課題(到達	目標)]	
子どもの発達を捉える視点をも	って保育を行うために基礎的な発達	の概念、理論について修得する
[授業の日程と	各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) 子どもの発達に関する基本	を学ぼう	
2) 子どもの発達と環境につい	ての関係について考える。	
3) 発達理論と子ども観・保育	観の関係について考える	プリント学習(30分)
4) 発達の可塑性について考え	3	振り返り学習(30分)
5) 基本的信頼感の形成と社会	青動的発達について学ぶ;0歳児の第	き達 まとめプリント記入(15分)
6) 身体機能と運動機能、認知	の発達について学ぶ;1歳児の発達	まとめプリント記入 (15分)
7) 言語の発達について学ぶ;	2歳児の発達	まとめプリント記入 (15分)
3) 乳幼児期の学びに関わる理	論、幼児期の自我の発達と社会性;3	歳児の発達 まとめプリント記入 (15分)
9) 心の理論の獲得;4歳児の発達		まとめプリント記入(15分)
10) 学力の土台を築く幼児期の	総まとめ; 5 歳児の発達と保育	まとめプリント記入(15分)
11) 接続期の発達と保育・教育		まとめプリント記入(15分)
12)児童期の発達;論理的思考	の獲得など児童期の発達の特徴を学	ぶ まとめプリント記入(15分)
13) 思春期・青年期の発達の課題		まとめプリント記入(15分)
14)青年・成人期の発達		まとめプリント記入(15分)
15) まとめと試験対策		試験勉強(1時間)
[使用テキスト]		
なし		
[参考文献]		
	『子どもの発達と診断』,1981年,大	月書店
■白石正久(著), 「発達の扉		
[試験の方法と学修成果の評価]	基 华」	
【平常試験】 ②ないま cs の なま 型 (0,000)		- - - - - - - -
①到達度の確認(20%)	リアクションペーパー、小レポート	、小アストを授業時間内に行う
②実技・作品発表(%)		
①筆記試験(80%)		
②レポート(%) ③字 # 計		
③実技試験(%)		
④面 接 試 験(%)	ロー 英継化序プネルンボーコット	b 기市접소 쓰상스田 스펙(Piztanti liv
平常点評価	3 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	れる事項を学修成果の評価に加味する れる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]		
筆記試験の正答を試験終了後公	関土で	
丰山 内沢 グエ合と 氏沢 だ 1 仮と	(用 9 分	

子ども福祉学科		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者
教育課程論	講義	高砂 朋子
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター
□ 実務経験		
[授業の目的・ねらい]		主に対応するDP
子どもの育ちを支える人となるために、教	で育課程に関する知識・技能を理解し、	説明できるようになる。 1 1
[授業全体の内容の概要] 保育・幼児教育における計画・記録・評価	5の音義と位置づけ 方法について学ぶ	
[授業修了時の達成課題(到達目標)]	1の念教で座屋 20、万仏に 20 で于る。	1
保育・幼児教育における計画・記録・評価		
[授業の日程と各回のテー		[準備学修の内容]
1) オリエンテーション 教育課程論の目的・ねらい、概要、到達目		子どもや保育等の社会事象を日常見聞 きしておくこと。・分からない用語等が あれば調べておく。解説書 p. 12-18
2) 保育・教育における計画・記録・評価		前講を振り返りレポートを提出する。
保育・教育における計画・記録・評価の位 3) 「子どもの姿」と教育課程①		テーマは授業内に説明する 前講を振り返りレポートを提出する。
保育・教育における計画・記録・評価と		テーマは授業内に説明する。
4) 保育所における計画		前講を振り返りレポートを提出する。
保育所保育指針、全体的な計画、長期の指導計画の概要を学ぶ。		テーマは授業内に説明する。
5) 子どもの発達と保育・教育の計画		前講を振り返りレポートを提出する。
保育・教育の計画を考えるうえで必要な、 6)保育・教育における計画①		テーマは授業内に説明する。 前講を振り返りレポートを提出する。
指導計画における「子どもの姿」「ねらい		テーマは授業内に説明する。
を学ぶ		
7) 保育・教育における計画② 指導計画における「環境の構成」「予想さ		前講を振り返りレポートを提出する。
慮」について、書き方や注意点を学ぶ。	700,000 J	
8)保育・教育における計画③ 特達計画の書きまた。ハスだりにストサス		前講を振り返りレポートを提出する。
指導計画の書き方について振り返ると共に 9)保育・教育における記録①		前講を振り返りレポートを提出する。
保育・教育における記録の意義と役割につ	いて学ぶとともに、記録における一日	попредиля перепро
の流れの書き方や注意点を学ぶ。 10) 保育・教育における記録②		前講を振り返りレポートを提出する。
記録における、子どもとの関わりの具体的		削講を振り返りレホートを提出する。
学ぶ。【ゲストスピーカー予定】		
11) 保育・教育における記録③ 記録の書き方について振り返ると共に、学		前講を振り返りレポートを提出する。
12) 保育・教育における評価		前講を振り返りレポートを提出する。
保育・教育における評価の意義と方法につ		->
13) 幼稚園・認定こども園における教育調 幼稚園・認定こども園における教育課程に		前講を振り返りレポートを提出する。 テーマは授業内に説明する
ら学ぶ。		
14) 「子どもの姿」と教育課程② 「子どもの姿」を捉えて計画・記録・評価	を行うための知識・技能について学ぶ。	前講を振り返りレポートを提出する。 テーマは授業内に説明する。
15) 授業のまとめ 講義全体のまとめを行い、保育・幼児教育		前講を振り返りレポートを提出する。 内容を振り返り、授業内で配布された
深める。		資料をまとめて整理する。14回分の授 業プリントの復習
[使用テキスト] ■岩崎淳子、他(著),		
[参考文献] ■厚生労働省(編),『保育所保育指針解説	1 2018 年 フレーベル館	
■文部科学省(著), 『幼稚園教育要領解説		
■内閣府·文部科学省·厚生労働省(著),	『幼保連携型認定こども園教育・保育	要領解説』,2018 年,フレーベル館
[試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】		
①到達度の確認(40%)		
②実技・作品発表(%)		
【定期試験】		
①筆記試験(60%)		
②レ ポ ー ト(%) ③実 技 試 験(%)		
③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%)		
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	「態度その他必要と認められる事項を学	修成果の評価に加味する
平常点評価 口 受請	態度その他必要と認められる事項を学	修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]定期試験の解答に		
[備考]テキストや配布資料を読み到達度確	≧総アスト⟨3回実施予定⟩で復習をする。	調べたこと字んだことをまとめる。

子ども福祉学科		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・	
保育内容(総論) 授業の回数 8 回	│ 演習 │ 時間数(単位数) 1 単位	高砂 朋子 配当 1 セメスター
□ 実務経験	时间数(单位数) 1 单位	
		けけて保育の全体的な構造を学習す 主に対応するDP
る 2. 子ども集団の特性を踏まえ、保育の計画と		
態や背景から、子どもの生活全体を通して養護		
展開について具体的に学び、実習への期待につ		が・絵本の読み聞かせ等、保育文化
に触れながら楽しく交流し、保育技術の基礎を		
		あり方等の知識や保育技術の基本を理解できるよう
(項首を行う。 視聴見教材等も活用して、具体的に手あそび・ふれあいあそびの基礎を習得し、)		『観の基礎を養うよう講義する。年齢・発達にそった は制作予定)
		иппп г/с/ ごも理解や保育方法(指導・援助)についての基礎を
		ける新聞記事等をスクラップし保育問題を考察する。
[授業の日程と各回のテーマ		 「準備学修の内容]
1) 本講義のオリエンテーション	70,000	保育所保育指針の第1章・第2章を読んでお
保育内容における「総論」の位置づけを知		くこと。子ども・保育問題に関する社会事象
家庭と保育所(幼稚園・こども園)につい		に目を向け、新聞やニュースを見聞きしてお
フップの作業に取り組むための説明を気に 絵本等(先輩の教材視聴)交流しながら学ぶ		くこと。新聞から記事を1つ取り挙げてお く。第1講に持参し説明を受ける。
2) 保育の全体構造と保育内容の理解	3*0	前講を振り返りレポートを提出する。テーマ
視聴覚教材の視聴し、保育所の1日を知る		は授業内に説明する。
保育は「養護」と「教育」が一体的に展開		
達が体験しながら学ぶことを知る。手ある 交流しながら学ぶ。	とい・ふれめいめてい・絵本等、	
3) 遊びによる総合的な保育		前講を振り返りレポートを提出する。テーマ
手あそび・ふれあいあそび・絵本の交流の		は授業内に説明する。
どもの主体的な活動としての遊び、興味や	·関心を捉え遊びの楽しさを共有	
することなど、実践例を通して考える。	こく 保育の其木及び保育内容の理	前講を振り返りレポートを提出する。テーマ
解 子どもの実態や生活背景を学び、養護		は授業内に説明する。
について理解する。手あそび・ふれあいま		
ーションを行う。		<u> </u>
5) 保育内容と子どもにそった「指導計画(部分実習)の基礎を学習する。※実習指導		前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する
導計画の考え方・立て方』『実習ハンドン		Yaj又来r J(Chunj y の。
手あそび・ふれあいあそび・絵本等、交流	だしながら学ぶ。	
6)保育所保育指針に基づく保育制度、関係		前講を振り返りレポートを提出する。テーマ
新聞記事等からディスカッションを行い、 保育、子育て支援について学ぶ手あそび・		は授業内に説明する。各自が準備した保育問題の記事をまとめる。
しながら学ぶ。	3-4000 (医vnnne c c c vy vo。
7) さまざまな保育課題と保育内容		前講を振り返りレポートを提出する。テーマ
保育所・幼稚園における多様な保育ニーン		は授業内に説明する。
学んだことを具体化して子ども観・発達観8) 将業のまとめ・到達度の確認 正気に		授業内容を振り返り、授業内で配布された資
		料をまとめて整理する。授業で取り組んだ乳
を理解し、授業のまとめを資料集(教材)る	として製本を予定する。	幼児のあそびについてまとめ、自主テキスト
「佐田ニンット」 安内 - 2番をつけてしょった		の冊子を作成する。
		所保育指針解説』,2018 年,フレーベル館 ■文部 :省・厚生労働省(著),『幼保連携型認定こども園
教育・保育要領解説』,2018年,フレーベル食	i i	
		育研究所・全国保育団体連絡会(編著),『保育白
		大月書店 ■森上史朗・ 柏女霊峰(編), 『保
		2018 年,フレーベル館 ■文部科学省『幼稚園教育 法』,2023 年,ミネルヴァ書房 ■梅谷美子(著),
		(福), 『子どもと楽しむ自然体験活動』, 2013
年,光生館 ■その他:授業内で必要に応じて	絵本、著書を紹介する	
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(60%)		
②実技・作品発表 (40%) 【定期試験】		
①筆 記 試 験 (%)		
①孝 記 祇 嫉 (%) ②レ ポ ー ト (%)		
③実 技 試 験 (%)		
(4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)		
□ □ □	講態度その他必要と認められる事	項を学修成果の評価に加味する
1 \1/ 'a' \(\tau \) \(\tau \)		項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 最終講:正答に		

子ども福祉学科								
授業のタイトル	(科目名)	授業の種類(講義	·演習·実技·	・実習)	授業担	当者		
=	音楽1	演	習			井	下ベ	に
授業の回数 8	口	時間数(単位数)	1 単位		配当	1	セメ	スター
□ 実務経験								
[授業の目的・ねら) [() [主に対応するDP
「うた」を通じて、	びを豊かに展開するため 、保育・幼児教育におけ よび声楽の技能を習得す	る音楽のもつ役割を						
覚の獲得を目指す。)概要] 楚的な音楽理論の知識や 。また、獲得した知識お 、集団の中で他者とつな	よび技術を用いた「						
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 基礎的な音楽理論の知識や声楽の技能を習得することで、ピアノ奏法や読譜力、伴奏・弾き歌い技術の向上にもつながります。授業内で理解できなかった専門用語や音楽理論に関する文献を読み、知識・技能の定着を図ること。学習した箇所ならびに配布プリント等の内容について再確認すること。								
	の日程と各回のテーマ・	内容・授業方法]			[準	備学修	の内容]
 オリエンテーシ 本授業の目的、 	/ョン 計画、楽典基礎および「	うた」の導入		こどもの	うたにつ	ついて訓	周べる。	
	を知識/声楽基礎① 譜と鍵盤の対応/呼吸と	発声、ソルフェージ	シュ	音名や音	部記号に	こついて	て予習す	-る。

音符や休符などについて予習する。

ストに備える。

ストに備える。

拍子について予習する。

夏の歌について調べる。

演奏記号について予習する。

園生活での歌について調べる。

春の歌について調べる。発声の復習をする。 1~3 回の授業について復習し、到達度確認テ

5~6 回の授業について復習し、到達度確認テ

グループでの発表ができるよう練習してお

授業のまとめ (プレゼンテーション:グループ発表) 「使用テキスト]

- ■井戸和秀(編)/小林美実(編)、『いろいろな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』、1982 年、チャイルド本社
- ■楠井淳子(著),『保育士、幼稚園教諭を目指す人たちのための音楽の基礎と表現〜楽典とソルフェージュ〜』, 2018 年, ふくろう出版 ※その他、随時教材プリントを作成し配布する

「参考文献

【小学学龄】

■細田淳子(著),『あそびうた大全集 200』,2013 年,永岡書店

到達度の確認②協働的な音楽活動に向けたグループワーク

■今泉明美/有村さやか(編), 『子どものための音楽表現技術』, 2017年, 萌文書林

[試験の方法と学修成果の評価基準]

3) 音楽理論の基礎知識/声楽基礎②

4) 音楽理論の基礎知識/声楽基礎③

5) 音楽理論の基礎知識/声楽基礎④

拍子/歌唱の実践②(夏のうた)

6) 音楽理論の基礎知識/声楽基礎⑤

演奏記号/歌唱の実践③(園生活のうた)

7) 音楽理論および声楽に関する音楽活動

8) 音楽理論および声楽に関する実技発表

音符と休符/歌唱の実践①(春のうた)

到達度の確認①/ソルフェージュ、リズム打ち

【平吊試験】	
①到達度の確認(60%)	課題、到達度確認筆記テスト
②実技・作品発表 (40%)	実技発表
【定期試験】	
①筆 記 試 験(%)	
②レポート(%)	
③実 技 試 験(%)	
④面 接 試 験(%)	
立 帝上並在	☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
平常点評価	□ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

[フィードバックの方法]

授業内レポートや提出された課題については、授業内および次回の授業時にフィードバックを行う。また、質問に対しては、授業内および次回の授業時に全体に向けて回答・説明し、必要に応じて質問者に個別に回答・説明する。

[備考]

子ども福祉学科		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・	実習) 授業担当者
ピアノ1	演習	井下べに
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1 セメスター
□ 実務経験		
		主に対応するDF
受講者のピアノ技能の習熟度に応じる	た学習教材の独奏や、歌唱教材の伴奏・	弾き歌い技術を習得しながら、 1
	己教育現場で必要となるピアノ表現技術	
	な内容を取り扱うことで、学習教材・歌	
に、読譜力の基礎を習得する。		(13(1) (132)) (11)
[授業全体の内容の概要]		
	た個別レッスンを展開し - 基礎的などう	7ノ奏法や読譜力に加えて、保育・幼児教育明
場で求められる表現力の習得を目指す		/ KIN COURT / CONFIDENCE CONFIDEN
[授業修了時の達成課題(到達目標)		
	」 するとともに、コードネーム奏を主と「	た節目化表が示され
[授業の日程と各回のテ		[準備学修の内容]
1) オリエンテーション		これまでのピアノ学習曲について復習する。
本授業の目的、計画、グループ分		
2)~4) ピアノ独奏に関する基礎的表		受業時間外の日々の練習が大変重要である。
バイエル 10~20 番程度/基礎的な		陳習に関する質問や、課題曲の範奏等について発疹的に中しいる。
 5)~7) ピアノ伴奏・弾き歌いに関す		て積極的に申し出る。 受業時間外の日々の練習が大変重要である。
簡易伴奏法の理解(コードネームの		東習に関する質問や、課題曲の範奏等につい
間勿什矣囚心在所(一一)小		て積極的に申し出る。
8) ピアノ独奏/ピアノ伴奏・弾き歌		人前での演奏ということを特に意識して、充
授業の中間まとめ:プレゼンテージ		分に演奏曲を準備する。
9)~10) ピアノ独奏に関する基礎的	表現②	受業時間外の日々の練習が大変重要である。
バイエル 20~40 番程度/基礎的な記		棟習に関する質問や、課題曲の範奏等につV
		て積極的に申し出る。
11)~12) ピアノ伴奏・弾き歌いに関		受業時間外の日々の練習が大変重要である。
基礎的な弾き歌い技術の習得(ハー		東習に関する質問や、課題曲の範奏等について辞伝的に中し出る。ませれます。の準備
 13)~14) ピアノ独奏/ピアノ伴奏・		て積極的に申し出る。実技発表への準備。 受業時間外の日々の練習が大変重要である。
バイエル 40~60 番程度/基礎的な		文素时間外の日々の練音が八変重安にめる。 東習に関する質問や、課題曲の範奏等につV
一个一个一个一个		て積極的に申し出る。実技発表への準備。
15) ピアノ独奏/ピアノ伴奏・弾き		人前での演奏ということを特に意識して、充
授業のまとめ:プレゼンテーション		分に演奏曲を準備する。
[使用テキスト]	•	
		tion 「やさしい楽典」付』, 2006年, 音楽
之友社 ■井戸和秀(編)/小林美実(編),『いろいろな伴奏で弾ける選曲こどものうた 100』,1982 年,チャイルド		
本社 ■その他:随時教材プリントを	を作成し配布する。	
[参考文献] ■亚見かス(知説) 『ハスパマノ	## 1000 年 ○ ○ 本来 ※ 世 版	■北村智恵(解説), 『ブルグミュラー25 Œ
		■礼代智思(解説),『ブルグミュノー25 の ム1(校訂版)』,2003 年,全音楽譜出版社
		出版社 ■小林仁(編),『ソナタ・アルバ
		5年,チャイルド本社 ■『続こどものうた
		をによる幼児のうた 100 曲』, 2007 年, 全音
楽譜出版社		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(60%)		
②実技・作品発表(40%)		
【定期試験】		
①筆 記 試 験(%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験(%)		
④面 接 試 験(%)		
	受講態度その他必要と認められる事項	頁を学修成果の評価に加味する
平常点評価	受講態度その他必要と認められる事項	頁を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]		
毎回の授業において担当教員より、	受講者の習熟度に応じて課題に対するこ	フィードバックを行う。
[備考]	-	······································

子ども福祉学科					
授業のタイトル (科目名)	授業の種類	(講義・演習・実技・	実習)	授業担当者	
造形I		演習		高木さとこ・田	和 萬喜子
授業の回数 15 回	時間数(単位	三数) 1 単位		配当 1 セメ	スター
☑ 実務経験 保育所での0	∼5歳までの実践を踏ま	ミえ乳幼児期の造形	活動につ	oいて講義と演習をす	る。
[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
【1回~8回】子どもの育ちをう	支える保育者として、幼	児期においての造用	形活動の]	重要性を学ぶ。基礎的	1
な知識を習得し、実践する。 【9回~15回】子供の育ちをす	ちラストレかスために 4	保吾者と〕 て乳 幼児	見間におり	ける浩形活動の重更性	=
を学習する。子どもの豊かな心を					
た造形活動を現場で実践できる。					
[授業全体の内容の概要]	White bear 11.10 Hm) = >	ション、ハイゼンイチロ	- -	16 D & BU16 L 7	
【1回~8回】基礎的な技法・ 【9回~15回】乳幼児期の造					トス
②乳幼児期にふさわしい基本的					
提出する。③制作した作品を使る		せる。			
[授業修了時の達成課題(到達目 【1回~8回】: 造形活動の中		大羽俎 安晔 「	七田十ヶ		
【1回~8回】: 宣形活動の中 【9回~15回】: ①乳幼児期の				0	
②造形活動で使う教材の基礎知識				に生かすことができる	5 。
[授業の日程と各回	のテーマ・内容・授業力	7法]		[準備学修の内容	¥]
1) 造形活動と画材について・鉛	i筆での作品制作			ヤット持参	
2) 絵の具の基本的な使い方・12				ツト持参	
3) 色相・明度・彩度を学ぶ・三				ソト持参	
4)様々な画材と道具を駆使する				ヤット持参	
5) モダンテクニックを学ぶ1・6) モダンテクニックを学ぶ2・				! ット持参 ! ット持参	
7) グループでテーマを決め、学				ツト村参 セット持参・個人で』	
8) 前回の作品制作と発表	707CXFIBA 2711V C 20			プログログログ	6.女な物
9) 0歳児、描く力の土台作り	感触遊びや描画活動の基		~	, _ , 1,1,2	
10) 1歳児 描く活動の展開と指	音導について 手作り画	材について	発達に応	じた描画の図を作成	する(5~6歳
			児まで)		
11) 2歳児 なぐり描きの時代			手作り画 ゴム	ī材の準備、ハサミ、布	「、スポンジ、輪
12) 乳児の感触遊びの取り組みた	片、進め方を実践する。	,	す。	業で学んだことを復	
13) 3歳児 みたて・つもり時期			感触遊び	での感想や取り組んでの	の思いを発表
14) 4歳児 発達の視点を押え7			マペンキリー・ナ	* 1)	(, 1 y
15) 5・6歳児 絵の特徴、表明	1.ど知り量かな衣児を生命	ゲ山り基盤についっ	発達に応	いした抽画の凶を元成。	させる
「使用テキスト]		I.			
【1回~8回】■テキスト不使り	用。 ■造形セット				
【9回~15回】■山下慶子(剩	<u>下),『五感をはぐくむ</u>	感触あそび』,2	2020年,	かもがわ出版 ■造	形セット
[参考文献]新見俊昌(著),『子	・どもの発達と描く活動』], 2010年, かもな	がわ出版		
[試験の方法と学修成果の評価基	:準]				
【平常試験】					
①到達度の確認(50%)					
②実技・作品発表 (50%)					
【定期試験】					
①筆 記 試 験(%)					
②レポート(%)					
③実 技 試 験(%)					
④面 接 試 験 (%)					
T No. In ST. for	☑ 受講態度その他必	要と認められる事エ	項を学修	成果の評価に加味する	3
平常点評価				成果の評価に加味した	
[フィードバックの方法]			4 1/		
【1回~8回】各提出作品にコ	メントを返す。合評も行	う。			
【9回~15回】各提出作品に			作成状況	を確認していく。	
[備考]■授業に必要な持ち物は打	受業ごとに指示をします				

授業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	
幼児体育 I	演習	徳畑 等
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2 セメスター
	場での経験を活かし、授業内容に	
技業の目的・ねらい」 乳幼児期の子と《 :体得し、その展開方法や留意点、意図》		や「ルールのある遊び」の内容 主に対応するD 1
授業全体の内容の概要] 「実技6割」	「講義(動画視聴)2割」「考察	(レポート・対話)2割」の構成とし、場所
なじた内容の工夫、用いる道具の使い方や	P展開方法、実践する際の説明の	仕方や声の掛け方、その時々の子どもの心理:
どを洞察する視点など、授業の中で習得っ	する。	
授業修了時の達成課題(到達目標)] ヲ	L幼児期の子どもにふさわしい「	運動遊び」や「ルールのある遊び」の内容を
身し、実践するスキルと、その中での子 &		や関わり方をイメージする。
[授業の日程と各回のテーマ		[準備学修の内容]
		これまでの自分自身の運動や体育分野におるない。
: も踏まえ、授業に対する興味・関心を指 カ遊びの実態について(各園各様と旧態作		る経験や体験を思い起こす。「幼児体育」「! 動遊び」などで検索して調べてみる。
		「イス取りゲーム」についての過去の体験
) (自治会館)実技:イスをつかったふ	れあいゲーム	どを思い返しておく。
) (自治会館) 実技 : じゃんけん列車い	スルス	「じゃんけん列車」についての過去の体験
) (自治会館) 実技: 2人組でのふれあ		どを思い返しておく。 2人組遊びについて調べてみる
) (自治会館) 実技:3人組でのふれあ	,	3人組遊びについて調べてみる
)(自治会館)実技:フープを使ったふ		フープを使った遊びで調べてみる
)(自治会館)実技 : パフリングを使っ 	たふれあいゲーム	パフリングを使った遊びで調べてみる
) (自治会館) 実技:運動会の取り組み	例 (競技)	幼児の運動会について調べてみる
) (自治会館) 実技:運動会の取り組み	例(演技)	同上
0) (自治会館)実技:鬼ごっこ(室内に	句け)	幼児の鬼ごっこについて調べてみる
1) (中庭) 実技:鬼ごっこ(戸外向	t)	同上
2)(自治会館)実技:対抗ゲーム(室戸	勺)	幼児の対抗ゲームについて調べてみる
3) (中庭) 実技:対抗ゲーム (戸ダ	水)	同上
4) (教室) ワーク:指導案作成ワ-	ーク	実習の部分実習などを見返しておく
5) (教室) 授業のまとめと課題		これまでの授業のレポート・資料を見直し
5) (教室) 授業のまとめと課題		おく。
使用テキスト] 特になし。必要に応じて		
参考文献] 特になし。必要に応じて 評価の実施方法と基準]	(配介します。	
計画の実施力伝と基準」 【平常試験】		
)平 常 点 評 価 (60%)		
到達度の確認(40%)		
②実技・作品発表 (%)		
【定期試験】		
)筆記試験(%)		
ジレ ポ ー ト (%) ジ実 技 試 験 (%)		
面接試験(%)		
☑ 受記	- 講態度その他必要と認められる事	
□ 受記	講態度その他必要と認められる事	項を学修成果の評価に加味しない
フィードバックの方法] ミキスギは極業の中では がい、 プマの長り	のにかえない。幸命しゃ タッキ ~ヰ	: 明ナ: ライル) ナイマー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
*** へ たいは 室の田でかり ルーラでの場り	ロックリ タイエレン 二番出口 タ (/) ()を/ (/) ()時	間を設けてフィードバックを行う。

アと も 徳祉子符			T
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	・実習)	授業担当者
保育ゼミI	演習		1 年生学年団
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位		配当 1 セメスター
□ 実務経験			<u> </u>
 「授業の目的・ねらい 大学での学び方の)入門として、グループワークを	・中心に、	保育の基礎的な知識・主に対応するDP
技術を獲得し、学習成果を発表することが	•	- , - , ,	1, 2, 3, 4
[授業全体の内容の概要] クラスおよび	ザミ笙のガループ畄位を由心に		
習する。また、それらの学習成果を発表す			よがり休日の金融的なが順 1次的です
[授業修了時の達成課題(到達目標)]		スニレが	できる また 学習成果を発表するこ
とができる。保育に必要な基礎的な知識・			
[授業の日程と各回のテーマ・			[準備学修の内容]
1) 新入生オリエンテーション		子ども・	・保育問題に関する社会会事象を意識
新入生交流会に向けてグループワークを通	して保育技術を学習する		聞やニュースを見聞きしておくこと。
2) 新入生交流会①		•	を振り返りレポートを提出する。テー
新入生交流会に向けてグループワークを通	して保育技術を学習する。	マは授業	美内に説明する。
3) 新入生交流会②			長り返りレポートを提出する。テーマ
新入生交流会で保育技術を発表する(フィ	ールドワーク)。	は授業内	りに説明する。
4) 新入生交流会③	o 1814 (A)		
新入生交流会で保育技術を発表する(フィ 5)名札づくり	ールドリーク)。		
5) 名札づくり 実習に向けて、実習に相応しい名札の研究	を行い制作する		
(A) 名札づくり	(5-11) (11) (1-3 (9-2)		
実習に向けて、実習に相応しい名札の研究	を行い制作する。		
7) 名札づくり			
実習に向けて、実習に相応しい名札の研究	を行い発表する。		
8) 保育の実際①: 各ゼミで研究テーマを	もち、グループワークなどを通		
して、保育研究に取り組む。			
9) 保育の実際②:各ゼミで研究テーマをも	っち、グループワークを通して、		
保育研究に取り組む。 10) 保育の実際③: 各ゼミで研究テーマを	まま ゲループローカセンドを落		
100 保育の美原の: 谷とくで研究/ーマを して、保育研究に取り組む。	もら、クループリークなどを通		
11) 壁面製作①:保育体験(実習入門)の子	・どもたちへのメッヤージ		
グループワークを通して、保育に相応しい			
12) 壁面製作②:保育体験(実習入門)の子		•	
グループワークを通して、保育に相応しい	季節を感じる壁面を制作する。		
13) 保育の実際④:各ゼミで研究テーマを	ともち、グループワークを通し		
て、保育研究に取り組む。			
14) 保育の実際⑤: 各ゼミで研究テーマを	どもち、グループワークを通し		
て、保育研究に取り組む。 15) まとめ 各ゼミの学習発表から学びる	を深ルされ	夕休 むり	長り返り 到達度の確認に陥めるとう
をもつ。ゼミ研究のまとめを行う。(テー			
の学びに。みんなの学びを一人ひとりのも		ΔG / S	741 // A1003X /K1 31 - W271 / W0
[使用テキスト] なし		1	
[参考文献] 授業内で必要に応じて絵本、	著書を紹介する。適宜資料を	配布する。	>
[試験の方法と学修成果の評価基準]			
【平常試験】			
①到達度の確認(70%)			
②実技・作品発表(30%)			
【定期試験】			
①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%)			
③実技試験(%)			
(4)面接試験(%)			
	 態度その他必要と認められる事	耳耳を学修	
亚党占誣価	:態度での他必要と認められる事: :態度その他必要と認められる事	- · - · · ·	777-71- 11-11-11-11-11-11-11-11-11-11-11-11-1
	・態度での他必安と恥められる事 		
			・トハックを11つ。 については、次回以降の授業で返却
し、全体に向けて講評・コメントします。			

子ども福祉学科				
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	・実習)	授業担当者	
保育ゼミⅡ	演習		1 年生学年	丰団
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位		配当 2 セメ	スター
□ 実務経験				
[授業の目的・ねらい] 大学での学び方	の入門として、グループワークを	や中心に、	保育の基礎的な知識・	主に対応するDP
技術を獲得し、学習成果を発表すること	ができる。			1, 2, 3, 4
[授業全体の内容の概要] クラスおよび		協同した		
する。また、それらの学習成果を発表す		MINIO CIA	W. OW H WE WELL YOU	一颗 大师 乙丁日
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ラ		ことがで		を発表すること
ができる。保育に必要な基礎的な知識・				
「授業の日程と各回のテーマ			「準備学修の内容	[3]
1) 乳児院・児童養護施設①		子ども・	保育問題に関する社会	会事象を意識
乳児院・児童養護施設の実際と社会的養	護の現状と課題について		やニュースを見聞きし	
2) 乳児院・児童養護施設②小グループで				
収集スキルを学ぶ、図書館利用と論文検	索のレクチャーを聞き活用する。	は授業内	可に説明する。	
3) 乳児院・児童養護施設③				
小グループで討議しながら、調べ学習を	行う。			
4) 乳児院・児童養護施設④				
小グループでの調べ学習をおこなった発	表をする			
5) 乳児院・児童養護施設⑤				
小グループでの調べ学習をおこなったレ		***		
6)保育の実際①:各ゼミで研究テーマを	ともち、クループリークなどを連			
して、保育研究に取り組む。 7)保育の実際②:各ゼミで研究テーマを	- ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・			
して、保育研究に取り組む。	どもら、クループリークなどを通			
8) 保育の実際③:各ゼミで研究テーマを	シもち グループワークかどを通			
して、保育研究に取り組む。				
9) 保育の実際④: 各ゼミで研究テーマを	・もち、グループワークを诵して、			
保育研究に取り組む。				
10)2年生に向けて①				
総合表現発表会の鑑賞を通して、表現技	術や表現方法を学ぶ。			
11) 2 年生に向けて②				
総合表現発表会の鑑賞を通して、表現技	術や表現方法を学ぶ。			
12) 2年生に向けて③				
卒業研究発表会の参加を通して、自身の	研究テーマを考える。			
13) 2年生に向けて③	711111111111111111111111111111111111111			
卒業研究発表会の参加を通して、自身の	研究アーマを考える。 			
14) 2年生に向けて③ 卒業研究発表会の参加を通して、自身の	年 のテーフな老さて			
年来が九光衣云の参加を通して、自身の 15) まとめ 1 年次の振り返りを通して	-	全体 をは	この行り 列達度の強	扨た帖みストふ
る。(テーマ) 一人ひとりの学びをみんだ				
ひとりのものに。				, 00
「使用テキスト」なし		.1		
「参考文献」 業内で必要に応じて絵本、	著書を紹介する。適宜資料を配	布する		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		JII) .00		
【平常試験】				
①到達度の確認 (70%)				
②実技·作品発表 (30%)				
【定期試験】				
①筆記試験(%)				
②レポート(%)				
③実 技 試 験 (%)				
④面 接 試 験 (%)				
☑ 受	 講態度その他必要と認められる事	事項を学修	成果の評価に加味する	,)
平常点評価	講態度その他必要と認められる事			
	講態度での他必安と認められる事 課題について、15 回講義時に総評			r
[備考] 授業に関する質問は、授業内に				の授業で近却
し、全体に向けて講評・コメントします				ツ!又未 し 巡却
ON THE PROPERTY OF THE	ン 日日 コ これいにく ノコノビ 巨具作 乙 形	~ C C V · /		

子とも保祉学科 			
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者	
キャリアアップ教育I	演習	代田 盛一郎	
授業の回数 12 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1 セメスター	
□ 実務経験			
[授業の目的・ねらい] 社会人、職業人と	して求められる能力を身につけ、2年生	時での就職活動を進め 主に対応するDP	
ていくための基礎的な力を身につける。		4	
[授業全体の内容の概要] 「キャリア支援ス	ガイド」(大学作成)などを学習する。社	会人になるための素養と就職活動に必	
要な知識を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 22	年生での就職活動にむけての課題につい	て理解する。文章力や一般常識等を可	
能な限り習得し、2年生での就職活動だけ	でなく、今後の大学での学びの向上にも	活かすことができる。	
[授業の日程と名	「回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]	
1) キャリアアップ教育 I で学ぶ内容の説明	明を聞く。保育士、幼稚園教諭、指導員	等の仕事の内容、	
2年間の大学生活と就職への道筋などにつ	いて聞く。自己紹介や担任との面談のた	めの「自己紹介・	
私の長所など自己分析」カード、入学・進	路アンケート、「入学しての思い」等に	記述する。現時点	
での考えをまとめる。			
2) 個人面談① 担任との個人面談をお	こない、より良い大学生活や将来の進路	希望等について、	
自らの考えを担任に表明する。「国語力ア	ップ・一般教養・常識問題プリント」	(今回から①~⑥)	
にとりくみ、特に文章力の向上と漢字の学	習を進める。プレゼンテーションの準備	j.,	
3) 個人面談② 担任との個人面談をお	こない、より良い大学生活や将来の進路	希望等について、	
自らの考えを担任に表明する。プレゼンテ	ーションの準備。「国語力アップ・一般	教養・常識問題プ	
リント」にとりくむ。			
4) プレゼンテーションを体験する①			
「自己紹介」を行い、口頭発表の実際と	方法について学ぶ。お互いの批評を行い	、感想を書く。	
5) プレゼンテーションを体験する②			
「自己紹介」を行い、口頭発表の実際と	方法について学ぶ。お互いの批評を行い	、感想を書く。	
6) 「マナー講座」をおこなう。面接試験、	実習先訪問のために、面接のマナー、言	葉づかいの注意、	
面接でよく聞かれる質問等について、専門	の講師から実践的な講義を受ける。		
7) 履歴書の作成にとりくむ。履歴書とは。	どういうものかを知り、書き方について?	学習する。「自己	
アピール」「志望動機」欄の作成は、キャリアアップ教育Ⅱでおこなう。「国語力アップ・一般教養・			
常識問題プリント」にとりくむ。			
8) 履歴書を完成させる。まとめとして、常	4習したことをふりかえるために「確認問	問題」にとりくむ。	
「国語力アップ・一般教養・常識問題プリ	ント」にとりくむ。		
9)-12) 学内外の就職フェアへの参加を行い	ハます。詳細は授業内にガイダンスを行り	ハます。	
[使用テキスト] ■『キャリア支援ガイド	`』(大学作成)		
 [試験の方法と学修成果の評価基準]			
【平常試験】			
①到達度の確認(100%)			
②実技・作品発表(%)			
【定期試験】			
①筆記試験(%)			
②レポート(%)			
④面 接 試 験 (%) ☑ 受講熊度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
平常点評価		77071	
□ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 授業内で作成し	たレポート等について個別に指導する。		
[備考] 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。			

接条の類(特性名)	子ども福祉学科		
接案の回数 8 回 時間数(単位数) 1 単位 配当 2 セメスター 口 実施経験 ほかわから 1 での学びたかまえ、年門職として必要な専門性や質質 におおするDP 能力および社会人としての素養を得られるように努力し、2 年生での診験活動を積極的に進めていく意象 4 名高める。 「投棄金体の内容の概要] 「キャリア大量ガイド」(大学作成)を容置する。社会人になるための素美と鼓験活動に必要な基礎的な知識を学ぶ。2 年生での鼓験活動に向け実践的なことを学習し、裁験活動への意欲を高める。 「投棄金体の内容の概要] 「キャリア支援ガイド」(大学作成)を容置する。社会人になるための素美と鼓験活動に必要な基礎的な知識を学ぶ。2 年生での鼓験活動に向け実践的なことを学習し、裁験活動への意欲を高める。 「投棄の口種と各回のテーマ・内容・投棄方法] 「津崎学修の内容」 1 キャリアアンプ教育 ロマ学が内容についての説明を謂く、善節アンケート記入。2 年年での鼓験活動に向け、1 年代後年に各の部分な力はばなるない課題を考える。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」(今回からの) にとりくみ、神に文軍力の向上と使学の学習を進める。 3 小高文 (作文) の作成にとりくも①、何を書くカテーマを決める。文章規の基本、原稿用版の使い方などを学ぶ、「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 4 原産人かテーマを決める。文章規の基本、原稿用版の使い方などを学ぶ、「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 4 原産人の中域にとりくむ②、完成させる。 1 国語カアップ・・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 4 原産との主めの他職ととりくむ②、完成させる。 1 国語カアップ・・ 般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 4 原本との主の政権を認定する。 1 国語カアップ・・ 一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 4 原本との主の主が表述活動への意欲を高める。 2 年生の読品で動物を表しい。 2 年生の読品で動物を表しい。 2 年生の読品で動物を表しい。 2 東生の影が高速を振らしめる。 3 年生の読品で動物を他の、計画が表述とかった。 2 年年の読品では他を表して、計画を表し、「確認問題」にとりくれ。キャリアアップ1・1 の主とめのレポートを使。 4 原本についでな、外部に当場では、「確認問題」にとりくれ。キャリアアップ1・1 日の主とめのレポートを使。 5 年間を表していてきる。 5 年の表話を表したの主ない場合は、「確認問題」にとりくれ。キャリアアップ1・1 日の主とめのレポートを成る。 5 年の表話を表しましたが大場合え、「確認問題」にとりくれ、キャリアアップ1・1 日の主をめいポートを使。 5 日の連路を登上配らし合きせる。「国語技をかけないまでは、「確認問題」にとりくれ、キャリアアップ1・1 日の主なのの発生を含める。 ************************************	授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者
□ 実務経験 接受の目的・わらい キャリアアップ教育1での学びをふまえ、専門職として必要な専門性や質質 助かおよび社会人としての素養を持られるように努力し、2年生での辞職活動を検検的に進めていく意欲を高める。 接受条件の内容の概要 「キャリア支援ガイド」(大学作成)を学習する。社会人になるための素養と原風活動に必要な生産的からの表質を受力。2年生での提供活動に向り実践的なことを学習し、政権活動への意欲をある。 接受後に呼の速速課題 (到達目標) 2年生での表願活動におけての課題について理解する。文章力や一般学識等を可能な限り容得し、2年生での成職活動だけでなく、大学での学びの向上、自らの人間的成長にも活かすことができる。 接受 日本	キャリアアップ教育Ⅱ	演習	代田 盛一郎
接来の目的・ねらい キャリアアップ教育 での学びをふまえ、第門職として必要な専門性や資質、	授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2 セメスター
能力および社会人としての素養を得られるように努力し、2年生での耐糖活動を積極的に進めていく意飲を高める。 「提案金体の内容の限要」「キャリア支援ガイド」(大学作成)を学習する。社会人になるための素養と乾燥活動に必要な基礎的な知識を学ぶ。2 年生での就職活動に向け実践的なことを学習し、就職活動が一の意飲を高める。 「提案の日本に受けていく、大学での学びの向上、日もの人間の成長にも活かったとができる。 「接来の日本と各国のテーマ・内容・技業方法」 「体値学修の内容」 「政策の日本と各国のテーマ・内容・技業方法」 「体値学修の内容」 「おキリアアップ教育工学系内容についての説明を聞く、推路アンケート記え、2 年生で設備 活動に向け、1 年生後半に各自が行わなければならない課題を考える。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」(今回)からり、60、 一般の表生の方式の自上と書字の学習を進める。 2) 小論文(作文)の作成にとりくむ①。何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ、回話カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 の 小論文(作文)の作成にとりくむ②、完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 小 原植書の作成にとりくむ②、完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 「現大生のための健康セミナー」が実施される時は、この回で、「確認問題」を行い、「まとめしい。「知え生のないの健康を始める。 6) 2年年の取職活動作版を始める。 6) 2年年の取職活動作版を始める。 6) 2年年の取職活動を解え、実施したいようない。「最終活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。 セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ1・日のまとめの北平ト作成。 「使用アキスト」「キャリア支援ガイド」(大学作成) 「連考支施」 称になし 「政策の方法と学核成果の評価基準」 「平常政策] 「本学、教養、教養、(96) ②文策能度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「定期策略] 「本学、教養 (96) ②文策能度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「企業部産その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「受講能度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「企業を表示したしボート等について相別に指揮する。 「他考)	□ 実務経験		
全高める。 「接案体化内容の類型」「キャリア支接ガイド」(大学作成)を学習する。社会人になるための素養と歌助活動に必要な 医能的な知識を学ぶ、2 年生での献職活動に向け実践的なことを学習し、放験活動につきて連絡活動に対する。 大学力や一般常識等を前能な限り習得し、2 年生での解解活動だけでなく、大学での学びの向上、自らの人間が成長にも活かれことができる。 「接来の日程とを何のアーマ・内容・投表力法」 「作傷学修の内容」 「音楽リアアップ教育工で学ぶ内容についての意明を聞く、態度アンケート記入。2 年生での献職活動だけでない。「経験の日程とを何のアーマ・内容・投表力法」 「中傷学修の内容」 「主なリアアップ教育工で学ぶ内容についての意明を聞く、態度アンケート記入。2 年生での献職活動が自身、自身、自身、自身、自身、自身、自身、自身、自身、自身、自身、自身、自身、自	[授業の目的・ねらい] キャリアフ	'ップ教育Ⅰでの学びをふまえ、専門職として	ご必要な専門性や資質、 主に対応するDP
接着的な知識を学ぶ、2年世での就職活動に向け美胞的なことを学習し、健職活動への高数を高める。 提案修丁時の達成課題(到達日報) 2 年生での政職活動につけ美胞的なことを学習し、健職活動への高数を高める。 「提案修丁時と各回のテーマ・内容・提集方法」 「	能力および社会人としての素養を得	られるように努力し、2年生での就職活動を 積	§極的に進めていく意欲 4
基礎のな知識を学ぶ。2年生での就職活動に向け実践的なことを学習し、就職活動への意欲を高める。 「技業的「博の達成課題「到達目標」)2年生での表職活動にむけての課題について理解する。文章力や一般常識学を可能な限り習得し、2年生での報職活動だけでなく、大学での学びの向上、自らの人間的成長にも活かすことができる。 「接来の日程と各日のケーマ・内容・技業方法」 「作倫学修の内容」 「キャリアアップ教育』で学ぶ内容についての説明を聞く、連絡アンケート記人、2年生での説職活動に向け、1年生後半に各日が行わなければならない。課題を考える。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」(今回から)の一個)によりくみ、特に支事力の向上と連手の学者を始める。 2) 小論文(作文)の作成にとりくむ①、何を幸くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 3) 小論文(作文)の作成にとりくむ①、元はさせる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 1) 履歴事の作成にとりくむ②、完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 2) 成歴者の作成にとりくむ②、完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。「成士生のための意職を言せる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。「成士生のための意職を言する」、国語カアップ・一般教養・常識問題」を行い、「まとめのレポート」の作成を始める。 6) 2年生の意職活動を聴を聞く。危職先が決定している2年生の実体験を間ま、配職活動で大切に「まとめのを調といって学ぶ、外部から講論を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を関く、自らの連路希望と関し自合われる2年生の実体験を間ま、配職活動で大切にすべきこと等を学び、健康活動への意欲を高める。セラーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ1・日のまとめのレポート作成。 「第一年大学の方法と学修成果の評価に加味する 「食業の実施」、「数・第一年、「第一年、「第一年、「第一年、「第一年、「第一年、「第一年、「第一年、「	を高める。		
[投業修丁時の達成課題 (到達目標)] 2年生での歌魔活動にむけての誤騒について理解する。文章力や一般常識等を可能な限り智得し、2年生での就職活動だけでなく、大学での学びの向上、自らの人間的成長にも高かすことができる。 [投業の日盤と各回のテーマ・内容・投業方法] 1) キャリアアップ教育 II で学ぶ内容についての説明を聞き、進路アンケート記人、2年生での就職活動に向け、1 年年後半に各自が行わなければならない課題を考える。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」(今回から①・⑥) にとりくみ、特に文章力の向上と漢字の学習を進める。 2) 小論文 (作文) の作成にとりくむ②、何を並くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の優、方などを学ぶ。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 3) 小論文 (作文) の作成にとりくむ②、完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 5) 原産書の作成にとりくむ②、完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 5) 原産書の作成にとりくむ②、完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 5) 原産書の作成にとりくむ②、完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 6) 2年生の夜魔活動性験を聞く、流魄先が決定している2年生の実体験を聞き、就職活動で大切に「まとめのレポート」の作成を始める。 6) 2年生の夜魔活動性験を聞く、流魄先が決定している2年生の実体験を聞き、就職活動で大切に「まとめのレポート」の作成を始める。 7) 企業研究の方法について学ぶ、外部から課題を招き、最新の求入動向、事業研の特徴などの話を関る。自らの連絡を高める。そまケーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップI・目のまとめのレポート作成。 [使用テキスト] 「変すな説」 (1) 大学作成) 「参考な説」 特になし [法験の方法と学修成果の評価法律] 「工学試験] ① 到達度の確認(100%) ②実技、作品発表(%) [企業が験] ① 到達度の確認(100%) ②実技、作品発表(%) ② 実践、作品発表(%) ② 実践、作品発表(%) ② 実践、作品発表(%) ② 受講態度その他と要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない「定者に助す、といに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに、に対しないに対しないに、に対しないに、に対しないに対しないに対しないに対しないに対しないに対しないに対しないに対しない	[授業全体の内容の概要] 「キャリア	支援ガイド」(大学作成)を学習する。社会人	
能な限り習得し、2年生での就職活動だけでなく、大学での学びの向上、自らの人間的成長にも活かすことができる。 [接業の日程と各回のテーマ・内容・接塞方法] ① キャリアアップ教育日で学名内容についての説明を聞く、途略アンケート記入。2年生での就職活動に向け、1年生後半に各自が行かはければならない課題を考える。[国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」(今回から①~③)にとりくみ、特に文章力の向上と漢字の学習を進める。 2 り 小論文 (作文) の作成にとりくお①。何かまで、かラーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 3) 小論文 (作文) の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 3) 小論文 (作文) の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 4) 原歴等の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 5) 原歴等の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。「優性等の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。「優性等の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。「優性等の作成と自己のの政職を選集し、放職活動で大切、「本意問題」を行い、「まとめのレポート」の作成を始める。 9) 全年をの章報括動作験を開く、放職活動で大切にすべきこと等を学び、放職活動で大切にすべきこと等を学び、放職活動で大切にすべきこと等を学び、成職活動で大切にすべきこと等を学び、成職活動で大切にすべきこと等を学び、成職活動で大切にすべきこと等を学び、成職活動への意欲を高める。セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ 1・目のまとめのレボート作成。 (使用テキスト) 「大学作成したのカード作成。 (使用テキスト) 「大学作成し、分) 「大学作成し、分) 「大学作成し、分) 「大学作成し、分) 「大学作成し、分) 「大学作成し、分) 「大学作成し、方は、験(%) 「大学になし、方は、験(%) 「大学になしたしボート等について個別に指導する。 「偏考」	基礎的な知識を学ぶ。2年生での就	識活動に向け実践的なことを学習し、就職活動	動への意欲を高める。
接換の日程と各回のテーマ・内容・授業方法 「準備学修の内容 1) キャリアアップ教育 I で学ぶ内容についての説明を聞く、進路アンケート記人。2年生での就職 活動に向け、1年生後半に各自が行わなければならない課題を考える。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」(今回から①・⑥)にとりくみ、勢に文章力の向上と漢字の学習を進める。 2) 小論文 (作文) の作成にとりくむ①。何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原籍用紙の使い方などを学ぶ。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 初 小論文 (作文) の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 4 履歴事の作成にとりくむ②、完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 5 履歴事の作成にとりくむ②、完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。「短大生のための破職セミナー」が実施される時は、この回で、「確認問題」を行い、「まとめレボート」の作成を始める。 6) 2年生の殺婦活動作験を聞く。就職先が決定している2年生の実体験を開き、健職活動で大切にすべきと等を学び、健職活動の意欲を高める。 7 企業研究の方法について学ぶ、外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を聞く。自らの課路希望と照らし合わせつつ、就職活動に活かすようにする。 9) 「恒大生のかめの就難セミナー」に参加し、健康活動で大切にすべきこと等を学び、健職活動への意欲を高める。セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ I・Iの実とめのレボート作成。 (使用テキスト) 「使力とめのレボート作成。 (使用テネスト) 「大学作成) 「参考文献】 「大学作成果の評価志集] 「平常試験】 「工作記録(%) 「実施・作品発表(%) 「東京教職】 「工作記録】 「工作記録(%) 「東京教職】 「工作記録 (%) 「東京教職】 「工作記録 (%) 「東京教職 (%) 「東京教職 (%) 「東京教職 (%) 「東京教職 (%)	[授業修了時の達成課題(到達目標)] 2年生での就職活動にむけての課題につい	・て理解する。文章力や一般常識等を可
接換の日程と各回のテーマ・内容・授業方法 「準備学修の内容 1) キャリアアップ教育 I で学ぶ内容についての説明を聞く、進路アンケート記人。2年生での就職 活動に向け、1年生後半に各自が行わなければならない課題を考える。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」(今回から①・⑥)にとりくみ、勢に文章力の向上と漢字の学習を進める。 2) 小論文 (作文) の作成にとりくむ①。何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原籍用紙の使い方などを学ぶ。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 初 小論文 (作文) の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 4 履歴事の作成にとりくむ②、完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 5 履歴事の作成にとりくむ②、完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。「短大生のための破職セミナー」が実施される時は、この回で、「確認問題」を行い、「まとめレボート」の作成を始める。 6) 2年生の殺婦活動作験を聞く。就職先が決定している2年生の実体験を開き、健職活動で大切にすべきと等を学び、健職活動の意欲を高める。 7 企業研究の方法について学ぶ、外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を聞く。自らの課路希望と照らし合わせつつ、就職活動に活かすようにする。 9) 「恒大生のかめの就難セミナー」に参加し、健康活動で大切にすべきこと等を学び、健職活動への意欲を高める。セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ I・Iの実とめのレボート作成。 (使用テキスト) 「使力とめのレボート作成。 (使用テネスト) 「大学作成) 「参考文献】 「大学作成果の評価志集] 「平常試験】 「工作記録(%) 「実施・作品発表(%) 「東京教職】 「工作記録】 「工作記録(%) 「東京教職】 「工作記録 (%) 「東京教職】 「工作記録 (%) 「東京教職 (%) 「東京教職 (%) 「東京教職 (%) 「東京教職 (%)	能な限り習得し、2年生での就職活	動だけでなく、大学での学びの向上、自らの	人間的成長にも活かすことができる。
活動に向け、1年生後半に各自が行わなければならない課題を考える。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」(今回から①へ⑥)にとりくみ、特に文章力の向上と漢字の学習を進める。 2) 小論文 (作文) の作成にとりくむ②。 だめこの 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 3) 小論文 (作文) の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 4) 履歴書の作成にとりくむ②。 「自己アビール」「志望動機」権の書き方、内容について学び、今回はこの2つの欄も記述する。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 5) 履歴書の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 5) 履歴書の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。「短大生のための解職セミナー」が実施される時は、この回で、「確認問題」を行い、「まとめのレボート」の作成を始める。 6) 2年生の離職活動体験を聞く、旋職先が決定している2年生の実体験を聞き、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ I・Ⅱのまとめのレボート作成。 (使用テキスト) 「キャリア支援ガイド」(大学作成) 「参考文献」特になし 「試験の方法と学修成果の評価基準] 「平常歌録] 「公業技・作品発表(第6) 「定期歌韻 「② 受講態度の確認 (100%) ②実技・作品発表(第6) 「定期歌韻 「② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「交講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「交講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「交講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「反対時で成したレボート等について個別に指導する。	「授業の日	程と各回のテーマ・内容・授業方法〕	「準備学修の内容]
活動に向け、1年生後半に各自が行わなければならない課題を考える。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」(今回から①へ⑥)にとりくみ、特に文章力の向上と漢字の学習を進める。 2) 小論文 (作文) の作成にとりくむ②。 だめこの 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 3) 小論文 (作文) の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 4) 履歴書の作成にとりくむ②。 「自己アビール」「志望動機」権の書き方、内容について学び、今回はこの2つの欄も記述する。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 5) 履歴書の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 5) 履歴書の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。「短大生のための解職セミナー」が実施される時は、この回で、「確認問題」を行い、「まとめのレボート」の作成を始める。 6) 2年生の離職活動体験を聞く、旋職先が決定している2年生の実体験を聞き、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ I・Ⅱのまとめのレボート作成。 (使用テキスト) 「キャリア支援ガイド」(大学作成) 「参考文献」特になし 「試験の方法と学修成果の評価基準] 「平常歌録] 「公業技・作品発表(第6) 「定期歌韻 「② 受講態度の確認 (100%) ②実技・作品発表(第6) 「定期歌韻 「② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「交講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「交講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「交講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「反対時で成したレボート等について個別に指導する。	1) キャリアアップ教育 II で学ぶ内容	についての説明を聞く、進路アンケート記入	。2年生での就職
常識問題ブリント」(今回から①~⑥)にとりくみ、特に文章力の向上と漢字の学習を進める。 2) 小論文 (作文) の作成にとりくむ①。何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 3) 小論文 (作文) の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 4) 最優書の作成にとりくむ②。「自己アビール」「志望動機」欄の書き方、内容について学び、今回はこの2つの欄も記述する。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 5) 最優書の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。「包養力アップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。「現大生のための政職セミナー」が実施される時は、この回で、「確認問題」を行い、「まとめのレポート」の作成を始める。 6) 2年生の配職活動体験を聞く、鍵職先が決定している2年生の実体験を聞き、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動のの意欲を高める。 7) 企業研究の方法について学ぶ、外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を聞く。自らの進路希望と照らし合わせつつ、就職活動に活かすようにする。 8) 「延大せのための選職セミナー」に参加し、就職活動に活かすようにする。 8) 「延大せのための選職セミナー」に参加し、就職活動に行かすようにする。 8) 「延大せのための選職をジー」に参加し、就職活動に行かすようにする。 9) 「延大をリーン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
2) 小論文 (作文) の作成にとりくむ①。何を書くかアーマを決める。文産表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。[国語カアップ・一般教養・常識問題プリント] にとりくむ。 3) 小論文 (作文) の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 4) 履歴書の作成にとりくむ②。「自己アピール」「志望動機」顔の書き方、内容について学び、今回はこの2つの編も記述する。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 5) 履歴書の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 5) 履歴書の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。「短大生のための鼓騒セミナー」が実施される時は、この回で、「確認問題」を行い、「まとめのレポート」の作成を始める。 6) 2年生の覚職活動が敷を聞く。就職活動への意欲を高める。 7) 企業研究の方法について学ぶ。外部から講師を招き、最新の求人動に、事業所の特徴などの話を関く。自らの池路希望と限らし合わせつつ、残職活動に活かすようにする。 8) 「短大生のための健職セミナー」に参加し、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。 セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ I・II のまとめのレポート作成。 [使用アキスト] 「キャリア 支援ガイド」 (大学作成) [参考文献] 物になし [武職の方法と学修成果の評価基準] 【平常対験】 (①報 産 政 確認 (100%) ②実技・作品発表 (%) 【正期対験】 (①第 直 記 献 駿 (%) ②の 漢 技 骸 (%) ②の 漢 技 試 駿 (%) ②の 資 技 試 験 (%) ③の 資 技 試 験 (%) ②の 資 技 試 験 (%) ②の 資 技 試 験 (%) ③の (の 近 長 について個別に指導する。 [偏考]			
使い方などを学ぶ。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 3) 小論文 (作文) の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 4) 履歴書の作成にとりくむ①。「自己アピール」「志望動機」欄の書き方、内容について学び、今回はこの2つの欄も記述する。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 5) 履歴書の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 6) 2年生の放職活動体験を向と。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。「短大生のための就職セミナー」が実施される時は、この回で、「確認問題」を行い、「まとめのレボート」の作成を始める。 6) 2年生の放職活動体験を同く。旅職活動への意欲を高める。 7) 企業研究の方法について学ぶ。外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を聞く。自らの連路希望と照らし合わせつつ、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ1・旧のまとめのレボート作成。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」 (大学作成) 「診ち次献」特になし 「認験の方法と学修成果の評価基準」 【平常試験】 ①到達度の確認 (100%) ②実技・作品発表 (%) 【正期試験】 ① 到達度の確認 (100%) ②実技・作品発表 (%) 【正期試験】 ② 会講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「会講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「フィードバックの方法」 援業内で作成したレボート等について個別に指導する。 [備考]			
3) 小論文 (作文) の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」 にとりくむ。 4) 履歴書の作成にとりくむ③、「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」 はこの2のの欄も記述する。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。 5) 履歴書の作成にとりくむ②、完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題ブリント」にとりくむ。「短大生のための就職セミナー」が実施される時は、この回で、「確認問題」を行い、「まとめのレボート」の作成を始める。 6) 2年生の就職活動が縁を関マ、就職活動への富欲を高める。 7) 企業研究の方法について学ぶ、外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を聞く。自らの進路希望と限らし合わせつつ、就職活動に活かすようにする。 8) 「短大生のための就職セミナー」に参加し、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。 7) 企業研究の方法について学ぶ、外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を聞く。自らの進路希望と限らし合わせつつ、就職活動に活かすようにする。 8) 「短大生のための就職セミナー」に参加し、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップⅠ・ 日のまとめのレボート作成。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 「工学試験】 ① 到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験 (%) ② 実技・許品発表(%) ② で講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「フィードバックの方法」 「授業内で作成したレボート等について個別に指導する。 [備考]			ZZYTY ///NINJ/II/NINV
にとりくむ。			
4) 履歴書の作成にとりくむ①。「自己アピール」「志望動機」欄の書き方、内容について学び、今回はこの2つの欄も記述する。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 5) 履歴書の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。「短大生のための乾職セミナー」が実施される時は、この回で、「確認問題」を行い、「まとめのレポート」の作成を始める。 6) 2年生の就職活動体験を閉く。就職先が決定している2年生の実体験を閉き、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。 7) 企業研究の方法について学ぶ。外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を関く。自らの進路希望と限らし合わせつつ、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。 セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ I・II のまとめのレポート作成。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技、作品発表(%) ②で、ボーート(%) ③変、技、鉄、(%) ②面、接、鉄、(%) ②面、接、鉄、(%) ②面、接、鉄、(%) ②面、接、鉄、(%) ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「フィードバックの方法」 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]		少。元成でせる。「国品 <i>別」</i> グノー - 放牧食・f	1 時間をラグラー・
はこの2つの欄も記述する。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。 5) 履歴書の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。「短大生のための健職さまナー」が実施される時は、この回で、「確認問題」を行い、「まとめのレポート」の作成を始める。 6) 2年生の就職活動体験を聞く。就職活動への意欲を高める。 7) 企業研究の方法について学ぶ。外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を聞く。自らの進路希望と照らし合わせつつ、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。 8) 「短大生のための就職セミナー」に参加し、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。 セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ1・ Ⅱのまとめのレポート作成。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【で期試験】 ①筆記試験(%) ②で実は、財験(%) ②で実は、対験(%) ③素に対し、特にないに関切に指導する。 [備考]		コアピニカ」「古切動機」関の妻を古、内容に	ついて学び
5) 履歴書の作成にとりくむ②。完成させる。「国語カアップ・一般教養・常識問題プリント」にとりくむ。「短大生のための就職セミナー」が実施される時は、この回で、「確認問題」を行い、「まとめのレポート」の作成を始める。 (6) 2年生の就職活動体験を聞く。就職活動への意欲を高める。 (7) 企業研究の方法について学ぶ。外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を聞く。自らの進路希望と既らし合わせつつ、設職活動に活かすようにする。 (8) 「短大生のための設職セミナー」に参加し、就職活動に活かすようにする。 (6) 「経大生のための設職とミナー」に参加し、就職活動に活かすようにする。 (6) 「経大生のための設職とミナー」に参加し、就職活動に活かすようにする。 (使用テキスト] 「キャリアアップ1・Ⅱのまとめのレポート作成。 (使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) 「参考文献】特になし 「談験の方法と学修成果の評価基準] 「平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 「定期試験】 ①登 記 試 験(%) ②レ ボート(%) ③実 技 試 験(%) ②で ボート(%) ③実 技 試 験(%) ②で ボート(%) ②定 が ままままままままままままままままままままままままままままままままままま			
りくむ。「短大生のための就職セミナー」が実施される時は、この回で、「確認問題」を行い、「まとめのレポート」の作成を始める。 6) 2年生の乾職活動体験を関く。就職先が決定している2年生の実体験を開き、就職活動で大切に ナベきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。 7) 企業研究の方法について学ぶ。外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を 関く。自らの進路希望と照らし合わせつつ、就職活動に活かすようにする。 8) 「短大生のための就職セミナー」に参加し、就職活動に活かすようにする。 8) 「短大生のための就職セミナー」に参加し、就職活動に活かすようにする。 8) 「短大生のための就職セミナー」に参加し、就職活動においまうにする。 (使用テキスト) 「キャリアアップ1・ 「おもりのレポート作成。 「使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) 「参考文献] 特になし 「試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【企期試験】 ①単 記 耿 験 (%) ②定技・作品発表(%) 【で期試験】 ①単 記 耿 験 (%) ②定 技 耿 (%) ②定 技 耿 (%) ②定 技 耿 (%) ②定 技 耿 (%) ②定 技 財 験 (%) ②定 技 財 験 (%) ②定 技 計 験 (%) ②定 技 財 験 (%) ②定 技 計 験 (%) ②定 技 計 験 (%) ②定 技 計 験 (%) ②定 対 計 ト (%) ②定 技 計 験 (%) ②定講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。			
とめのレポート」の作成を始める。 6) 2年生の就職活動体験を開く。就職先が決定している2年生の実体験を開き、就職活動で大切に すべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。 7) 企業研究の方法について学ぶ。外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を 開 。自らの進路希望と思らし合わせつつ、就職活動に活かすようにする。 8) 「短大生のための就職セミナー」に参加し、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動へ の意欲を高める。セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ I・ Iのまとめのレポート作成。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ① ② 実技 託 験 (%) ②レ ボート (%) ③実 技 託 験 (%) ② レ ボート (%) ③実 技 試 験 (%) ② 国 接 試 験 (%) ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]			
6) 2年生の就職活動体験を聞く。就職先が決定している2年生の実体験を聞き、就職活動で大切に すべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。 7) 企業研究の方法について学ぶ。外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を 聞く。自らの進路希望と照らし合わせつつ、就職活動に活かすようにする。 8) 「短大生のための就職セミナー」に参加し、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ1・ II のまとめのレポート作成。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①第 記 試 験 (%) ②レ ボ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ②加 接 試 験 (%) ②面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]		, 一」が美麗される時は、この凹で、「傩祕向	
すべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。 7) 企業研究の方法について学ぶ。外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を聞く。自らの進路希望と照らし合わせつつ、就職活動に活かすようにする。 8) 「短大生のための就職セミナー」に参加し、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップI・Iのまとめのレポート作成。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ボ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ②正 就 験 (%) ②正 就 験 (%) ②正 就 験 (%) ②正 就 験 (%) ②正 対 か			+h mih \r = 1
7) 企業研究の方法について学ぶ。外部から講師を招き、最新の求人動向、事業所の特徴などの話を聞く。自らの進路希望と照らし合わせつつ、就職活動に活かすようにする。 8) 「短大生のための就職セミナー」に参加し、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。 セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ I・IIのまとめのレポート作成。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) 「参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①第 記 試 験 (%) ③ア 社 ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) ⑤更 技 試 験 (%) ⑤更 技 試 験 (%) ⑥面 接 試 験 (%) ⑥回 接 試 験 (%) ⑥回 度 試 験 (%)			就職店期で大切に
関く。自らの進路希望と照らし合わせつつ、就職活動に活かすようにする。 8) 「短大生のための就職セミナー」に参加し、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。 セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップI・IIのまとめのレポート作成。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験(%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験(%) ②ル ポ ー ト (%) ③実 技 試 験(%) ②加 接 試 験(%) ②正常に評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]			
8) 「短大生のための就職セミナー」に参加し、就職活動で大切にすべきこと等を学び、就職活動への意欲を高める。 セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ I・II のまとめのレポート作成。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験(%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験(%) ②加 接 試 験(%) ②正 ボート(%) ③実 技 試 験(%) ②正 ボート(%) ②実技・作品発表の他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]			の特徴などの話を
の意欲を高める。 セミナーが実施されない場合は、「確認問題」にとりくむ。キャリアアップ I・ Ⅱのまとめのレポート作成。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ②面 接 試 験 (%) 平常点評価			
Ⅱのまとめのレポート作成。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]			
[使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」 (大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認 (100%) ②実技・作品発表 (%) 【定期試験】 ① ②レ ポ ー ト (%) ③ ③実 技 試 験 (%) ② ②中常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する。 「フィードバックの方法] 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]		れない場合は、「確認問題」にとりくむ。キ	ヤリアアップI・
[キャリア支援ガイド] (大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ② は 計 験 (%) ② で ボー ト (が) ② 実 技 試 験 (が) ② で ままままままままままままままままままままままままままままままままままま			
「参考文献			
特になし 【試験の方法と学修成果の評価基準】 ① 童度の確認 (100%) ②実技・作品発表 (%) 【定期試験】 ①筆記試験(%) ②レポート(%) ③実技試験(%) ④面接試験(%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	「キャリア支援ガイド」(大学作成)		
[試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認 (100%) ②実技・作品発表 (%) 【定期試験】 ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	[参考文献]		
 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験(%) ②レ ポ ー ト(%) ③実 技 試 験(%) ④面 接 試 験(%) ④面 接 試 験(%) 「空講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する」 「フィードバックの方法」 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考] 	特になし		
①到達度の確認 (100%) ②実技・作品発表 (%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	[試験の方法と学修成果の評価基準]		
②実技・作品発表 (%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	【平常試験】		
【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	①到達度の確認(100%)		
 ①筆記試験(%) ②レポート(%) ③実技試験(%) ④面接試験(%) 平常点評価 ☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考] 	②実技・作品発表 (%)		
②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	【定期試験】		
③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	①筆 記 試 験(%)		
④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	②レポート(%)		
平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	③実 技 試 験 (%)		
平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]			
平常点評価 □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]		受講態度その他必要と認められる事項を学	
[フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	平常点評価		
授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]		Zanaz Calaz Chr. Our of XCT	2 /92/10 10 HT IMIT TOWN OF TOWN
[備考]		で個別に指導する	
		ます。詳細は授業内にガイダンスを行います。	

ても電性子科	1	Γ	
授業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者	
地域活動体験 I	演習	代田 盛	圣一郎
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1 セ	メスター
□ 実務経験			
[授業の目的・ねらい]			主に対応するDP
地域活動への実際の参加を通じて、地域の	D諸課題やニーズを把握し、その対応を学	£\$.	3, 4
参加から参画へのプロセス体験を通して作	R育者としての主体性を身につけることを 	:目的とする。	
[授業全体の内容の概要]			
地域活動への実際の参加を行う。			
地域活動は原則フィールドワークとなる。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
地域活動への実際の参加を通じて、地域の	の諸課題やニーズを把握し、その対応がて	ぎきるようになる。	
参加から参画へのプロセス体験を通して位	R育者としての主体性を身につける。		
[授業の日程と各回のテー	マ・内容・授業方法]	[準備学修の)内容]
1) ガイダンス、地域活動参加のエントリ	_		
2)~8)			
エントリーした地域活動に参加し、事後は	こリアクションペーパーを提出する。		
【地域活動の系統】			
①イベント系			
②まちづくり・環境整備系			
③その他の地域活動			
なし			
[参考文献]			
なし			
[試験の方法と学修成果の評価基準]			
【平常試験】			
①到達度の確認(100%)			
②実技・作品発表 (%)			
【定期試験】			
①筆 記 試 験(%)			
②レポート(%)			
③実 技 試 験 (%)			
④面 接 試 験(%)			
□ □ □ □	講態度その他必要と認められる事項を学 値		-る
平常点評価	講態度その他必要と認められる事項を学 修	形成果の評価に加味し	ない
[フィードバックの方法]			
授業内に行う。			
[備考]			
地域活動は事前エントリーし、規定回数リ	以上の参加を行うこと。詳細は授業内ガイ	ダンスで説明する。	

┏┖ ┺┺┺┺┺	T		
授業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者	
地域活動体験Ⅱ	演習	代田 盛一郎	
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2 セメスター	
□ 実務経験			
[授業の目的・ねらい]		主に対応す	-るDP
地域活動への実際の参加を通じて、地域の	諸課題やニーズを把握し、その対応を管	学ぶ。 3,4	:
参加から参画へのプロセス体験を通して保	R育者としての主体性を身につけることを 	と目的とする。	
[授業全体の内容の概要]			
地域活動への実際の参加を行う。			
地域活動は原則フィールドワークとなる。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
地域活動への実際の参加を通じて、地域の		できるようになる。 	
参加から参画へのプロセス体験を通して係	R育者としての主体性を身につける。 		
[授業の日程と各回のテー	マ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]	
1) ガイダンス、地域活動参加のエントリ	_		
2)~8)			
エントリーした地域活動に参加し、事後に	エリアクションペーパーを提出する。		
【地域活動の系統】			
①イベント系			
②まちづくり・環境整備系			
③その他の地域活動			
なし			
[参考文献]			
なし			
[試験の方法と学修成果の評価基準]			
【平常試験】			
①到達度の確認 (100%)			***************************************
②実技・作品発表 (%)			
【定期試験】			
①筆 記 試 験 (%)			***************************************
②レポート(%)			
③実 技 試 験 (%)			
④面 接 試 験 (%)			
	#態度その他必要と認められる事項を学(************************************	
平常点評価 □ 受講	‡態度その他必要と認められる事項を学作	疹成果の評価に加味しない	
[フィードバックの方法]			
授業内に行う。			
[備考]			
地域活動は事前エントリーし、規定回数以	 上の参加を行うこと。詳細は授業内ガ/	(ダンスで説明する。	

		T	
授業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)		
子どもの遊びと文化Ⅰ(入門)	演習	代田 盛一郎	
授業の回数 8 回 □ 実務経験	時間数(単位数) 1 単位	配当 1 セメスター	
「授業の目的・ねらい」 子どもの遊びと	ーー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・必要か技能を「アクティ」主に対応するDP	
通して意識化してみます。			
「子どもにとっての遊び」「保育としての	遊び」「遊びの援助/指導」について	て、理論や事例を通じて学びます。	
[授業修了時の達成課題(到達目標)]		(1, 7, 11, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1, 1	
①子どもと遊べる人になる、②いろんな遊	びを知り自分のものにする。③子ども	この遊びを援助できる人になる。の 3 点を	
意識できるようになることを達成課題とし		Joseph Company of Some	
「授業の日程と各回のテーマ・		[準備学修の内容]	
1) イントロダクション~ "遊び"ってなん		の振り返りとリアクションペーパー作成	
2) 遊びの"固有性"と"普遍性"を楽しむ		下、同じ)	
3) "偶然性"を遊ぶ			
4) "ディスカバリー"を遊ぶ			
5) つくって遊ぶ			
6) みんなで近ふ	6) みんなで遊ぶ		
7) 遊びを"創る" 	') 遊びを"創る"		
3) ふりかえり・まとめ			
[使用テキスト]			
プリント配布 [参考文献]			
[参考文献] 授業内で紹介			
技業的で紹介 [試験の方法と学修成果の評価基準]			
【平常試験】			
①到達度の確認 (50%)			
②実技・作品発表 (50%)			
【定期試験】			
①筆 記 試 験 (%)			
②レポート(%)			
③実 技 試 験 (%)			
④面 接 試 験 (%)			
☑ 受講	 :態度その他必要と認められる事項を ⁴		
平常点評価	態度その他必要と認められる事項を管		
[フィードバックの方法]			
授業内に行う			
[備考] 動きやすい服装で受講すること。遊びますよ。			
内容によってフィールドワークを実施しま	す。		

授業のタイトル(科目名)		(智) 授業担当者
12乗のタイトル(24日名) 子どもの遊び文化Ⅱ(遊び・プレイワーク))	技業の種類(講教・関首・美技・美 演習	代田 盛一郎
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2 セメスター
□ 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 保育者の子どもの	D遊びへの関わりについて、「プ	レイワーク(play work)」の 主に対応するDP
概念や基本原理やその実践を通して学ぶこ	とを目的とする。また、子どもの	遊びに関する企画・運営につ 1
いて、演習を通して実際に体験する。		
[授業全体の内容の概要] さまざまな遊び	びについて、実際に遊びながらそ	の援助/指導していく力を身につけていくプ
ログラムを展開します。また、遊びイベン	トの企画・運営を実際に行います	•
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 「-	子どもにとっての遊び」「保育と	しての遊び」「遊びの援助/指導」について
理解し、①子どもと遊べる人になる、②い	ろんな遊びを知り自分のものにす	⁻ る、③子どもの遊びを援助できる人になる、
の 3 点を達成課題とします。		
[授業の日程と各回のテーマ・	内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) 子どもと遊び(その1)	Ŧ	受業の振り返りとリアクションペーパー作成
2) 子どもと遊び (その2)		(以下、同じ)
3) プレイワークってなんだ?(その1)		
4) プレイワークってなんだ?(その2)		
5) 保育と遊び (その1)		
6) 保育と遊び (その2)		
7) 子どもの権利と遊び		
8) ふりかえり・まとめ		
[使用テキスト]	I	
プリント配布		
[参考文献]		
授業内で紹介		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(50%)		
②実技・作品発表 (50%)		
【定期試験】		
①筆 記 試 験(%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験(%)		
□ 受講	態度その他必要と認められる事項	夏を学修成果の評価に加味する
平常点評価 口 受講	態度その他必要と認められる事項	夏を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]		
授業内に行う		
[備考] 動きやすい服装で受講すること。遊びますよ。		
内容によってフィールドワークを実施しま	す。	

子ども家庭学科 授業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習	·実技·実習) 授業担当者
子ども家庭福祉	講義	西山 雅巳(元児童相談所次長)
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単	
<u></u>		「の現状と関係機関の支援内容等について講義する。 「の現状と関係機関の支援内容等について講義する。
L		みを理解し、専門的知識に基づき、 主に対応する ロ
子どもの権利を守りながら、保護		2
[授業全体の内容の概要] 子ども	」と家庭を取り巻く現状、子どもの	D権利、子ども家庭福祉の歴史・制度と法体系・行
政・実施機関・主として在宅におり	する様々な支援内容についてテキス	スト・資料等を用いて解説します。また、学生に対
て、講義中に課題シートに解答し	、提出することを求めます。	
[授業修了時の達成課題(到達目標	『)] 子どもと家庭を取り巻く現場	犬、子どもの権利、子ども家庭福祉の歴史・制度と
体系・行財政・実施機関・主とし	て在宅における様々な支援内容にて	ついて理解し説明することが出来る。
	ラーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) 講義の概要並びに子どもと家庭		予習 (テキスト p13、p19 を読む)
2)子ども家庭福祉の歴史(イギリ		予習 (テキスト p51 を読む)
3)権利擁護(児童の権利に関する		予習 (テキスト p35 を読む)
4) 子ども家庭福祉の理念、児童福	社法について	予習 (テキスト p13-14 を読む)
5) 児童福祉六法・行財政について	I A II 24 344 \	予習 (テキスト p65 を読む)
6) 子ども家庭福祉の実施機関、社会の	ご会的養護について 	予習 (テキスト p82-83 を読む)
7) 健全育成、母子保健について		予習 (テキスト p107 を読む)
8) 保育、子育て支援サービスにつ) (\ \ ` (予習 (テキスト p119 を読む)
9) 子ども虐待(1)について	1. 1. 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	予習 (テキスト p131 を読む)
10) 子ども虐待(2)、DV(ドメステ 11) 子どもの貧困の現状、ひとり		予習 (テキスト p143 を読む) 予習 (テキスト p28 を読む)
11) 子ともの負困の現状、ひとり。		予習 (テキスト p179 を読む)
14) 非行に対する児童相談所や司		予習 (テキスト p192 を読む)
14) 到達度確認テスト	Atterior, avivere and	課題シート解答例の確認
15) 今後の社会的養育の展望、専		予習 (テキスト p213-214 を読む)
[使用テキスト]	THAT CALLANTO AT C	THE CONTROL OF THE PARTY OF THE
櫻井奈津子(編),『保育と子ど	も家庭福祉(第2版)』, 2024年	:. みらい
「参考文献」		
[試験の方法と学修成果の評価基準	<u>[</u>]	
【平常試験】		
①到達度の確認 (60%)	到達度確認テストによる	
②実技・作品発表(40%)	課題シートによる	
【定期試験】		
①筆 記 試 験(%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験 (%)		
平常点評価	☑ 受講態度その他必要と認めら	れる事項を学修成果の評価に加味する
	□ 受講態度その他必要と認めら	れる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]		
到達度確認テスト及び課題シ	ートの解答例は、授業時間内に解詞	説します。

[備考]

授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	技・実習) 授業担当者
社会的養護 I	講義	西山 雅巳 (元児童相談所次長)
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター
☑実務経験 児童相談所での	D実務・SV 経験を活かし、社会的養護を必	
義する。		
授業の目的・ねらい] 社会的	n養護を必要とする子どもと家族に対して	て、専門的知識に基づき支援し、 主に対応する [
子どもの最善の利益に基づき子	どもの育ちを支える人となる。	1
授業全体の内容の概要] 社会	会的養護理由の現状、社会的養護を必要と	: する子どもの権利擁護への取組、社会的養護
削度及び施設養護における日常	生活・治療的支援、親子関係再統合など	についてテキスト・資料等を用いて解説しまっ
また、学生に対して、講義中に	課題シートに解答し、提出することを求る。	めます。
授業修了時の達成課題(到達日	目標)]社会的養護理由の現状、社会的養	を護を必要とする子どもの権利擁護への取組、
会的養護の制度及び施設養護に	おける日常生活・治療的支援、親子関係	再統合などについて理解し説明する事が出来る
[授業の日程と	各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
)講義の概要並びに現代社会に	こ暮らす子どもと家庭について	予習 (テキスト p12-14 を読む)
)社会的養護を必要とする子と	どもの権利擁護について	予習 (テキスト p30-32 を読む)
)子どもの養護の展開と現代の	D子どもの養護問題について	予習 (テキスト p45-47 を読む)
)社会的養護の体系及び家庭的	り養育の推進について	予習 (テキスト p56-58 を読む)
)家庭養護について		予習 (テキスト p69-70 を読む)
)施設養護の種別と小規模化は	こついて	予習 (テキスト p73-74 を読む)
)施設養護における理念と基準	*原理について	予習 (テキスト p88-89 を読む)
) 児童養護施設における日常生		予習 (テキスト p98-100 を読む)
)施設養護における自立支援の	D流れについて	予習 (テキスト p105-107 を読む)
0) 児童養護施設における治療		予習 (テキスト p111-112 を読む)
1)児童自立支援施設等におけ	る治療的支援について	予習 (テキスト p118-120 を読む)
2)施設養護における親子関係	の調整、地域支援について	予習 (テキスト p123-124 を読む)
3)リスクマネジメント等児童	福祉施設の運営管理について	予習 (テキスト p150-151 を読む)
4) 到達度確認テスト		課題シート解答例の確認
5) 被措置児童等虐待の状況及	びトラウマインフォームド・ケアについ	て 予習 (テキスト p158-159 を読む)
使用テキスト]		
小池由佳/山縣文治(編著),	『社会的養護[第4版]』,2016年,	ミネルヴァ書房
試験の方法と学修成果の評価差	表準]	
【平常試験】		
〕到達度の確認(60%)	到達度確認テストによる	
②実技・作品発表(40%)	課題シートによる	
【定期試験】		
筆 記 試 験(%)		
シレポート(%)		
寒 技 試 験(%)		
面接試験(%)		
平常点評価	☑ 受講態度その他必要と認められる	事項を学修成果の評価に加味する
一市 杰 計 川	□ 受講態度その他必要と認められる	事項を学修成果の評価に加味しない
フィードバックの方法]		
2 1 1 2 2 2 2 1 1 1 1		

授業のタイトル(科目名)		授業の種類(講義・演習・実	技・実習)	授業	担当者		
子ども家庭	支援の心理	里学		講義			川岸	育子	
授業の回数 15		-	時間数(単位数	枚) 2 単位		配当		フメスター	
☑ 実務経験		社会的養護の	1		心理士として	1	_	親子や保育	士と関わ
	ついて、		し、現代の子育て 列を交えつつ講義						
[授業の目的・ねらい 子関係や愛着関係の 通して、子どもは家	ハ] 心理等 O重要性を E庭(家族)	学的な観点か 理解する。 ヨ の中、親子	らの生涯発達の! 子どもの心の育ち 関係の中で育つご	にとっての家庭 ことを知り、子と	の意義や機能 さもとその家庭	皆につい	て考えるこ	とを	応するDF 1,2
を身につける。現代 [授業全体の内容の)育ちに及ほす影 ライフサイクル			につい	て補足しなが	 ら、心理学	的な生涯
発達と精神保健につう観点から家庭の機 うな家庭に対してと	後能につい~	て論じる。現	見代の社会状況が	子育て家庭に及					
[授業修了時の達成 ①生涯学習に関する ②家族・家庭の意義 括的に捉える視点を	課題(到達 の理学の 最や機能を で習得する。	目標)] 基礎的な知識 理解するとと ③子育て家	後を習得し、初期 : もに、親子関係 : 庭をめぐる現代	経験の重要性、 や家族関係等に	ついて発達的	な観点	から理解し、	子どもとの	家庭を包
④子どもの精神保険				- 松光十汁]		T	「淮は	き学体の内容	.1
1) ウ:人生曲線を			のテーマ・内容 自身の心の発達は		【レポート提出	H.1	L準備 自分の育ちを	背学修の内容 ∵振り返る(
2) 人の生涯の8つ出】					-	ート提	ロガショラで レジュメ・巻 分)		
3) 乳幼児期の発達 提出】	の特徴とそ	の時期に保	障すべきことやそ	その理由について	考える【レオ	ドート	の レジュメ・ 巻 分)	科書の予習	(20
4) アタッチメント	とその大切	さについて	学ぶ【レポート携	是出】			ハ レジュメ・耄	科書の予習	(20分)
5) 乳幼児期の精神	保健につい	て学ぶ【レ	ポート提出】				レジュメ・ 巻 分)	科書の予習	(20
6) マズローの欲求							レジュメ・耄		
7) 児童期の発達の)理由を理解する	」【レポート技		レジュメ・孝		
8)児童期の精神保優9)青年期・成人期【レポート提出】				ことやその理由を	理解する		レジュメ・ 巻 レジュメ・ 巻		
10)青年期・成人其	明の精神保備	建について学	└ぶ【レポート提	出】			レジュメ・巻	対書の予習	(20分)
11) 子育てを取り着	とく社会的	犬況について	知る【レポート	提出】			レジュメ・巻	対書の予習	(20分)
12) イ:『傷痕の真 【レポート提出】	_						レジュメ・巻		
13) 多様な家庭があ 14 特別なニーズを持							レジュメ・耄 レジュメ・拳		
【レポート提出】 15) エ:これまでの		•			• • • • •		これまでの		(= :) ()
【レポート提出】							分)		
[使用テキスト] ■									
[参考文献] ■エリ どものための精神恆 『子ども家庭支援の [試験の方法と学修	≦学』, 201′ ○心理学』,	7年,医学書 2019年,た	院 ■河野朗久	(著),『傷痕の	真実』,2008	年,新!	興医学出版社	: ■松本園	
【平常試験】 ①到達度の確認(8 0 %)		ているか ■主体 しての学びと気へ					<i></i>	
②実技・作品発表 【定期試験】	(20%)		表するとともに、						٥, د ز
筆 記 試 験(%)								
レ ポ ー ト(実 技 試 験(%) %)								
面接試験(%) %)								
平常点評価			態度その他必要と 態度その他必要と						
[フィードバックの	 方法] 前[ベックを行う	
[備考] ■平常点評いで起きているか?	価の備考:	(毎回の講	義にテキストやレ	/ジュメを持参し	ているか・ス	スマホで	゙ゲームをし	ていないか'	?・寝な
10 回講義に出ていた だ日の講義内容(ラ	ととしても	平常点が単位	立獲得点に満たす	、単位を獲得で	きない事態が	発生す	る可能性があ	っ ある。しかし	、休ん

を行うので、欠席日のレポート提出を推奨する。 ※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

「こで領征子符		
授業のタイトル(科目名) 子どもの保健 I	授業の種類(講義・演習・実技・実習) 講義	授業担当者 真鍋 穰
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター
☑ 実務経験 小児科医としての経験を	·踏まえ、保育現場等で求められる基礎	M的事項を踏んだ授業を行う。
[授業の目的・ねらい] 子どもの健康・成		
保育における健康管理・保健活動の重要性		
レルギー・事故の年齢発達に応じた特徴、		1, 4
具体的に説明できる。		
[授業全体の内容の概要] 子どもの健康に		
染症および食物アレルギーと事故の概要を		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 子 認識して保育場面での適切な対処および家		
要を理解しその予防対策が考えられるよう		休月別に问題となる恩朱延と争取の例
[授業の日程と各回のテーマ・	-	[準備学修の内容]
1) 子どもと社会 子どもの身体と心の変化		C-120
ポイントをつかって概括する。 骨折の増加		
アレルギーの増加の背景と原因を考える	11 23 % (24 1) 3211422 % 1 (34 1	
2) 子どもと社会 子どもの身体と心の変化	L及びその社会的背景をパワー	
ポイントをつかって概括する		
離婚 虐待 不登校などの増加の背景を表	ぎえる 虐待への対応について	
学ぶるの対策		
3) 子どもと社会 子どもの健康とは? 日本の乳児死亡率の経年的変化と国際比較	WHOの定義について考える	
日本の乳児死亡率の経中的変化と国際比較 4) 子どもと社会 乳児突然死症候群		
5) 小児の感染症と予防対策 子どもの免疫		
ムンプス 水痘などの 潜伏期 登園停止		
6) 小児の感染症と予防対策 感染性胃		
感染症ガイドラインにふれて	7,350, 61, 61, 71, 151, 61, 71, 71, 71, 71, 71, 71, 71, 71, 71, 7	
7) 小児の感染症と予防対策 予防接種の	意義と現状 生ワクチンと不活	
化ワクチンの違い		
8) 小児の感染症と予防対策 予防接種の	意義と現状 任意接種と定期	
接種のちがい 9) 事故の予防と対応 ①とくに保育園での	7.死亡事物について押組	
10) 事故の予防と対応 ②事故防止対策と 故に関するガイドラインにふれて	と事故が起きたときの対応 事	
11) 子どもの食事と健康 とくに保育園	における食物アレルギー対応	
その基本的考え方	73,2	
12) 子どもの食事と健康 とくに保育園	における食物アレルギー対応	
原因食物の解除の仕方		
13) 子どもの食事と健康 とくに保育園	における食物アレルギー対応	
アレルギー対応ガイドラインに触れて	N.3.3T	
14) 復習 練習問題 いままでの講義をふ	りかえつく	
15) 授業のまとめ・試験対策		
	ゃんからの食物アレルギー正しい対処	』, 2020 年,芽はえ社
[参考文献] 『子どもと保育』 (0 歳児〜!	5 歳児),かもがわ出版	
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(30%) ②実技・作品発表(%)		
【定期試験】		
①筆 記 試 験 (70%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験 (%)		
☑ 受講	態度その他必要と認められる事項を学	修成果の評価に加味する
平常点評価 口 受講	態度その他必要と認められる事項を学	修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験・レポ	ート課題について、正答・解答のポイ	ント等を練習問題で開示する。
Entra Land		

ても領征子符		1						
授業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実							
子どもの食と栄養 	講義	#上 かおる						
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター						
[授業の目的・ねらい] 健康な生活を営むために食生活が基本であることを理解し、食生活の意義や栄養 主に対応するDP								
に関する基礎知識を学ぶ。子どもの発育・発達と食生活、食育を理解し保育現場で対応できる力をつける 1,2								
提案生体の内容の概要」 一世をもの発育・ 識を学び、現在の食生活上の問題を考える		E本人を通して、基本的な食生活に関する知 できるように淀羽を取り入れる						
		どもの食生活や栄養に関する知識を習得す						
		の職員と連携しながら計画・実践していくこ						
とができるようになる。								
[授業の日程と各回のテーマ・	内容・授業方法]	[準備学修の内容]						
1) 小児期の栄養と食生活(保育と小児栄養	&・小児の特徴) グ/	ループワーク						
2) 小児の発育・発達と栄養(保育現場にお	おける栄養状態の把握) グル	ループワーク						
3) 栄養に関する基礎知識 1	自久	分の食生活を振り返る5日間						
4) 栄養に関する基礎知識2(食事バランス	スガイド) 朝:	食について考える						
5) ポスターを作ろう! (朝食について)	J)	ループ活動						
6) ポスター発表・	グ	ループ活動						
7) 乳児期の食生活(乳児期の発達・乳汁学	ド養・離乳食)							
8) 幼児期の食生活(食環境の問題・間食に	こついて)							
9) 保育現場でおこる問題・保護者の相談だ	いらこどもの食生活を考えるグ	ループワーク・食に関する事故を知る						
10) 学齢期・思春期の食生活 生涯発達と	食生活・家庭や児童福祉施設							
11) 特別な配慮を要する子どもの食生活(アレルギー食・特別食)							
12) 0歳児からのクッキング保育	<u>ク</u> :	ッキング計画作成						
13) 0歳児から5歳児の食育活動	食 ⁻	育計画作成						
14) 復習とまとめ								
15) 定期試験(到達度の確認)								
[使用テキスト]								
小川雄二(著),『子どもの食と栄養演習	(第6版)』,2022年,建帛社							
[参考文献]								
 [試験の方法と学修成果の評価基準]								
【平常試験】								
① 到達度の確認(10%)								
② 実技・作品発表(10%)								
【定期試験】								
① 筆 記 試 験 (60%)								
② レポート(20%)								
③ 実技試験(%)								
④ 面接試験(%)								
平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する								
□ 受講	態度その他必要と認められる事項を	を学修成果の評価に加味しない						
[フィードバックの方法]								
正答を試験終了後に開示する								
[備考]								

ととも福祉学科								
授業のタイトル (科目名)	技·実習) 授業担当者							
子どもと表現	甲〆 由利子・井下 べに							
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1 セメスター						
□ 実務経験								
[授業の目的・ねらい]		主に対応するDP						
乳幼児の発達や表出・表現する姿について	学び、子どもの表現について想	像力を豊かにしながら捉える視 1						
点と感性を養う。子どもの主体的な表現活動を引き出すための保育者の役割について理解し、環境構成や								
援助の仕方について学ぶ。								
[授業全体の内容の概要]								
		考文献をもとに視覚教材などを通して子どもの						
表出、および表現している姿や発達段階に	おける表現の違いについて理解	ける。 						
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 								
子どもの表出、および表現を認め、子ども								
子どもが主体的に表現できる環境作りや保								
[授業の日程と各回のテーマ・	・円谷・授業方法」	[準備学修の内容]						
1) オリエンテーション								
保育所保育指針『表現』の内容について								
2)~4)環境と身振り表現								
5)乳児の原身振りから幼児の身振り表現		授業で学習した内容を復習し、理解を深めて						
 6)身振り表現と文学	おく。							
7)乳児のごっこ遊びの実践事例								
	_							
8)幼児の身振り表現~劇づくりの実践事例	J~							
[使用テキスト]								
■山崎 由紀子 (著/文), 『身ぶり表現・	ごっこあそび・劇づくり』, 201	4年,フォーラム・A						
■その他:必要に応じて授業でプリントを	配布する							
[参考文献]								
[試験の方法と学修成果の評価基準]								
【平常試験】								
①到達度の確認(100%)課題、レオ	ペート							
②実技・作品発表 (%)								
【定期試験】								
①筆 記 試 験 (%)								
②レポート(%)								
③実 技 試 験 (%)								
④面 接 試 験 (%)								
■ 平常点評価	態度その他必要と認められる事							
	□ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない							
[フィードバックの方法]								
提出された課題にについて授業時、適宜にフィードバックを行う。								
[備考]								

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (言葉)	授業の種類(講義・演習・実技・実 演習	習) 授業担当者 正置 友子・高砂 朋子、他
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	正直 久 「同じ 加 」、 に 配当 1 セメスター
□ 実務経験		
		の「ことば」の発達過程を探 主に対応するDP
り、保育実習や保育現場で役立つ、ことば		
ことばを促す保育教材を研究・作成する。		
		主とするグループワークを設け、言葉の機
能(講義形式)と言葉を促す保育内容(演 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 言葉		外上 何世 兄 (きな明みは今よ。) まご
「位来修」時の達成課題(到達日標)」 言うペープサート、パネルシアター等 作成・		
[授業の日程と各回のテーマ		[準備学修の内容]
1) 絵本の世界①~保育の中の絵本~:講		子ども・保育問題に関する社会事象に目
乳児期・幼児期の絵本の世界を紹介し、年	齢・発達にそくした絵本について	を向け、新聞やニュースを見聞きしてお
学習する。実際に絵本の読み語りも行う。	Nr	くこと。
2) 絵本の世界②~保育の中の絵本~:講		前講を振り返りレポートを提出する。テ
乳児期・幼児期の絵本の世界を紹介し、年 学習する。たくさんの絵本の世界にふれ、		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
る絵本について学習する。	休日・秋日先勿での天日に伯がせ	
3) 内容における「言葉」の位置づけを学	び、ことばを促す児童文化財に触	前講を振り返りレポートを提出する。テ
れる。保育教材におけるパネルシアター①	=	ーマは授業内に説明する。
保育教材としてのパネルシアターの実演を	鑑賞し、どのように保育教材とし	
て活かしていくかについて学ぶ。	~の訊ウル オ ~は田~キャル 本料け し	
保育教材におけるパネルシアター② 実習なるパネルシアターの題材を選定する。	(の)設定保育 (使用 (ざる)保育教材と	
	題材の選定後、パネルシアターのPペ	前講を振り返りレポートを提出する。テー
ーパーへの下書き方法を学び作成する	Man	マは授業内に説明する。
5) 保育教材におけるパネルシアター④	実習での設定保育で使用できる保育教	
材となるシナリオ・指導案を作成する。		ーマは授業内に説明する。
		前講を振り返りレポートを提出する。テー
る。保育教材づくり ⑥パネルシアターのP.成する。	ペーパーを完成させる。シアターを作	マは授業内に説明する。
		前講を振り返りレポートを提出する。テー
7) 保育教材づくり ⑦パネルシアターを完	成させ、発表の練習・発表を行う。	マは授業内に説明する。
		前講を振り返りレポートを提出する。テー
を予定している】作品・保育技術へのコメン	トを行う。※保育園や地域活動で	マは授業内に説明する。
の発表会を予定している。 [使用テキスト] 準備物として、保育内容	(子宗
■厚生労働省(編), 『保育所保育指針解説		17年/20安員付は勝我的にて配仰する。
■文部科学省(著),『幼稚園教育要領解説	』, 2018年, フレーベル館	
■内閣府・文部科学省・厚生労働省(著),		
		出版 ■新沢としひこ(著),『はじめまし
		保育の本』, 2018年, 学研プラス ■永崎
みさと(作),『ハネルンテターで歌って: シアター』,1995 年,大東出版社 ■古宇		反 ■古宇田亮順(編), 『うたってパネル
		p出版社 ■関稚子(著), 『やっぱりパネ
ルシアターであそぼ』, 2000年, 大東出版	= :	
【平常試験】		
①到達度の確認 (40%)		
②実技・作品発表 (60%)		
【定期試験】		
①筆 記 試 験 (%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験 (%)		
☑ 受講	態度その他必要と認められる事項を	を学修成果の評価に加味する
平常点評価	態度その他必要と認められる事項	
		ートハックを11 7。
[備考] 平常点としてレポートの提出を求め		とよっとっと 仕口 よっと 1 - ツロ 本田 も 14
各種保育教材は提出期限に提出・返却。パ 城活動での発表会を予定している。保育園		

-とも保祉学科						
授業のタイトル (科目名) 保育内容 (表現)					者 由利子・井下 べに	
授業の回数 15 回	時間数(単位	数) 1 単位		配当	2 セメスター	
□ 実務経験		,	L			
「授業の目的・ねらい]					主に対応するDP	
保育内容における基礎的な表現技	を	x験することで子	どもにとっ	っての表現	しについて学 1	
ぶ。自らが表現者として即興的な劇づくりを取り組む事を通して、協力・協同しながらつくりあげ、表現						
を通した集団づくりを体験的に学ぶ。						
[授業全体の内容の概要]					L	
保育士・幼稚園教諭が、表現活動	かの指導を行う上で必要る	とされる知識、技	を 体験 自	りに習得 l	し、協同して取り組む。	
集団的議論の中で、企画・立案・	準備・作品完成の過程を	を通して、協同し	て取り組む	い事の重要	要性を習得する。	
 [授業修了時の達成課題(到達目を [対象を記載している。	標)]					
保育士・幼稚園教諭として必要と	される表現活動の知識	・技術の基礎を総	総合的に習行	导し、その	の成果を発表できる。	
また、保育現場における表現活動	かにとって重要な事を説明	明できる。				
[授業の日程と各回の	のテーマ・内容・授業方	法]		[準備		
1) 全体オリエンテーション						
様々なステップで動く、見えない	いものを見て動く					
2)~3)様々な遊びの中で人と気持	#ちを合わせ共有する > 2					
2) 3) (株々な近0 V) (「C)(C X(N	102 G 40 C 55 G 7 G C 6					
4)~6) 身振り表現、絵本の表現						
色々なリズムで動く			授業内で取り扱われた表現方法や表現技術に			
	(A) In 2 78 day	A > \	ついて復習しておく。			
7)~10) 絵本の分析, プレゼンテ	ーション(分析を発表し	合う)		_ 0 (40	• •	
	0	(Hada bi)				
11)~14)絵本から即興劇をつくる	5、プレゼンテーション	(即興劇)				
	1 7					
15) 授業のまとめ、幼児の劇を見	2.5					
「仕田ニよっ!」						
[使用テキスト]	1 <i>ナ</i> ナフ					
必要に応じて授業でプリントを配	2年9 る					
[参考文献]						
 [試験の方法と学修成果の評価基:	·····································					
	'毕」					
【平常試験】						
①到達度の確認(70%) 訓	果題、レポート提出					
②実技・作品発表(30%) 化	作品発表					
【定期試験】						
①筆 記 試 験(%)						
②レポート(%)						
③実 技 試 験 (%)						
④面 接 試 験 (%)						
平常点評価	☑ 受講態度その他必要	要と認められる事	¥項を学修6	成果の評価	町に加味する 一点では、	
十 市 从 計 川	□ 受講態度その他必要	要と認められる事	耳項を学修6	成果の評価	町に加味しない	
[フィードバックの方法]						
提出された課題にについて授業時、適宜にフィードバックを行う。						
[備考]						

子ども福祉学科							
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	・実習) 授業担当者					
乳児保育 I	講義	野村 朋					
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター					
☑ 実務経験 発達相談員として	乳幼児健診、育児支援、保育所巡回	相談の経験を活かし講義を行う					
[授業の目的・ねらい] 子どもの育ちを支え、保護者支援を行うことは今日の乳児保育において求められ 主に対応するDP							
ている保育者の役割である。乳児の保	ている保育者の役割である。乳児の保育の歴史と社会的意義を理解し発達に応じた保育方法を説明できる 1						
ようになる。							
	に応じた保育のあり方について基础	歴的な知識を学び、乳児保育において必要とさ					
れる基礎的な技能を修得する。							
[授業修了時の達成課題(到達目標)]	乳児保育に必要な養護内容・保育	「内容について説明し、実演できる。					
[授業の日程と各回のテー	マ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]					
1)本講義の目的・ねらい、概要、到達	目標、評価について説明を受ける	講義概要を読む(5分)					
2) 赤ちゃんの姿を知る:視聴覚教材を	と用いて生後1ヶ月間の乳児の発達	赤ちゃんの動画を視聴しておく(15分)					
の姿を具体的に知る。							
3) 乳児保育の一日:保育園における乳	L児の生活とあそびを知る	テキストの該当箇所を読んでおく(10分)					
0歳児の身体の特徴と集団保育における	る配慮点について学ぶ						
4) 乳児院における乳児の生活とあそび	ドを知る	テキストの該当箇所を読んでおく(10分)					
5) 基本的生活習慣の獲得と保育		テキストの該当箇所を読んでおく(10分)					
乳児の健康と安全を保障する。集団保	育における配慮点について学ぶ。						
6) 乳児保育における計画	/= Hg = Ho/4531 = 1	テキストの該当箇所を読んでおく(10分)					
保育所保育指針、全体的な計画、長期の利用の表における。	・短期の指導計画について字ふ						
7) 乳児保育における評価 保育計画・指導計画の必要性と乳児保育	をにおける評価の音差と古法につい	テキストの該当箇所を読んでおく(10分) 					
て学ぶ	けにおける計画の心教とかなに シャ・						
8) 乳児保育の実際 ゲストスピーカー	- を迎え、乳児保育の実践から学ぶ	 事前に提示された課題(15分)					
9) 乳児の発達と保育内容 ゲストスト							
体機能・対人関係の発達と保育につい		3.13.1-32.3 2.4.012.0002 (1.3.)37					
10) 乳児保育のあそびと環境 0歳児(テキストの該当箇所を読んでおく(10分)					
11) 乳児保育のあそびと環境 1歳児(テキストの該当箇所を読んでおく(10分)					
12) 乳児保育のあそびと環境 2歳児(のあそびと環境構成について学ぶ	テキストの該当箇所を読んでおく(10分)					
13) 乳児の養育環境と乳児保育の課題	ゲストスピーカーを迎え、保育	テキストの該当箇所を読んでおく(10分)					
所(又は乳児院)での乳児保育の実践							
14) まとめと到達度の確認 まとめを	行う	今までの復習 資料をまとめる(45分)					
15) まとめ テストにむけて講義全体	のまとめを行う						
		 児保育 改訂新版』,2014 年,フォーラム A					
	『ナともと休育 ∪ 成児 (ナどもとり	呆育 改訂版)』,2011年,かもがわ出版 必要					
に応じて授業内に紹介する							
[試験の方法と学修成果の評価基準]							
【平常試験】) - III II) I -						
	ートの提出と内容						
②実技・作品発表 (%)							
【定期試験】							
①筆 記 試 験 (70%) 講義内							
②レポート(%)							
③実 技 試 験 (%)							
④面 接 試 験 (%)							
₩ 中部体	受講態度その他必要と認められる事	項を学修成果の評価に加味する					
平常点評価	受講態度その他必要と認められる事	項を学修成果の評価に加味しない					
[フィードバックの方法] 試験後の模	 範解答を公開する						
[備考]							

アと も 徳祉子符					
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	・実習)	授業担当者		
乳児保育Ⅱ	演習		高砂 朋子他		
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位		配当 2 セメスター		
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい]			主に対応するDP		
乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえ、援助・	や関わりのあり方を具体的に理り	解する。	1, 2		
[授業全体の内容の概要]					
乳児保育に必要な知識を実践的に理解し、発達に そびの基礎を習得し、実習等で実践できるように		つける。発達	・月齢・年齢にあった手あそび・ふれあいあ		
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 乳児保	 育の基礎的な知識・技能を習得 [、]	する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内]容・授業方法]		[準備学修の内容]		
4) 本講義のオリエンテーション		乳児期の絵本	×を3冊選書して読んでおくこと。		
乳児保育の実際 排泄・清潔・食事について実	践的に学ぶ。		で学んだ資料を整理し、内容の理解を深め		
本講義の目的・ねらい、概要、到達目標、評価			テキストを読み返して復習しておく。		
5) 乳児保育の実際① 排泄・清潔・抱き方等			返りレポートを提出する。テーマは授業内		
着脱(オムツ替え)、沐浴、ミルクの調乳の際の	の留意点など、保育者として具				
体的な養護の方法について学ぶ(グループワー)	ク)				
教材用の赤ちゃん人形を用いて実技を行いなが	ら学ぶ。				
6) 乳児保育の実際② 排泄・清潔・抱き方等	について実践的に学ぶ。	前講を振り返	夏りレポートを提出する。テーマは授業内		
着脱(オムツ替え)、沐浴、ミルクの調乳の際の	の留意点など、保育者として具	に説明する。			
体的な養護の方法について学ぶ(グループワー)					
教材用の赤ちゃん人形を用いて実技を行いなが	ら学ぶ。 				
4) 乳児保育における環境と保育教材制作①			豆りレポートを提出する。 テーマは授業内に		
健康・安全を保障するために乳児期の身体の特別		説明する。			
ぶ。保育教材の制作と乳児期のあそびを実践的	こ習得する。 	\(\frac{1}{2} \)			
5) 乳児保育における環境と保育教材制作②	cold a merchanic man be be a second		返りレポートを提出する。テーマは授業内		
健康・安全を保障するために乳児期の身体の製		に説明する。			
ぶ。保育教材の制作と乳児期のあそびを実践的	と背侍する。	**************************************	= 10 1 2 1 2 1 2 1 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2		
6) 乳児保育における保育の計画	化送引声 おほの部位について		豆りレポートを提出する。テーマは授業内に		
保育所保育指針、全体的な計画、長期・短期の 学ぶ。乳児保育の実践から学ぶ。	有导計画、記録や評価について	祝明 9 る。			
7) さまざまな保育課題と保育内容		前鎌を振り返	返りレポートを提出する。 テーマは授業内に		
乳児保育の実践から学ぶ。		説明する。	とりレか一下を近山りる。ノーマは反来門に		
8) 授業のまとめ・到達度の確認。正答について	解説 保育技術へのコメント		ラりレポートを提出する テーマけ授業内に		
を行う。まとめを行い到達度の確認をする。授		説明する。			
授業のまとめを資料集(教材)として製本を予定		WE > 1 > 00			
[使用テキスト] 適宜、必要なプリントを配布し	i				
■厚生労働省(編), 『保育所保育指針解説』,					
■文部科学省(著), 『幼稚園教育要領解説』,					
■内閣府・文部科学省・厚生労働省(著),『ジ		呆育要領解説。	』, 2018年, フレーベル館		
[参考文献] ■内閣府(編),『子ども・子育					
書』,ひとなる書房 ■保育小辞典編集委員会					
語辞典』、ミネルヴァ書房 ■厚生労働省(編)					
と楽しむ手あそび・わらべうた』,2010年,か	もがわ出版 ■松本園子(編著) , 『乳児の	生活と保育』, 2019年, ななみ書房 ■宍		
戸 健夫 (監), 大阪保育研究所 (編), 『テキュ	スト乳児保育』,2014 年,フォ	ーラム・A ■	■『シリーズ 子どもと保育 0歳児』		
■その他:授業内で必要に応じて絵本、著書を	紹介する				
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認(60%)					
②実技・作品発表 (40%)					
【定期試験】					
①筆 記 試 験 (%)					
②レ ポ ー ト (%)					
③実 技 試 験 (%)					
④面接試験(%)					
	能度その他必要と認められる事	「事業を表現した」	の評価に加味する		
平常点評価					
□ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない (2.7.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.					
[フィードバックの方法] 最終講:正答について					
[備考] 乳児保育 [での指定テキスト参照。乳児	L保育Ⅰの授業レジュメ・資料等	ジェイル L	たものに追加して綴るよう取り組む。		

[際がいをもつ子どもの保育についての基礎知識を習得し、権利としての際がい児保育の在り方を学ぶ 1.2 [授業を体の内容の概要] 際がいについての基礎的な知識と保育上の留置点について学び、関係機関の種類と役割を判り、連携の必要性について学ぶ。 [授業の日報と保障する保育の在り方について考察することができる [授業の日報と保障的の知識を持ち、障害をもつ子どもの発達を保障する保育の在り方について考察することができる [授業の日報と各回のテーマ・内容・授業方法] [準備学核の内容] [準備学核の内容] [準備がいとは何か、「帰がい」をどのようにとらえるか、身近な例をもとにြ険がいめ定義・種類・基本的な考え方を学ぶ	子ども福祉学科					
投業の回数 1.5 回 時間数(単位数) 2 単位 配当 2 セメスター 日東後経験 を持計論員としての経験を活かし業事児保育の実験と発達保障について授業を行う 住業の目的 いちもい	授業のタイトル (科目名)		授業の種類(講義・演習・実技・	・実習)	授業担当者	
図 実務経験 発達和議員としての経験を活かし陽管児保育の実際と発温保障について技楽を行う 接着の必要性についての基礎知識を背待し、検刺としての概がい児保育の在り方を学ぶ 1.2 授業全体の内容の假要 除かいについての基礎知識を関係したの報音点について学び、関係機関の種類と役割を対 1.2 授業分析的な課題 (領達目標) 除かいについて等談 1.2 接着の必要性について学ぶ 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2 1.2	障害児保育		演習		野村	朋
接刺しとしてアとしの保育についての基礎知識を習得し、権利としての除がい児保育の在り方を学ぶ 1.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	授業の回数 15 回	受業の回数 15 回 時間数(単位数) 2 単位			配当 2 セメ	スター
除がいをもつ子どもの保育についての基礎知識を習得し、権利としての除がい現保育の在り方を学ぶ 1.2 (接套金体の内容の概要) 陳がいについての基礎的な知識と保育上の宿意点について学び、関係機関の種類と役割を負 5 、連携の必要性について学ぶ 関係のと要性について学ぶ 「操作学をの内容) マキストの該当箇所を設計 とに築がいの定義・種類・基本的な考え方を学ぶ 一次ネストの該当箇所を設計 ラキストの該当箇所を設計 「操作いについての基礎知識②	☑ 実務経験 発達相談員	としての経験	を活かし障害児保育の実際と発	・達保障は	こついて授業を行う	
(要素全体の内容の製型) 障がいについての基礎的な知識と保育上の留意点について学び、関係機関の種類と役割を対 9、進売の必要性について学ぶ [接塞の日程と各回のテーマ・内容・接案方法] 「評価学修の内容] (政策のようにとは何か、「確かい」をどのようにとらえるか、身近な例をも テキストの該当箇所を設む とに確かいの定義・種類・基本的な考え方を学ぶ 2)除がい者を到解消法と合理の原題 グラストの政治を関すを設む テキストの政治協所を設む とに確かいの定義・種類・基本的な考え方を学ぶ 2)除がいるを到解消法と合理の原題 復覚強かいについて学ぶ テネストの政治協所を設む の 関がいについての基礎知識② 改革がいてついて学ぶ テネストの政治協所を認む の 関がいについての基礎知識② 改革がいてついて学ぶ テネストの政治協所を認む の 関がいについての基礎知識② 放射を強いについて学ぶ テネストの政治協所を認む の 関がいについての基礎知識② 放射をがいてついて学ぶ テネストの政治協所を認む の 関がいについての基礎知識② 以内的違いについて学ぶ テネストの政治協所を認む の 関がいについての基礎知識③ LD、ADED について学ぶ テネストの政治協所を認む 学ぶ 8)除がいについての基礎知識③ LD、ADED について学ぶ テネストの政治協所を認む 学ぶ 8)除がいについての基礎知識③ LD、ADED について学ぶ テネストの政治協所を認む 学ぶ 10)除がいてのなどの表礎知識③ 薬動に表をもつ子どもの保育 テネストの政治協所を認む 要な子ともの保育について学ぶ 20 産メトとの保存を記む アキストの政治協所を認む アキストの政治協に対した課題に取り組む アキストの政治協所を認む アキストの政治協所を認む アキストの政治協所を認む アキストの政治協所を認む アキストの政治協所を認む アキストの政治協所を認む アキストの政治協に対した課題に取り組む アキストのに分の表別 アキストの政治協所 アキストの政治協に対した課題に取り組む アキストのといの表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の表別の	[授業の目的・ねらい]					主に対応するDP
技業係の必要性について学ぶ 技業係で再の連進機関 (到達世界) 「準備学修の内容) 「準備学修の内容) 「準備学修の内容] 「でネストの該当箇所を読む とに様がいて速速・機動。 基本的な考え方を学ぶ 「デネストの該当箇所を読む 「デネストの該当箇所を読む 「デネストの該当箇所を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのにでの基礎知識() 「財産のいて学ぶ 「デネストのは当箇所を読む 「中華のいての基礎知識() 「財産のいてで多ぶ 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのにでも適用を読む 「でネストのにでも適用を読む 「でネストのにでも適用を読む 「でネストのにでも適用を読む 「でネストのにでも適用を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でネストのは当箇所を読む 「でまたを持つの表情の重要と見み 「でネストのは当箇所を読む 「でまたを持つの表情の重要と見み 「でネストのは当箇所を読む 「でまたを持つる実施」 「でネストスピーカーを招く 「でが、児保育の実際」 「アイフナイタルを通した発達保障のあり 「本部に提示した課題に取り組む 「本名に関しての表情 「「本の表情」 「本の表情	障がいをもつ子どもの保育につ	ついての基礎類	口識を習得し、権利としての障	がい児保	育の在り方を学ぶ	1, 2
接来修了時の造成問題 (判達日標) 陳南をもつ子どもの発達を保障する依着の在り方について考察することができる	[授業全体の内容の概要] 障点	がいについて	の基礎的な知識と保育上の留意	意点につい	いて学び、関係機関の	種類と役割を知
図がいたついて基礎的な知識を持ち、陽害をもつ子どもの発達を保障する保育の在り方について考察することができる	り、連携の必要性について学る	,, ,,				
接続からは何か:「障がい」をどのようにとらえるか、身近な例をもとに降がいりに有が、「摩がい」を必要を与え方を学ぶ では、						
1) 隣がいとは何か;「隣がい」をどのようにとらえるか、身近な例をもとに障がいの定義・種類・基本的な考え方を学ぶ 2) 隣がいき強別解消法と合理的配態 3) 隣がいについての基礎知識② 歴史解がいについて学ぶ テキストの該当箇所を読む 4) 隣がいについての基礎知識② 歴史解がいについて学ぶ テキストの該当箇所を読む 5) 隣がいについての基礎知識② 股体不自由について学ぶ テキストの該当箇所を読む 6) 隣がいについての基礎知識② 別は不自由について学ぶ テキストの該当箇所を読む 7) 隣がいについての基礎知識② 別は不自由について学ぶ テキストの該当箇所を読む 7) 隣がいについての基礎知識③ ID、ADHDについて学ぶ アキストの該当箇所を読む 2学ぶ 8) 隣がいについての基礎知識② 医療との連携・医療的ケアが必 要な子どもの保育について学ぶ 10) 確がいについての基礎知識② 運動障害をもつ下どもの保育 11) 障がい見代育と強主技の関係機関 専門機関で「軟育 アキストの該当箇所を読む 2と到達点についての基礎知識② 運動障害をもつ下どもの保育。 アキストの該当箇所を読む 2と到達点についての基礎知識② 運動障害をもつ下どもの保育。 アキストの該当箇所を読む フキストの該当箇所を読む フキストの政当箇所を読む フキストの政当箇所を読む フキストの政当箇所を読む フキストの政当箇所を読む フキストのお当箇所を読む フキストのお当箇所を読む フキストのより 第年にといて学ぶ 13) 障がい見保育の実際② デストスピーカーを招く 「使用テキスト」 野村別「派木美知子(著)、「主体性をはぐくむ確がい児保育」。2020 年、文理閣 「参考文献」 白石正久(文)、「実達の属(下)」、1996年、かもがわ書店 「試験の方法と学修成果の評価基準」 【平常談別 ①到達度の確認(20%) (小レボートの提出と内容評価 ②実技・作品を支(%) 【企期診験】 ① 到達度の確認(20%) (本語を実) (本語を表) (本				保育の在	り方について考察する	ることができる
とに除がいの定義・種類・基本的な考え方を学ぶ 2 降気いる差別解消法と合理的配慮 3 降がいについての基礎知識① 担意降がいについて学ぶ テキストの該当箇所を読む 4 除がいについての基礎知識② 敷食除がいについて学ぶ テキストの該当箇所を読む 5 除がいについての基礎知識② 知的障がいについて学ぶ アキストの該当箇所を読む 6) 除がいについての基礎知識③ 知的障がいについて学ぶ アキストの該当箇所を読む 7 除がいについての基礎知識④ 知的障がいについて学ぶ アキストの該当箇所を読む 7 除がいについての基礎知識④						系]
2) 酸がい者差別解消法と合理的配慮 3) 限分いについての基礎知識() 視覚験がいについて学ぶ テキストの該当箇所を読む 4) 障がいについての基礎知識() 腹質療がいについて学ぶ テキストの該当箇所を読む 5) 障がいについての基礎知識() 数的療がいについて学ぶ テキストの該当箇所を読む 5) 障がいについての基礎知識() 数的療がいについて学ぶ テキストの該当箇所を読む 5) 障がいについての基礎知識() 知的療がいについて学ぶ テキストの該当箇所を読む 2) 障がいについての基礎知識() 医療との連携・医療的ケアが必 テキストの該当箇所を読む 要な子どもの保育について学ぶ 10) 障がいについての基礎知識() 連動験書をもつ子どもの保育 テキストの該当箇所を読む 要な子どもの保育について学ぶ 11) 障がいについての基礎知識() 専門機関(の検育) テキストの該当箇所を読む 要な子どもの保育(こついて学ぶ 12) 障がいたついての基礎知識() 専門機関での検育 12) 障がいたついての基礎知識() 専門機関での検育 12) 障がいを持つ子どもの保育の歴史と現状 障がい児保育・教育の歴 テキストの該当箇所を読む アキストの該当箇所を読む アキストの該当所を読む アキストの該当箇所を読む アキストの該当箇所を読む アキストの該当所を読む アキストの該当所を読む アキストの該当所を読む アキストの該当所を読む アキストの該当所を読む アキストの該当箇所を読む アキストの該当箇所を読む アキストの該当箇所を読む アキストの意味の言意と表しまる アキストの意味の言語といる意味の意味の意味の意味の意味の意味の意味の意味の意味の意味の意味の意味の意味の意				テキスト	の該当箇所を読む	
3 除がいについての基礎知識① 根党除がいについて学ぶ テキストの該当箇所を読む			· 学ぶ	- 1		
### 1						
5) 陸がいについての基礎知識③ 肢体不自由について学ぶ テキストの該当箇所を読む						
(5) 陰がいについての基礎知識② 知的障がいについて学ぶ テキストの該当箇所を読む						
学ぶ 8) 障がいについての基礎知識⑥ LD、ADHDについて学ぶ テキストの該当箇所を読む 9) 障がいについての基礎知識⑥ 医療との連携・医療的ケアが必 テキストの該当箇所を読む 要な子どもの保育について学ぶ 10) 障がいについての基礎知識⑥ 専門機関での療育 テキストの該当箇所を読む 11) 障がいに保育と発達支援の関係機関 専門機関での療育 テキストの該当箇所を読む 12) 障がい、足保育と発達支援の関係機関 専門機関での療育 テキストの該当箇所を読む 12) 障がい、足保育の実際① ゲストスピーカーを招いて、障がい児保育の実際について学ぶ 13) 障がい児保育の実際② 家族の障がい受容と成長 ゲストスピーカーを招いて知る 14) 障がい児保育の実際② 家族の障がい受容と成長 ゲストスピーカーを招いて知る 14) 障がい児保育の実際② ライフサイクルを通した発達保障のあり 事前に提示した課題に取り組む カンを招く 15) 障がい児保育の実際③ ライフサイクルを通した発達保障のあり 事前に提示した課題に取り組む カを学ぶ ゲストスピーカーを招く [使用テキスト] 野村削/荒木美知子(著)、『主体性をはぐくむ障がい児保育』、2020年、文理閣 [参考文献] 白石正久(文)、『発達の扉(下)』、1996年、かもがわ書店 [民験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①筆 記 試 験(80%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験(80%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験(80%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①章 記 試 験(80%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①章 記 試 験(80%) ②実技・作品発表(%) 【で期試験】 ①章 記 試 験(80%) ②実技・作品発表(%) 【で期試験】 ①章 記 試 験(80%) ②実技・作品発表(%) 【で期試験】 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない						
8) 障がいについての基礎知識①		(5)	闭症スペクトフムについて	アキスト	の該当箇所を読む	
9) 障がいについての基礎知識① 医療との連携・医療的ケアが必要な子どもの保育について学ぶ 10) 障がいについての基礎知識③ 運動障害をもつ子どもの保育 テキストの該当箇所を読む 11) 障がい児保育を発達支援の関係機関 専門機関での疾育 テキストの該当箇所を読む 史と到達点について学ぶ 12) 障がいた持つ子どもの保育の歴史と現状 障がい児保育・教育の歴史と到達点について学ぶ 13) 障がい児保育の実際① ゲストスピーカーを招いて、障がい児保育 事前に提示した課題に取り組む の実際について知る 14) 障がい児保育の実際② 家族の障がい受容と成長 ゲストスピーカーを招く 15) 障がい児保育の実際② 家族の障がい受容と成長 ゲストスピーカーを招く 16) 障がい児保育の実際③ ライフサイクルを通した発達保障のあり 事前に提示した課題に取り組む カカーを招く 16) 障がい児保育の実際③ ライフサイクルを通した発達保障のあり 事前に提示した課題に取り組む カを学ぶ ゲストスピーカーを招く [使用テキスト] 野村朋/荒木美知子(著),『主体性をはぐくむ障がい児保育』, 2020 年、文理閣 [参考文献] 白石正久(文), 『発達の扉〈下〉』, 1996 年、かもがわ書店 [武験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(20%) 小レポートの提出と内容評価 ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ① 質達 記 試 験 (80%) 講義内容の知識と理解を問う ② レ ポート (%) ③実 技 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する	* -		ADID について学さ	ニキッし	の数単質形を表す。	
要な子どもの保育について学ぶ 10) 障がいについての基礎知識® 運動障害をもつ子どもの保育 テキストの該当箇所を読む アキストの該当箇所を読む アキストの該当箇所を読む アキストの該当箇所を読む アキストの該当箇所を読む アキストの該当箇所を読む アキストの該当箇所を読む 東と到達点について学ぶ 13) 障がい児保育の実際① ゲストスピーカーを招いて、障がい児保育 事前に提示した課題に取り組むの実際について知る 14) 障がい児保育の実際② 家族の障がい受容と成長 ゲストスピーカーを招く 事前に提示した課題に取り組む 事前に提示した課題に取り組む 事前に提示した課題に取り組む 方を学ぶ ゲストスピーカーを招く 15) 障がい児保育の実際③ ライフサイクルを通した発達保障のあり 事前に提示した課題に取り組む 方を学ぶ ゲストスピーカーを招く [使用テキスト] 野村朋/荒木美知子(著),『主体性をはぐくむ障がい児保育』,2020年、文理閣 [参考文献] 白石正久(文),『発達の扉〈下〉』,1996年,かもがわ書店 [試験の方法と学修成果の評価基準] [平常試験] ①到達度の確認(20%) 小レポートの提出と内容評価 ②実技、作品発表(%) 「定期試験] ①到達度の確認(20%) 「ルレポートの提出と内容評価 ②実技、作品発表(%) 「定期試験] ②章 記 試 験(80%) 講義内容の知識と理解を問う ②レ ボ ート (%) 「						
10) 障がいについての基礎知識® 運動障害をもつ子どもの保育 テキストの該当箇所を読む テキストの該当箇所を読む テキストの該当箇所を読む テキストの該当箇所を読む テキストの該当箇所を読む テキストの該当箇所を読む テキストの該当箇所を読む サンストのでできる					・の政当面別を凱む	
11) 障がい児保育と発達支援の関係機関 専門機関での療育 テキストの該当箇所を読む 12) 障がいを持つ子どもの保育の歴史と現状 障がい児保育・教育の歴 テキストの該当箇所を読む 史と到達点について学ぶ 13) 障がい児保育の実際① ゲストスピーカーを招いて、障がい児保育 事前に提示した課題に取り組む の実際について知る 14) 障がい児保育の実際② 家族の障がい受容と成長 ゲストスピ 事前に提示した課題に取り組む ーカーを招く 15) 障がい児保育の実際③ ライフサイクルを通した発達保障のあり 事前に提示した課題に取り組む カを学ぶ ゲストスピーカーを招く [使用テキスト] 野村朋/荒木美知子(著)、『主体性をはぐくむ障がい児保育』、2020年、文理閣 [参考文献] 白石正久(文)、『発達の扉〈下〉』、1996年、かもがわ書店 [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(20%) 小レポートの提出と内容評価 ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験(80%) 講義内容の知識と理解を問う ②レ ポート(%) ③実 技 試 験(%) ④面 接 試 験(%) ④面 接 試 験(%) ④面 接 試 験(%) 「フィードバックの方法] 試験終了後、模範解答を公開する			動除宝をもつ子どもの保育	テキスト	の該当第形を読む	
12 障がいを持つ子どもの保育の歴史と現状 障がい児保育・教育の歴 史と到達点について学ぶ 13 障がい児保育の実際①						
史と到達点について学ぶ 13) 障がい児保育の実際① ゲストスピーカーを招いて、障がい児保育 事前に提示した課題に取り組むの実際について知る 14) 障がい児保育の実際② 家族の障がい受容と成長 ゲストスピ 事前に提示した課題に取り組む一カーを招く 15) 障がい児保育の実際③ ライフサイクルを通した発達保障のあり 事前に提示した課題に取り組む方を学ぶ ゲストスピーカーを招く [使用テキスト] 野村朋/荒木美知子(著),『主体性をはぐくむ障がい児保育』,2020年,文理閣[参考文献] 白石正久(文),『発達の扉〈下〉』,1996年,かもがわ書店 [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(20%) 小レポートの提出と内容評価 ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験(80%) 講義内容の知識と理解を問う ②レ ボ ー ト (%) ③実 技 試 験(%) ④面 接 試 験(%) ④面 接 試 験(%) 平常点評価 【② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 試験終了後、模範解答を公開する						
13) 障がい児保育の実際①		内が歴入し別	八 年 / 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	, (,,,		
14 障がい児保育の実際② 家族の障がい受容と成長 ゲストスピ 事前に提示した課題に取り組む 中カーを招く 一カーを招く 一方を学ぶ ゲストスピーカーを招く 一方を学ぶ ゲストスピーカーを招く 一方を学ぶ ゲストスピーカーを招く 一度用デキスト 野村朋/荒木美知子(著),『主体性をはぐくむ障がい児保育』,2020年,文理閣 「変考文献 日石正久(文),『発達の扉〈下〉』,1996年,かもがわ書店 「正常歌歌」 「正常歌歌」 「小レポートの提出と内容評価 「で書歌歌」 小レポートの提出と内容評価 ②実技・作品発表(%) 「定期試験」 「定期試験」 「正期試験」 「変講と理解を問う 「変講態度をの知識と理解を問う 「変講態度をの他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「で書記で聞います。」 「で書意に関係である事項を学修成果の評価に加味する 「で書意に関係である。」 「できに関係である。」 「できに関係できに関係できに関係できに関係できに関係できに関係できに関係できに関係	13) 障がい児保育の実際①	ゲストスピー	-カーを招いて、障がい児保育	事前に提		t _e
- カーを招く 15) 障がい児保育の実際③ ライフサイクルを通した発達保障のあり 事前に提示した課題に取り組む 方を学ぶ ゲストスピーカーを招く [使用テキスト] 野村朋/荒木美知子(著), 『主体性をはぐくむ障がい児保育』, 2020 年, 文理閣 [参考文献] 白石正久(文), 『発達の扉〈下〉』, 1996 年, かもがわ書店 [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(20%) 小レポートの提出と内容評価 ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (80%) 講義内容の知識と理解を問う ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ②で 業計 験 (%) ②で 実践をの他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 試験終了後、模範解答を公開する	の実際について知る	,	77 234 7 77 7 7 2 7 2 7 3 7 3 7 3 7 3 7 3 7 3	3 133. 32		
15) 障がい児保育の実際③	 14) 障がい児保育の実際②	家族の障がい	ハ受容と成長 ゲストスピ	事前に提		te
方を学ぶ ゲストスピーカーを招く [使用テキスト] 野村朋/荒木美知子(著),『主体性をはぐくむ障がい児保育』,2020年,文理閣 [参考文献] 白石正久(文),『発達の扉〈下〉』,1996年,かもがわ書店 [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(20%) 小レポートの提出と内容評価 ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆記試験(80%) 講義内容の知識と理解を問う ②レポート(%) ③実技試験(%) ④面接試験(%) ④面接試験(%) 中常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「フィードバックの方法] 試験終了後、模範解答を公開する	ーカーを招く					
[使用テキスト] 野村朋/荒木美知子(著),『主体性をはぐくむ障がい児保育』,2020年,文理閣 [参考文献] 白石正久(文),『発達の扉〈下〉』,1996年,かもがわ書店 [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(20%) 小レポートの提出と内容評価 ②実技・作品発表(%) 「定期試験】 ①筆 記 試 験(80%) 講義内容の知識と理解を問う ②レ ポ ー ト (%) ③ ③実 技 試 験 (%) 「のいまします」 ②実 は 試 験 (%) 「のいまします」 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「フィードバックの方法」 試験終了後、模範解答を公開する	15) 障がい児保育の実際③	ライフサイ:	クルを通した発達保障のあり	事前に提	よいた課題に取り組 を	ts
[参考文献] 白石正久(文), 『発達の扉〈下〉』, 1996年, かもがわ書店 [試験の方法と学修成果の評価基準] ①到達度の確認(20%)	方を学ぶ ゲストスピーカー	ーを招く				
【試験の方法と学修成果の評価基準】 ①到達度の確認(20%) 小レポートの提出と内容評価 ②実技・作品発表(%) (%) 【定期試験】 講義内容の知識と理解を問う ②レ ポ ー ト(%) (%) ③実 技 試 験(%) (%) ④面 接 試 験(%) (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「フィードバックの方法] ○ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 【フィードバックの方法】 試験終了後、模範解答を公開する	[使用テキスト] 野村朋/荒木	美知子(著),	『主体性をはぐくむ障がい児侶	· 呆育』,2	020 年,文理閣	
【平常試験】 ①到達度の確認(20%) ハレポートの提出と内容評価 ②実技・作品発表(%)	[参考文献] 白石正久(文),	『発達の扉	〈下〉』, 1996年, かもがわ書			
①到達度の確認(20%) 小レポートの提出と内容評価 ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (80%) 講義内容の知識と理解を問う ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 試験終了後、模範解答を公開する	[試験の方法と学修成果の評価	基準]				
②実技・作品発表 (%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (80%) 講義内容の知識と理解を問う ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 試験終了後、模範解答を公開する	【平常試験】					
【定期試験】 ①筆 記 試 験 (80%) 講義内容の知識と理解を問う ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 試験終了後、模範解答を公開する	①到達度の確認 (20%)	小レポートの	の提出と内容評価			
 ①筆 記 試 験 (80%) 講義内容の知識と理解を問う ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 試験終了後、模範解答を公開する 	②実技・作品発表 (%)					
②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 試験終了後、模範解答を公開する	【定期試験】					
③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 試験終了後、模範解答を公開する	①筆 記 試 験 (80%)	講義内容の	印識と理解を問う			
④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 試験終了後、模範解答を公開する						
平常点評価 ☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 試験終了後、模範解答を公開する						
平常点評価 □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 試験終了後、模範解答を公開する	④面 接 試 験 (%)					
□ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 試験終了後、模範解答を公開する	平常点評価	☑ 受講館	態度その他必要と認められる事	項を学修	成果の評価に加味する	5
試験終了後、模範解答を公開する	□ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない					۲V)
		1				
L備考」		する				
	[[順考] 					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。子ども福祉学科 授業のタイトル (科目名) 授業の種類(講義・演習・実技・実習) 授業担当者 北川 拓 社会的養護Ⅱ 渖習 授業の回数 8 回 時間数(単位数) 1 単位 セメスター 配当 ☑実務経験 児童福祉司の経験を活かし、実践の場で応用できる支援方法や援助技術が身につく授業を行う。 [授業の目的・ねらい] 主に対応するDP 社会的養護の現状や児童福祉をめぐる最新の動き、児童福祉施設での子どもとの関わり方や、施設の目 1 的・機能、施設職員の役割などを理解するとともに、現代の社会情勢も併せて理解する。 [授業全体の内容の概要] 居住型児童福祉施設におけるソーシャルワーク支援とはなにか、施設実習の目的、意義、支援内容、実習記録の書き方 を身につける。 「授業修了時の達成課題(到達目標)] 「子どもは権利の主体者である」とはどういうことか、対人援助に必要な「自己覚知」とは何か、居住型児童福祉施設 実習に向けて求められる知識や技能を身につける。 [授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] [準備学修の内容] 1) オリエンテーション: 施設実習に向けての心構えと準備 児童福祉法第37条〔乳児院〕 ・居住型児童福祉施設における「支援内容」・「ソーシャルワークとは」 児童福祉法第 41 条「児童養護施設] ・演習:守秘義務とは(個人情報保護のポイント) 上記について調べる ・課題レポート (児童養護のイメージ) 2) 社会的養護の下で暮らす子どものたちへの理解 「自己覚知」の意味を調べる ・アドミッションケアからアフターケアまで ・社会的養護の下で暮らす子どもの理解 ・課題レポート:対人援助に必要な「自己覚知」とは 3) 児童福祉施設実習の目的・意義 「社会的養護」の意味を調べる ・目的、意義についての講義 ・演習:「施設実習における演習問題」 (演習事例問題についてレポート作成) 4) 実習記録の目的と意義 「受容とは」なにか調べる 実習記録の目的と具体的記載内容 ・観察と考察の書き方の違いと留意点 5) 里親制度について 愛着 (アタッチメント) について調べる ・新しい社会的養育ビジョンと里親制度 ・里親 Q&A 6) 児童虐待防止への対応(告知と通告・虐待の発見) 児童虐待の対応件数の推移を調べる ・虐待の種類と特徴 ・虐待と事故の見分け方 ・関係機関との連携・社会資源の活用 7) 保育実習課題 (居住型児童福祉施設) 作成の留意点 児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解 ・現場実習課題作成のポイント 施設実習で特に学びたいこと3つを考える 8) 全体のまとめ ・児童虐待(事例問題)関係機関ネットワーク演習 ・全体の振り返り ・施設実習での自己課題(実習で学びたいことを3点あげる)下書き 「使用テキスト」毎授業ごとに資料を配布する [参考文献] [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到 達 度 の 確 認(50%) 平常時における提出物、授業態度や学習意欲によって評価する ②実技・作品発表(【定期試験】 ①筆 記 試 験(50%) 卜 ((2) V ポー %) %) ③ 実 技 試 験(④面 接 試 験(%)

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

平常点評価

[備考]

[フィードバックの方法]毎時間ごとに全体の振り返りと質問時間を設ける。毎授業で課題レポートを提出する

☑受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する

□ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

授業のタイトル	(科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者	
子	育て支援	演習	伊藤 達	哉
授業の回数 8	口	時間数(単位数) 1 単位	配当 2 セメ	スター
☑ 実務経験	保育士の経験を活かし、	保育所における地域の子育て支援の方法	、具体的な事例を紹介)する
[授業の目的・ねら	٥١١]			主に対応するDP
子ども・保護者・家庭の抱える支援のニーズや背景を理解し、保育士が行う子育て支援の特性について学				2
び、具体的な実践事例を通して、保育相談による支援方法や展開方法についての知識と技術を身につける				
ことを目的とする。				
[授業全体の内容の概要]				

現代社会では、核家族化や地域との関わりも希薄となるなど生活・社会環境が変化したため、子育てが難しい社会とな り、子育てをする保護者や子育て家庭が孤立する傾向にある。そのような保護者や子育て家庭の背景、多様なニーズに対 する支援等、保育所保育指針に基づく子育て支援の基本について概説する。また、具体的な事例から子育て支援の展開に 必要な支援・援助方法について説明し、保育士が行う多様な子育て支援についての講義や演習を行う。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

- 1. 保育士が行う子育て支援について、社会的な背景を理解し、求められる子育て支援について説明できる。
- 2. 保護者に対する保育相談援支援(相談援助、情報提供、行動見本の提示等)について理解し、説明することができる。
- 3 保育士が行う子育で支援について 実践事例から多様か場面における支援の方法や技術について理解し、説明するこ

3. 保育士が行う子育て支援について、実践事例から多様な場面における支援の方法や技術について理解し、説明するこ								
とができる。	とができる。							
[授業の日程と各回の)テーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]						
1) オリエンテーション、各制原	要からの子育て支援制度 であるの子育で支援制度	『保育所保育指針解説書(解説書)』p. 13-18 を熟読						
	変遷、子育て支援の必要性について	しまとめる。(各 60 分)						
2) 保育士が行う子育て支援の物		解説書 p. 328-332 を熟読しまとめる。(60 分)						
子育て支援の基本、子育で	支援に求められる保育者の役割	子育て支援の基本と保育者の役割をまとめる。						
		(60分)						
3) 保育所における子育て支援		保育所における子育て支援の具体的事例について						
	・支援計画・環境構成・実践の展開	(60分) ロールプレイで事例対応。(60分)						
4) 子育て支援の実際(内容・プラスドナ 四級 4 2 2 4 2 2 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		実習園での子育て支援をまとめる。(60分)						
5) 子育て支援の実際(内容・)	巴握し、子ども理解の方法と展開 	ロールプレイで事例対応。 (60分) 保護者理解・対応について調べる。 (60分) 保護						
保護者理解から子育て支援		者への相談援助をロールプレイで事例対応。(60)						
	水灰に刈りる又板の力伝	分)						
6) 子育て支援の実際(内容・)	方法・技術) ③	解説書 p. 334-336 を熟読しまとめる。(60 分)						
	要保護児童の家庭に対する支援	子どもの虐待の対応についてまとめる。 (60 分)						
	b法・技術) ④ 障がいのある子ど	解説書 p. 336-338 を熟読しまとめる。(60 分)						
も、特別な配慮を要する子。	どもと家庭に対する支援	子どもの虐待と予防についてまとめる。 (60分)						
8) 子育て支援の実際(内容・)	方法・技術)⑤	解説書 p. 339-342 を熟読しまとめる。(60 分)						
多様な家庭の理解、社会資源	原・関係機関・専門職との連携・協働	地域の社会資源の重要性をまとめる。 (60分)						
[使用テキスト] 必要に応じて								
[参考文献] ■小野﨑佳代/石目	日幸美(編著),『MINERVA 保育士キ	ャリアアップ研修テキスト 6 保護者支援・子育て支						
		副),『演習・保育と子育て支援』,2019年,みらい						
	保育指針解説』, 2018年, フレーベル	レ <u>館</u>						
[試験の方法と学修成果の評価]	表準]							
【平常試験】								
①平常点評価(50%)	授業における提出物、受講態度等に。	より評価を行う。						
②到達度の確認 (50%)	第4回、第8回の到達度確認テスト。	より評価を行う。						
【定期試験】								
①筆 記 試 験(%)								
②レポート(%)								
③実 技 試 験 (%)								
④面 接 試 験(%)								
立帝 上述在	☑ 受講態度その他必要と認められ	いる事項を学修成果の評価に加味する						
一	平常点評価 ロ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない							
[フィードバックの方法] 提出	[フィードバックの方法] 提出された課題について、授業内で解説し、フィードバックを行う。							
[備考]								

子

授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	技·実習) 授業担当者	
音楽 2	演習	井下 べに	
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2 セメスター	
□ 実務経験			
		主に対応	 するD
音楽理論の知識理解を深め、コ	コード伴奏等に活かせるとともに、声楽の基	基礎的な技能を発展させ、保育者	1
	る文化的・社会的な発達を育めるよう、声を との共感を伴った「うた」による表現力を	を出すこと、声を聴くこと、声を	-
授業全体の内容の概要			
おける実践を想定した歌唱活動 授業修了時の達成課題(到達	ンとなる保育者の声や歌唱に関する基礎的な 前の展開ができるよう、他者との共感を伴っ 目標)] 意味や子どもの音楽的発達を理解し、保育・	った「うた」による表現力の獲得を目指で	t 。
		[準備学修の内容]	
) オリエンテーション		音楽1で学んだことについて復習をし	てお
本授業の目的、計画、美しい歌声を目指して		< ∘	
 音楽理論の基礎知識(音階と調性) 歌唱の実践①身体の使い方や呼吸法、発声法 		音階と調性について予習をしておく。	
3) 子どもの音楽的発達		発声やストレッチなどの復習を行い、	歌声を
歌唱の実践② 子どものうた、季節のうた(秋のうた)、行事の			
		秋のうたについて調べる。	
)音楽理論の基礎知識 (コー		様々な遊びうたについて調べる。	
	、手遊びうた、身体遊びうた	 音階や調性、コードネームなどについ	ア 街る
5) 音楽理論の到達度確認 歌唱表現の工夫① 楽器を伴った歌唱活動の工夫		「首階や調性、コートネームなどについ し、到達度確認テストへの準備をする。	
		楽器の使い方について予習する。)
)歌唱表現の工夫②		ペープサートや絵本などの音楽的活用	方法
造形を伴った歌唱活動の工夫、季節のうた(冬のうた)		手作り楽器について調べる。冬のうた て調べる。	
7)歌唱表現の展開①		歌の振付や身体表現を伴った歌につい	て調
他者との共感を伴った歌唱活動に向けたグループワーク		る。	
3) 歌唱表現の展開②		グループでの発表ができるよう準備する	る。
授業のまとめ(プレゼンテー	ーンョン:グループ発表)		
[使用テキスト] ■井戸和系(須)(北井常宝(編), 『いろいろな伴奏で弾ける選曲こと	さものさも 100 1 1000 左 チェノッドナ	- 41.
■楠井淳子(著),『保育士、	畑ノ, 『いついつな行奏で弾ける選曲こと 幼稚園教諭を目指す人たちのための音楽の 随時教材プリントを作成し配布する		
参考文献]			
	5 た大全集 200』,2013 年,永岡書店		
	, 『子どものための音楽表現技術』, 2017	7年,萌文書林.	
試験の方法と学修成果の評価	基準]		
【 \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ 			
【半吊武駛】			
	到達度確認筆記テスト、課題		
D到達度の確認(50%)	到達度確認筆記テスト、課題 作品発表、実技発表		
D到達度の確認 (50%) ②実技・作品発表 (50%)			
D到達度の確認(50%) ②実技・作品発表(50%) 【定期試験】			
D到達度の確認 (50%) D実技・作品発表 (50%) 【定期試験】 D筆 記 試 験 (%)			
D到達度の確認 (50%) ②実技・作品発表 (50%) 【定期試験】 D筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%)			
D到達度の確認 (50%) ②実技・作品発表 (50%) 【定期試験】 D筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%)			
D到達度の確認 (50%) ②実技・作品発表 (50%) 【定期試験】 D筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%)	作品発表、実技発表		
②レポート(%) ③実技試験(%)	作品発表、実技発表 ② 受講態度その他必要と認められる		
D到達度の確認 (50%) ②実技・作品発表 (50%) 【定期試験】 D筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価	作品発表、実技発表 ② 受講態度その他必要と認められる □ 受講態度その他必要と認められる	事項を学修成果の評価に加味しない	
回達度の確認 (50%) ②実技・作品発表 (50%) 【定期試験】 ②筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ②面 接 試 験 (%) 平常点評価 フィードバックの方法]提出	作品発表、実技発表 ② 受講態度その他必要と認められる	事項を学修成果の評価に加味しない]の授業時にフィードバックを行う。また	、質

子ども福祉学科				
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	技·実習) 哲	受業担当者	
ピアノ2	演習		井	下べに
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	酉	记当 2	セメスター
□ 実務経験				
[授業の目的・ねらい]				主に対応するDP
受講者のピアノ技能の習熟度に応じた学習 育・幼児教育現場で必要となるピアノ表現 基礎的な内容を取り扱うことで、学習教材 的な簡易伴奏の技術を習得する。	技術の獲得に加えて、音楽理論	命の学習につい	ハても楽典に	関する
[授業全体の内容の概要] 受講者のピアノ技能の習熟度に応じた個別 場で求められる表現力の習得を目指す。	リレッスンを展開し、基礎的なも	ピアノ奏法や記	読譜力に加え	て、保育・幼児教育現
[授業修了時の達成課題(到達目標)]				
基礎的なピアノ奏法や読譜力が向上すると	ともに、教材曲に応じて即興的	的な簡易伴奏	を行うことが	できる。
[授業の日程と各回のテーマ	・内容・授業方法]		[準備学修	の内容]
1) オリエンテーション		これまでの	ピアノ学習曲	日について復習する。
本授業の目的、計画、グループ分け 2)~4) ピアノ独奏に関する基礎的表現① バイエル 60~70 番程度/基礎的な読譜	力の習得		る質問や、調	習が大変重要である。 果題曲の範奏等につい
5)~7) ピアノ伴奏・弾き歌いに関する基 簡易伴奏法の応用 (調性による簡易伴奏	をの違い)	練習に関すて積極的に	る質問や、調申し出る。	習が大変重要である。 果題曲の範奏等につい
8) ピアノ独奏/ピアノ伴奏・弾き歌いに 極業の中間ました・プレゼンテーション				: を特に意識して、充
授業の中間まとめ: プレゼンテーション $9)\sim10$) ピアノ独奏に関する応用的表現①			を準備する。 の日々の練習	
バイエル 70~80 番程度/音楽的表現の			る質問や、記	果題曲の範奏等につい
11)~12) ピアノ伴奏・弾き歌いに関する 簡易伴奏法の応用(即興的な簡易伴奏の		練習に関す	る質問や、調	が大変重要である。 課題曲の範奏等につい 受技発表への準備。
13)~14) ピアノ独奏/ピアノ伴奏・弾き バイエル 80~90 番程度/音楽的表現の		練習に関す	る質問や、説	習が大変重要である。 果題曲の範奏等につい ₹技発表への準備。
15) ピアノ独奏/ピアノ伴奏・弾き歌いに 授業のまとめ:プレゼンテーション(資		人前での演		とを特に意識して、充
[使用テキスト]				
■バイエル(作曲)/伊藤康英(編), 『 之友社 ■井戸和秀(編)/小林美実(編 本社 ■その他:随時教材プリントを作成),『いろいろな伴奏で弾ける			
[参考文献] ■平尾妙子(解説), 『ハノンピアノ教則本練習曲』, 1955年, 全音楽譜出版社 ■4 今井 顕 (著), 『ソナチネアルバム 2 ム1』, 1980年, 春秋社 ■小林美実(約 200』, 1996年, チャイルド本社 ■在原	今井 顕(著),『ソナチネアル (校訂版)』,2004 年,全音楽 扁),『こどものうた 200』,1	バム1(校訂 譜出版社 ■ 1975 年,チャ	版)』, 200 小林仁(編) イルド本社	3年,全音楽譜出版社 ,『ソナタ・アルバ ■『続こどものうた
楽譜出版社 [試験の方法と学修成果の評価基準]				
【平常試験】	1二(海羽井川っし) 冷安井	海 主担针体		
①到達度の確認 (60%) レパート! ②実技・作品発表 (40%) 演奏発表	リー(練習曲リスト)、演奏技	州、衣現抆何		
【定期試験】				
①筆記試験(%)				
②レポート(%)				
③実 技 試 験 (%)				
④面 接 試 験 (%)	*松広フのルンボーニコットリー	東西ナ 単 4- 5	用の部屋に	10十十フ
半宮点評価	構態度その他必要と認められる♪ 構態度その他必要と認められる♪			
[フィードバックの方法]				
毎回の授業において担当教員より、受講者				
[備考] ピアノ2終了時に課題曲水準へ至 ※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められ		ノー時に円履	彫りること。	

チとも偏祉学科		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者
リズム運動 I	演習	満園結
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2 セメスター
□ 実務経験		
[授業の目的・ねらい]		主に対応するDP
乳幼児期に即した子どもの保育活動とし	て、リズム運動・音楽リズムの基礎を、	演習を通してその技能を 1
習得する。子どもたちが取り組んでいる	リズム運動(ひびけ草原のうた含む)を実	体験し、さらに関心を深
めていく。保育者の視点からリズム運動	を通して子どもへの関わり方を学び、実	体験することでリズム運
動への取り組み意欲を深める		
[授業全体の内容の概要]		
乳幼児の保育内容や方法を学び、運動遊	びの具体的な保育内容・指導法を構築し	、実践できる力量を培う
[授業修了時の達成課題(到達目標)]		
保育者の視点から子どもの文化・表現に	関する基本的な内容や方法を理解し、保 ⁻	育・幼児教育現場を想定した保育内容の
構築および実践ができる		
[授業の日程と各回のテーマ	・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1)リズム運動の基礎を知る リズム運動	の内容・意義を体験的に理解する	
2)リズム運動の内容について学ぶ (乳		
体験的に理解する		
3) リズム運動の内容について学ぶ (幼	児期) リズム運動の指導方法を	
体験的に理解する)	
4)実際の保育現場で行われているリズム	運動(アトイドトナ 草原のうた含ホヒ)の	
ねらい・内容・展開について実践的に理		
5)実際の保育現場で行われているリズム		
ねらい・内容・展開について実践的に理		
6)保育現場で実践されているリズム運動	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
や指導法について学ぶ(乳児期)	, (o o t) + //(c o t) + //(c o t) + //(c o t)	
7)保育現場で実践されているリズム運動	h(アトイアトイナ 草原のうた含セト)の展開	
や指導法について学ぶ(幼児期)	, (o o t) + //(c o t) + //(c o t) + //(c o t)	
8) まとめ レポート		
実際の保育現場で行われているリズム選	動の展開や指導法について理解	
し、まとめる	33000000000000000000000000000000000000	
[使用テキスト]		
丸山美和子(著),『リズム運動と子ど	もの発達』 2007年 かもがわ出版	
[参考文献]	0.00 LEE	
※その他、必要なプリントは配布します		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(%)		
②実技・作品発表(%)		
【定期試験】		
①筆記試験(%)		
②レポート(100%)		
③実 技 試 験 (%)		
(全面 接 試 験 (%) (# M. de 2 . o. N. V. JE 1 30 / A 1. v. de 22 A W	(6. D.H. o. 37 (g.) - 1. g.
平常点評価	講態度その他必要と認められる事項を学	
	講態度その他必要と認められる事項を学	
[フィードバックの方法]		
[[/#: +z.]		
[備考]		

-とも保祉学科		
授業のタイトル(科目名) 民族芸能・和太鼓 I	授業の種類(講義・演習・実技・実習) 演習	授業担当者 藤堂 真沙子・平 浩之
授業の回数 8 回		
□ 実務経験		
	とくした保育内容の表現形態・方法について実体	: 輪を通して其 主に対応するD.P.
	門場の表現活動の重要性とそれを指導する保育者	
て体験的に学習する。	District State Chronical And I	
	めの指導を行ううえで必要とされる代表的な方法	こことについて、その知識・技術を
	&期間に行い、学外(保育園・別会館など)を予定	
	育者として必要とされる表現活動の知識・技術を	
	のの楽しさを感じることを通して自ら発表する	
[準備学習の内容]日常的に文化・表現活動	動に興味・関心を持っておく。	
集中講義期間前にオリエンテーションを記	设定する。諸注意等行うので必ず出席すること。	
[授業の日程と各回の)テーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) 民族芸能・民舞①(集中講義予定)		
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	D楽しさ・踊りや所作にこめられた意味を知り、	
表現する		
2) 民族芸能・民舞②(集中講義予定)		
民舞の魅力・基礎・表現方法を知る民舞の	D楽しさ・踊りや所作にこめられた意味を知り、	
表現する		
3) 民族芸能・民舞③ (集中講義予定)		
個人での表現からグループ全体での表現	(群舞) へと意識を変えていく。その中で自身の	
位置づけ、役割を確認、認識する。		
4) 民族芸能・民舞④ (集中講義予定)		
群舞での発表に向けてグループ内でディス	スカッションし、作品を仕上げる。自立への転換	
を目指し乳幼児に指導していくイメージを	と持たせる。	
5) 民族芸能・太鼓① (集中講義予定)		
	ことの魅力・楽しさ・アンサンブルを体得する	
6) 民族芸能・太鼓② (集中講義予定)	5ことの魅力・楽しさ・アンサンブルを体得する	
	ここの魅力・米しさ・アンリンノルをや待りる	
7) 民族芸能・太鼓③ (集中講義予定) 和太鼓の演奏法を学び 和太鼓を演奏する	5ことの魅力・楽しさ・アンサンブルを体得する	
8) 民族芸能・太鼓④ (集中講義予定)	プログラング	
-/	うことの魅力・楽しさ・アンサンブルを体得する	
発表構成の group ワーク総括・実技発表		
[使用テキスト]講義内で必要なプリントを		<u> </u>
【平常試験】		
①到達度の確認 (50%)		
②実技・作品発表 (50%)		
<u>i</u>		
【定期試験】		
①筆 記 試 験 (%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験 (%)		
□ 図 受計 平常点評価	講態度その他必要と認められる事項を学修成果の)評価に加味する
口 受記	構態度その他必要と認められる事項を学修成果 σ)評価に加味しない
[フィードバックの方法]		
各々の講師で課題レポートについて保育技	支術へのコメントを行う。	
[備考]		
集中講義(9月)実施のため、単位修得がて	ぎきなかった場合は、2年次の幼稚園実習履修不	可になる。
学外授業になるので、会場までの交通費者	受は各実費負担。	
※講師の都合で 順序・時期・場所等調響	となる場合は 事前に通知する またオリエンテ	ーションけ必ず受けること

受業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担	当者	
保育実習Ia(保育所)	実習		伊藤	達哉、他
受業の回数 80 時間	時間数(単位数) 2 単位	配当	2	セメスター
□ 実務経験				
受業の目的・ねらい]				主に対応するI
①保育所等の役割や機能を具体的	に理解する。			1, 2, 3, 4
②観察や子どもとの関わりを通し	て子どもへの理解を深める			
③既習の教科目の内容を踏まえ、	子どもの保育及び保護者への支援について紹	合的に理解	解する。	
④保育の計画・観察・記録及び自己	2評価等について具体的に理解する。			
⑤保育士等の業務内容や職業倫理	について理解する。			
受業全体の内容の概要]				
・保育所等で実際に子どもとの生	活をともにしながら、観察実習、部分実習を	行い、子と	ごも理解	を深める。
・保育者の指導のもとで保育所等	の役割や保育士等の業務内容や倫理観につい	て理解する) 。	
受業修了時の達成課題(到達目標)]			
・保育所等での実習を通して、保	育所等の役割や機能を具体的に説明できる。			
・既習の教化全体の知識・技能を	基礎とし、これらを実習の場で実践できる。			
・保育士として職業倫理と子ども	の最善の利益の具体化について討論できる。			
[授業の日程と各回]のテーマ・内容・授業方法]		[準備	学修の内容]
「保育実習Ia」(10 日間) 観察	 実習・部分実習を行う	基礎学習	習として	、各種授業にて保
保育所等の役割と機能		を学び、	事前実	習指導内容を理解
・保育所等の一日の生活と保育の流	だれを理解し、保育者の援助やかかわりにつ	ハ て授業	準備を進	める。必要に応じ
て学ぶ		補習を受	受ける。	
・保育の多様化に伴い、子ども・保	護者に必要な支援のあり方や過程・地域社会	と		
の連携について学ぶ。				
子ども理解				
・子どもの発達過程を理解し、子と	ごもへの援助や関わり方を理解する			
保育内容・環境構成				
	旨導を受け、保育内容と保育技術について具	本		
的、実践的に学ぶ。				
・子どもの生活や遊びと環境構成の	りかかわりについて学ぶ。			
保育の計画・観察・記録				
	こ記録・整理し、自己評価をし、課題を明確	こ		
もって実習に望む				
・子どもの発達過程や保育環境に属	Nじた計画について学ぶ。			
保育士等の業務内容				
・保育士等の業務内容を埋解し、保	R育士の役割や職業倫理について学ぶ。			
吏用テキスト]				
実習ハンドブック・実習の記録・	授業時配布資料			
	育所実習 指導計画の考え方・立て方 (第	2版)』,	2017年,	萌文書林
参考文献]				
授業内で必要に応じて絵本、著書	を紹介する			
式験の方法と学修成果の評価基準]				
平常試験】				
到達度の確認(40%)				
実技・作品発表(60%)				
定期試験】				
筆記試験(%)				
レポート(%)				
実 技 試 験(%)				
面 接 試 験(%)				
	☑ 受講態度その他必要と認められる事項を	学修成果0	 つ評価に	加味する
平常点評価		• 1- //		
				111111111111111111111111111111111111111
	□ 受講態度その他必要と認められる事項を	于廖戏木。)評価に	加味しない

■実習・実習指導は連動し、評価は総合的に行う。

■保育実習 I a および保育実習指導 I a の単位修得により、保育実習 II に取り組むことができる。本科目の単位不可の 場合は再実習を希望することができる。その場合は必ずしも年度内履修ができるとは限らない、また別途費用が発生す る。あわせて交通費は、大学から配属園まで各自実費となるので、準備しておくこと(原則、公共交通機関を使用する) ■その他、給食費等も準備しておく。諸々詳細は授業内に説明する。

子

極楽のなましょ (がロな)	極拳の存在 /# 大 本四 声に	中327 極事也 N + N
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	
保育実習 I b (児童福祉施設)	実習	北川 拓(元児童相談所課長)
授業の回数 80 時間	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター
		。②児童福祉施設(居住型)の 主に対応するD
生活に参加し、他職種と連携や生活援助の		
児童と、その家族の抱える問題や社会的† ****	背景について学ぶ。④実習に必要	な手続きや実習記録の書き方を
学ぶ。 		
授業全体の内容の概要]		
・児童養護施設・乳児院の生活に参加し		
・施設の機能と役割を理解するとともに	保育士の援助や関わりについて学	ెస్.
授業修了時の達成課題(到達目標)]		
		する子どもたちとの関りを通して、子どもの
身の状態に応じた生活や、援助方法を学	-	
[授業の日程と各回のテーマ	・内容・授業方法] 	[準備学修の内容]
〈実習内容〉		保育実習指導 I b (演習)で事前指導を行う
○施設の役割と機能		
・実習施設について理解する		
	:保育士の援助や関りを理解する	
○施設における子どもの生活と子どもの:		
)流れや施設での生活状況を理解	
サる	た田毎71 フドキのと白のマウドを	
・観祭を囲して士ともの美態を 支援 の方法や,子どもの	と理解し、子どもの心身に応じた 	
×版 ・生活や援助の一部を担当し		
(計画と記録	を暖収削を収待する	
- 1.1.1 1 = 1.=. 4	F齢・発達・個人の特性に応じた	
支援計画のあり方を学ぶ		
・記録に基づいた省察・自己記	平価をする	
○保育士の役割と倫理	, ,,,,	
・職員間の役割分担や連携の右	Eり方を学ぶ	
・子どもの最善の利益を具体化		
・守秘義務の遵守、個人のプラ	ライバシーの保護等について学ぶ	
・安全及び疾病予防への配慮に	こついて理解する	
[使用テキスト]		
実習ハンドブック・実習の記録・授業時	配布資料	
参考文献]		
試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(40%) 平常時に	おけるレポート提出や授業態度に	こより評価する
②実技・作品発表(60%) 自己課題	に対しての理解や実習先での評価	
【定期試験】		
D筆 記 試 験 (%)		
②レポート(%)		
②レ ボ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%)		
③実 技 試 験 (%)		
③実技試験(%) ④面接試験(%)	講熊度その他必要と認められる事	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

[備考] 実習・実習指導は連動します。やむを得ず欠席する場合は必ず補講をうけること。

「この信仰子符		1
授業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者
保育実習指導Ia(保育所)	演習	伊藤 達哉、他
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2 セメスター
□ 実務経験		
□ 天物性状		202414 277
= : :::: =		主に対応するDF
①保育実習の意義・目的を理解する。		
③実習施設における子どもの人権と最善の する。	州血のち息、ノフイハン一の休護と寸板	公義務寺について理解
9 ©。 ④実習の計画・実践・観察・評価の方法や	内容について具体的に理解する	
⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と		類や日煙を明確にする
[授業全体の内容の概要] 保育実習 I a の		
実習の記録の方法、基本的な保育技術、技		一径併し、MF凱索、印力大百ッカム、
「授業修了時の達成課題(到達目標)〕	12271271	
保育基礎ゼミや他の関連科目と連携しな	がら、実習に向けての基礎知識を身につ	のける。実習の意義・目的を理解し、実
習に必要な観察・記録・計画・評価の基本		
	回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学習の内容]
1) 保育所実習について		子ども・保育問題に関する社
・保育所実習に意義と目的、実習概要を	理解し、実習に必要な書類を作成できる	ら。 会事象を意識し新聞やニュー
・実習園への依頼と必要な手続きを行う	ことができる。	スを見聞きしておく事。
2) 保育観察のポイント、事前訪問について		第1 講を振り返りレポートを
	内容を理解する事ができる。 (DVD 視聴	
	訪問における心構えを理解する事ができ	る。 説明する。
3) 保育士の役割について		
・保育所の役割、機能、一日の生活の流		The NACO
4) 部分実習の計画・保育技術(手遊び・網		指導計
画」を立案する。(教育課程論等と連携		
5) 部分実習の計画・保育技術(手遊び・網路は、		
・指導計画の立案に基づく模擬保育を行		
6) 部分実習の計画・保育技術(手遊び・編 ・指導計画の立案に基づく模擬保育を行		
・指導計画の立案に基づく模擬休月を1 7) 実習課題の設定 ・部分保育の準備をす		て車が
できる できる	る ・美自に回りての自己味趣を設定す	る事//・
8) 実習生の心得・留意事項・実習の記録(前講を振り返りレポートを
	い、社会人としての挨拶等実習に向う心	提出する。 構えが
	秘義務等を確認する。・乳幼児の観察と	
取り方、実習の記録の書き方がわかる		
9) 実習のまとめ(事後指導) ・実習を振	り返り、実習での体験をまとめる。	
10) 11) 12) 実習のまとめ (グループワー	ーク)	
・実習を振り返り、実習の学びを交流し	ながら、自分の意見を発表する事ができ	さる。
・今後の課題を明確にすることができる		
13) 14) 実習のまとめ 実習報告会 (全体)		
・実習を振り返り、実習の学びを交流し		
・今後の課題を明確にすることができる		
15) 実習のまとめ ・お礼状を書く ・実習		東田フェノルに綴じてた極要では田 コ
[使用テキスト]■「実習の記録」「実習ハる。 ■久富陽子(編著), 『幼稚園・保		
[参考文献] 授業内で必要に応じて絵本、		/ · »⊢
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認 (40%)		
②実技·作品発表(60%)		
【定期試験】		
①筆記試験(%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験 (%)		
刀 受講館	度その他必要と認められる事項を学修成	 成果の評価に加味する
业, 'b' '白 :半/曲	k度その他必要と認められる事項を学修F	
[フィードバックの方法] 実習終了後	とのまとめ・報告会で、総評しフィード/	バックを行う。
[備考] 実習・実習指導は連動している。		
講を申し出て受けること。まとめの資料は		
と。保育園での現場体験を実施。詳細は授 こと。(原則、公共交通機関を使用する)そ		で合日美賀になるので、準備しておく

1	- とも倫祉学科		
	授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実	
	保育実習指導 I b (児童福祉施設)	演習	北川 拓(元児童相談所課長)
	授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2 セメスター
			できる知識や技術について授業を行う と・乳児院の機能と社会的役 _{主に対応するDP}
	技業の目的・ねらい ①美盲施鼓の息義 割を学ぶ。③実習内容を理解し自らの実習	・日的を理解する。②允単後護施設 「の課題を明確にする。④実習におけ	・乳児院の機能と仕去的依 主に対応するDP ける観察、記録及び評価につ
	いて理解する。⑤実習での体験を振り返り		
	解を深める。	· * -****** • * * * * * * * * * * * * * * *	11) 4 中央人区) 4 「伊田(中国) 6 女子
			『した内容を通して、「施設実習」の意義・ 死要を学び、機能・役割を理解する。実習後
	のまとめとグループ討論、全体報告を通し	て、施設実習の内容を共有し深める	
	*ゲストスピーカーを呼んでの講義を行う	0	
	[授業修了時の達成課題(到達目標)] 実習及び実習報告会に取組み、施設におけ	「ろ子どもの理解を深め保育士の役割	卵を説明できる
	[授業の日程と各回のテーマ		[準備学修の内容]
	1) 授業の概要説明	136 (5.7.7.12)	『実習の記録』配布 熟読
	・施設実習の意義と目的、実習	概要を理解する(DVD 視聴)	
	・実習施設への依頼と必要な手	続きを行うことができる	
	課題:実習施設について調べ	る 	nging project distriction of the second of
	2) 実習施設の機能・役割について ・実習先の概要を調べ、施設で	の生活の流れた理解する	配属先一覧配布
		い生活の流れを遅解する。し、事前訪問における心構えを理解	
	ることができる。	0 (1/11/10/07/1-4-1)	
	3) 社会的養護を必要とする対象児童と、		里親制度について質問事項を考えておく
	・ゲストスピーカー(里親支援		
	・課題レポート: ゲストスピー 4) 対象児童・施設への理解	カーの話を聞いての感想	施設実習に関する質問事項を考えておく
	・事例検討等を通して自らの実	習先の理解を深める	他以大目に因りる負向事気を与えておく
	・先輩の体験談を聴く	176 · · · 271 · · · · · ·	
	課題レポート:先輩からの体験	談を聞いての感想	
	5)対象児童・施設への理解	で草と 十フ じょ の理解 たがみて	アタッチメントについて調べる
	・施設理解:施設実習に関する不安や	で暮らす子どもの理解を深める 空間 Q&A	
	6) 施設理解 (DVD 鑑賞) 児童養護施設にお		実習で何を学びたいか考えておく
	・実習に向けて自己課題を設定		
	・課題レポート: DVD を観てのM	惑想	知点し、老点の生いたのいで知られ
	7) ・実習記録の書き方	다 70 = 1 /2 보기는 전 7년	観察と考察の違いについて調べる
	8) 実習生の心得・留意点・(直前指導)		健康チェック・事前課題の作成
	9) 実習のまとめ(事後指導)・実習の振	り返り・実習での体験をまとめる	各自実習終了後「実習のまとめ」を記入
	10) グループワーク		別途連絡
	11) グループワーク		別途連絡
	12) グループワーク		全体発表会準備
	13) 全体報告会		全体発表
	14)全体報告会		発表準備
	15) 実習のまとめ 自己評価、施設からの)課題作成 お礼状清書	別途連絡
	[使用テキスト] 実習の記録・実習ハント	・ ジブック・授業時に配布する資料	
	[参考文献]		
	[試験の方法と学修成果の評価基準]		
	【平常試験】		
		sけるレポート提出や授業態度によ	
		ぶできているか、発表内容は適切でな	あったかなど総合的に評価する。
	【定期試験】 ①筆記試験(%)		
	① 章 i i i i i i i i i i i i i i i i i i		
	③実 技 試 験 (%)		
	④面 接 試 験 (%)		
		な ない ない はい	を学修成果の評価に加味する
	亚党占証価	「態度その他必要と認められる事項を	
	「フィードバックの方法]		
	授業ごとに振り返りと質問時間を設けると	ともに、実習終了後で解説しフィー	ードバックを行う。
	[備考] 実習指導は連動します。やむを得		
			•

Fとも福祉学科 		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者
実習入門	演習	伊藤達哉、他教員
授業の回数 15 回 時間数(単位	数) 1 単位 配当 1 セ	メスター 必修
□ 実務経験		
[授業の目的・ねらい] ①実習の意義・目的を理解し、実践的知識②保育所、児童福祉施設等の役割や機能を③観察や子どもとの関わりを通して子ども④保育の計画・観察・記録について、体験「授業全体の内容の概要」 実習ハンドブ祉施設の見学・体験をもとに子ども理解及から学び、作成・実践・評価ができるよう	具体的に理解する。 理解を深める。 を基に理解し作成できる。 ックを活用し、実習の意義・目的等、実習 び、施設の役割や機能を理解する。保育 になる。	育記録や計画の立て方について具体例
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 保育ける。実習の意義・目的を理解し、実習に理について理解する。		
[授業の日程と各回のテ	ーマ・内容・授業方法]	[準備学習の内容]
1) 本講義のオリエンテーション(ガイダン・実習入門について ・実習の意 ・ワーク(保育用語、絵本読み 等)の説	義、目的 ・実習の流れ	シラバス、講義日程、準備物 個人登録簿
2) 保育所の生活と子ども理解① ・保育所の一日の流れと保育者の援助を 3) 保育所の生活と子ども理解② ・1 日の流れと保育士の援助 ・保育の 4) 児童養護施設とは ・児童養護施設の子ども理解と保育士等 ・保育士の業務内容とその役割 ・職 5) 保育所の生活と子ども理解③ ・子ども観察のポイントと実習記録の書 6) 保育所の生活と子ども理解④ ・子ども観察のポイントと実習記録の書 ・体験での学びの交流、省察の仕方 7) 保育実習における保育技術の基礎を習行り、対象年齢 ・保育教材(手遊びや絵) 8) 9) 保育園見学・保育園の実際(生活と遊び)を見学する 10) 11) 実習記録、日誌の記入の仕方について、保育園見学体験をもとに実習日誌を書 12) 養護施設見学	・保育技術: 絵本 ・具体的な事例にもとづいて理解する。 ・保育技術: 紙芝居 記録の取り方、ポイント ・の役割 ・児童養護施設実習について ・買間の連携と協働について ・保育技術: ペープサート ・き方① ・園見学についての諸注意 ・保育技術: エプロンシアター ・まき方② ・学さる 本等)について ・グループワークと発表 ・子どもの様子を観察し記録する いて ・く・体験からの学びと省察の仕方を知る	前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。
・実習における書類の書き方(個人票、 ・施設見学のためのオリエンテーション 13) 養護施設見学の振り返りとまとめ ・養護施設見学体験をもとに実習日誌を 14)15) 2年生の保育実習報告会に参加する ・先輩から学んだことをレポートにまと [使用テキスト]	(身だしなみチェック等) 書く・体験からの学びと省察の仕方	
■実習ハンドブック・実習の記録・授業時■久富陽子(編著),『幼稚園・保育所実■厚生労働省(著),『保育所保育指針解	翌 指導計画の考え方・立て方 (第2) 説 平成30年3月』,2018年,フレー	饭)』,2017年,萌文書林
[参考文献] 授業内で必要に応じて絵本、	眷書等を紹介する 	
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(100%)		
②実技・作品発表(%)		
【定期試験】		
①筆 記 試 験 (%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験 (%)		
平常点評価 □ 受請	態度その他必要と認められる事項を学修 態度その他必要と認められる事項を学修	形成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 提出された課題 [備考] 保育園で現場体験を実施する。詳		
上側 ちょう 保育園 で 現場 体験 を 美地 りる。 詳れため、ファイリングして保管しておくこと		

公共交通機関を使用する)その他、昼食は持参すること。 ※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

授業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	•実習)	授業担当者
子どもの権利	講義		北川 拓(元児童相談所課長)
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位		配当 1 セメスター
	倹を活かし、問題の背景や機関 遅		
[授業の目的・ねらい] 子どもの権利条約			
とは何か、各自が主体的に意見を述べられ 役割を把握し、保育者として取得すべき知			携の 里要性と各機関の (未選択)
[授業全体の内容の概要] 子どもの人権の			エーロー 理解し、「子どもの最善の利益とは何
か」、児童福祉法改正の意義や等を、ワーク		象等を通し	して、「子どもの人権が守られる社会」
とはどのような状況であるかを主体的に学 [授業修了時の達成課題(到達目標)]	·\$.		
「子どもの人権」について自らの生活や	現在の社会的情勢と関連しなが	ら、「子	どもの人権」について主体的に学びま
とめ発表できるようになる。		I	
[授業の日程と各回のテーマ・		11 0 11 2	[準備学修の内容]
1) オリエンテーション 授業の進め方の 講義:保育者として取得すべき子ども		社会的種	を きょく は 何か調べる
ワークショップ:愛着・別れ・喪失感			
2) ディスカッション		子どもの)権利条約について調べる
子どもの権利条約の条文から、関心を (具体的な事例をあげながら条文の意			
3) 児童福祉法成立の背景	一般で見らている。 アースター	児童福祉	上法第1条~3条について調べる
GHQ の「児童福祉法総合政策構想」か	ら児童福祉法制定までの背景		
・映像鑑賞とディスカッション4) 子どもの虐待の援助に関する基本事項	•	旧本占	この手板しての中央に ヘレイ部 パブ
(4) 子どもの虐待の援助に関する基本事項 ・児童虐待、包括的虐待とはなにか		九里 信 へ	手の種類とその内容について調べる
・討論:児童虐待の要因について考え	られること		
5) 国連子どもの権利条約から見た日本の	社会的養護と里親制度	里親の種	 類について調べる
・講義:里親制度の解説 ディスカッション:里親委託優先の原	見削と里親委託率が増えない日		
本の現状と課題	1,X,1,C = 1,0, Z		
6) 児童虐待の現状と対人援助に求められる	るもの	自己覚知	口とは何か調べる
児童虐待とは何か 自分自身を知ること(自己覚知)	の大切さ		
良好な人間関係を築くためのコ			
レポート提出:貧困と虐待の連鎖	鎖を断ち切るために何が必要か		in 544. 1 1. 1. 1
7)映像鑑賞 ・児童養護施設の創成期		家庭的 養	を護とはどういうことか調べる
・討論:児童養護施設入所理由の変化が	から子どもの人権と今日の社会		
状況をどうとらえるか			
8) 全体のまとめ ・ディスカッション (子どもの人権の ⁴	学翌を通して身近で宝蛙できる)権利とは何か自分の言葉で説明でき ・ オス
取り組みはないか)	子目を通じて分近て 大成てこる	3471	-) 'O ₀
・レポート提出			
・全体の総括「は用ったストコーン等時により、町をより、		<u> </u>	
[使用テキスト] 適時作成し配布する			
[試験の方法と学修成果の評価基準]			
【平常試験】	\)\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	6 ~ 3m az le	
	に準ずる筆記またはレポート等	かけ	=
② 実技・作品発表(30%)口頭による	発表や口頭面接の実施		
【定期試験】			
① 筆記試験(%)			
② レポート(%)			
③ 実技試験(%)			
④ 面接試験(%)			
平常点評価	態度その他必要と認められる事		
□ 受講	*態度その他必要と認められる事		
	問時間を設けるとともに確認テ	ストを実	施
[備考]			

子

授業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習・実	技・実習)	授業担当者
保育の家政学	演習		井上, 森谷, 吉田, 小西, 高砂
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	立	配当 2 セメスター
☑ 実務経験 医療機関での外来や地	域での食事指導や相談の経験	から、子ど	もの食事のポイント等講義する。
授業の目的・ねらい] 保育者として必要	な食育のための調理実習を中	心に、清掃	や洗濯等生活技術の知 主に対応するD
哉と技術を演習の中で習得する。			1
授業全体の内容の概要] 食育に関する	知識をもとに、クッキング保	育の展開と	それに必要な調理や、清掃、洗濯等
育者にとって必要な家政学の知識と技術を	:、実習を通して身につける。	全体を通じ	てグループワークで行う。
授業修了時の達成課題(到達目標)]食育	育を保育の中で実践できる力を	を身につける	る。また、子育て支援としても必要な
青掃、洗濯、裁縫等の生活技術の知識と技	で術を身につける。		
[授業の日程と各回のテーマ・	内容・授業方法]		[準備学修の内容]
)オリエンテーション (授業の説明と調	理実習室の使用について)	調乳の方法	去をテキストなどから予習しておく。
) 調理実習① 調乳、離乳食の調理		離乳食の治	生め方を予習しておく。
) 調理実習②		包丁を使用	用して基本の切り方を練習しておく。
)子どもと作るクッキング		授業の感想	想をレポートにして提出。
)調理実習③		授業で作る	った献立の中から家で調理する。
)子どもと作るクッキング		授業の感想	 想をレポートにして提出。
)調理実習④		授業で作る	った献立の中から家で調理する。
)子どもと作るクッキング		授業の感想	想をレポートにして提出。
)調理実習⑤		授業で作る	った献立の中から家で調理する。
の)子どもと作るクッキング		授業の感想	想をレポートにして提出。
1) 献立作成(グループで幼児食の献立を	·作成する。)	幼児のおき	
2) 調理実習⑥		各グループ	プで考えて献立家で調理してみる。
3) グループで考えた幼児食をじっさいに	:調理する。	実際に調理	型しての感想等レポートにして提出
4) 手作りの小物を作る。		各自が作品	
5) 実際に使用できる小物を作成する。		小物作成の	の感想をレポートにして提出。
使用テキスト]		I	
「保育の家政学」冊子			
参考文献]			
評価の実施方法と基準]			
【平常試験】			
□ 平常点評価(80%)			
② 到達度の確認(%)			
③ 実技・作品発表(20%)			
【定期試験】			
筆 記 試 験 (%)			
シレポート(%)			
③実 技 試 験 (%)			
面 接 試 験 (%)			
フィードバックの方法]			

子ども福祉学科			
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実	技·実習) 授業担当者	
造形Ⅱ	演習	高木さ	さとこ・田和 萬喜子
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2	2 セメスター
☑ 実務経験 保育所での 0~	~5 歳までの実践を踏まえ乳幼児期の造	形活動について講義と	 演習をする。
で表現・創造性を広げる。	目的知識と技術を増やし、「遊び」の行		
	ええる人となるために、保育者として乳 と育むための造形活動における基本的な		
【1回~8回】身近な材料を活力 【9回~15回】乳幼児期の造形 ②乳幼児期にふさわしい基本的 し提出する。③制作した作品を使 【授業修了時の達成課題(到達目	標)]	の発達と描く活動につ すの使い方を知らせ、学	いて講義する。 学生は工夫して作品を制作
育現場に活用できる能力を身に~ 【9回~15回】①乳幼児期の打	かに適した様々な教材や材料の特性・使 つける。 当く力と発達の道筋を理解し説明できる 数や造形知識、技法などを習得し乳幼児	0	
	のテーマ・内容・授業方法]		 学修の内容]
1) 「簡単おもちゃ」1・身近な		次回の課題のプラン	
2) 「簡単おもちゃ」2・前回の	応用編。おもちゃ制作。		
3) 風船・箱を使って1・材料の	特徴を活かした作品プランを立てる。	次回の課題に必要な	
4) 風船・箱を使って2・前回の	プランを形にする。		
5) 紙を使って平面と立体1・顔			
6) 紙を使って平面と立体2・前	回の課題を仕上げる。	次回の課題に必要な	:物を準備しておく。
7) オリジナルゲーム作り1・簡	単なルールで楽しめる遊びを考える。		
8) オリジナルゲーム作り 2・前回	3の作品を仕上げ、発表。		
9) クレパス、コンテの知識と基		造形教材セット持参	:。作品集を作成していく
10) 絵の具を使っての遊び(デ	カルコマニー、糸引き、スパッタリング	が 造形セット持参	
11) 自然物・廃品を利用した制	作(手作り遊具)	準備物持参、自然物	」、廃品等の作品を考える
12) 折り紙、切り紙制作 (グ	ループで話し合いペープサート作り)	準備物持参	
13) 版画の説明、(紙 油粘土	ボール紙など)原版の構想について	色々な版画があるこ	とを知る。
14) 紙版画制作 版画用和紙に		紙版画原版を完成し	てくる
15) 作ったペープサートで簡単	なやり取りをし切り紙制作の完成を図る	る 協力して楽しむ。	
[使用テキスト]			
【1回~8回】■テキスト不使月 【10回 15回】■オポト	用。 ■造形セット		
【9回~15回】■造形セット 「参考文献]			
[試験の方法と学修成果の評価基	>住「		
【平常試験】	' 		
①到達度の確認(50%)			
②実技・作品発表 (50%)			
【定期試験】			
①筆記試験(%)			
②レポート(%) ③実技試験(%)			
④ 接 試 験 (%)			
	✓ 受講態度その他必要と認められる	車項を学修成里の評価	に加味する
平常点評価	□ 受講態度その他必要と認められる		
 [フィードバックの方法]		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
【1回~8回】: 各提出作品に	コメントを返す。合評も行う。		
	乍品集にコメントを返し作品をクラスで	回覧する。	
[備考] ■授業に必要な持ち物に	は授業ごとに指示をします。		

授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・	実習) 授業担当者
文章表現	講義	杉山 和正
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1 セメスター
☑ 実務経験 小学校教員の経験を	活かし、子どもの文章表現にも触れ	れながら講義をする。
[授業の目的・ねらい]		主に対応するロ
様々な文章の鑑賞や表現活動を通じて、	言語感覚を養い、文章表現力を伸ん	ばすことができる。文章表現か 4
ら筆者の思いを読み取り、豊かな感性を	·身につけることができる。 	
[授業全体の内容の概要]		
		oいて理解する。自ら創作し、お互いの作品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
鑑賞することで、人間理解を深め、さら 	に豊かな文章表現力を身につけてい	いく。
[授業修了時の達成課題(到達目標)]		
		な文章を読むことや書くことで、感性や人
性をみがき、文章表現力を高めることが		
[授業の日程と各回のテーマ		[準備学修の内容]
		「大学志望動機」「今、夢中になっている
て具体的作品を通し学ぶ。自己紹介文を		の」を書けるようにして臨む。
2) 自己紹介文の交流、文章表現につい		前時の課題を仕上げて臨む。
賞する。日常体験を書くことの意味を学		
		自分が出会った最も印象深い教師をピック
作品を鑑賞する。(以下、毎時間)「心		
4) 「心に残った先生」の作品を鑑賞し、 (小声)、ロンス学ぶ	, 子ともの捉え万及い「先生」の	則時の課題を仕上げて品む。
仕事について学ぶ。		
5) 詩の鑑賞と創作(グループワーク)		
6) 川柳の鑑賞と創作 		川柳について調べる。
7) 短歌の鑑賞と創作		「独楽吟」について調べる。
8) 文章の書き方(何をどう書くか、題	オ、構想、記述、推敲)を学ぶ。	エッセイの題材について考え始める。
9)様々なエッセイを読み、題材につい	て考える。	引き続きエッセイの題材について考える。
10)エッセイを書く。		エッセイの題材を決めて臨む。
11)書いた作品を鑑賞する。①		作品感想のレポート作成
12)書いた作品を鑑賞する。②	,	作品感想のレポート作成
13)教育(保育)、時事、社会問題に関	する文章を読み意見をまとめる。	
14)書いた意見について交流する。	1	前時の課題を仕上げて臨む。
15) 授業のまとめ「文章表現にとって何		
[使用テキスト] レジュメ、資料をプリ		
「参考文献」 随時、授業で紹介する。	V 1 CHL117 0 8	
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
① 到達度の確認(40%) 毎時間の	ミーレポート	
② 実技・作品発表(60%) 10 回目の		
【定期試験】	7以来で言く4つに1	
① 筆記試験(%)		
③ 実技試験(%)		
	 :講態度その他必要と認められる事 [』]	である。 「「な学修成里の評価に加味する」
平常点評価	:講態度での他必要と認められる事: :講態度その他必要と認められる事!	
	.冊ぶ及しツ世心女し恥切り41分手	スと丁戸ル本ツ町Щに加外しなり,

授業のタイトル (科目名)			授業の種類(講義・演習・実技・実習)			授業担当者			
こどもと絵本 1			講義			正置友子	代田盛-	- 郎	
						高砂朋子	野村 月	目ほか	
授業の回数	15 回	時間数(単位	数) 1 単	立 配当	1 セメス	ター		選択	
図 実務経験 授業内容にあわせ絵本研究者、絵本作家、図書館司書、書店、出版社、「おはなし会」の実践者などが担当					当				
[授業の目的・ねらい]						,	応するDP		
保育士・幼稚園教諭の養成課程を基盤としつつ、認定絵本士に求められる以下の基礎的な知識及び技能に				こ 1	, 3, 4				
ついて身に付けることを目的とする。					, 0, 1				
①絵本の定義、歴史などの専門的知識、さまざま絵本の特性について、②子どもの発達、保育・幼児教育						育			
における絵本の意義について、③絵本を選択する力、絵本を活用する技術の習得と実践。									

[授業全体の内容の概要]

本科目では、絵本についての基礎的事項を学ぶと同時に、絵本の種類、絵本の有するさまざまな側面等について理解できるよう、絵本研究者や図書館司書、書店、絵本を用いた活動を行っている実践者等の講師から、絵本に関する専門的知識と絵本を活用する技術を実践的に学ぶ内容となっている。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

- 1. 絵本の定義、歴史などの専門的知識、さまざま絵本の特性について説明することができる。
- 2. 子どもの発達、保育・幼児教育における絵本の意義について説明できる。
- 3. 絵本を選択する力、絵本を活用する技術を身につけ、実践することができる。

	[授]	業の日程(担当者)と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1)	8月22日木2限	オリエンテーション ◎グループディスカッション	テキスト (p. 1-14)
	(代田)	我が国の読書推進活動の施策と経緯、「認定絵本士」の役割	事前・事後学習 (1 時間)
2)	8月22日木3限	絵本総論 ※事後課題の提出	テキスト (p. 16-21)
	(正置)	絵本の基礎知識、絵本の多面性と可能性	事前・事後学習 (1 時間)
3)	8月22日木4限	絵本各論① ※事後課題の提出	テキスト (p. 22-27)
	(正置)	絵本の歴史(世界・日本)と絵本賞・児童文学賞	事前・事後学習 (1 時間)
4)	8月23日金2限	絵本各論② ※事後課題の提出	テキスト (p. 28-33)
	(正置)	絵本の視覚表現と言語表現の特性 さまざまジャンルの絵本③	事前・事後学習 (1 時間)
5)	8月23日金3限	絵本各論④ ※事後課題の提出	テキスト (p. 40-45)
	(吉田)	メディアとしての絵本の位置づけ	事前・事後学習 (1 時間)
6)		さまざまなジャンルの絵本③ 自然科学・社会科学の絵本の特性、科学絵本の活用方法	テキスト (p. 58-63) 事前・事後学習 (1 時間)
7)	8月26日月2限	さまざまジャンルの絵本① ◎実技を伴う演習授業	テキスト (p. 46-51)
	(正置)	物語絵本の特性、絵と言葉で語る技法	事前・事後学習 (1 時間)
8)	8月26日月3限	さまざまジャンルの絵本②	テキスト (p. 52-57)
	(正置)	昔話、童話の特性、絵本における再話や絵本のあり方	事前・事後学習 (1 時間)
9)	8月26日月4限	絵本と出会う③	テキスト (p. 76-81)
	(家近)	公共図書館の児童サービス、地域の読書推進活動の展開	事前・事後学習 (1 時間)
10)	8月27日火1限	絵本と出会う①	テキスト (p. 64-69)
	(高砂)	乳幼児を対象とした絵本の特色と具体的な取り組み	事前・事後学習 (1 時間)
11)	8月27日火2限	絵本と出会う②	テキスト (p. 70-75)
	(高砂)	保育・教育現場における絵本の意義と具体的な取り組み	事前・事後学習 (1 時間)
12)	8月27日火3・4	限 絵本と出会う④ ◎実技を伴う演習授業	テキスト (p. 82-88)
	(山本)	書店における絵本の売り場づくり、絵本の流通	事前・事後学習 (1 時間)
13)	8月28日水2限	絵本の世界を広げる技術①	テキスト (p. 90-95)
	(馬場)	絵本を探す多様な手段とその活用方法	事前・事後学習 (1 時間)
14)	8月28日水3限	絵本各論③	テキスト (p. 34-39)
	(野村)	子どもの知的・社会的発達、絵本が子どもの発達に及ぼす影響	事前・事後学習 (1 時間)
	(花本)	絵本の世界を広げる技術② ◎実技を伴う演習授業 活用した表現活動の理解と基礎的技術の体得 ※事後課題の提出	テキスト(p. 96-101) 事前・事後学習(1 時間)
∣∫使	[用テキスト]		

[使用テキスト]

絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ編集 『認定絵本士養成講座テキスト』 中央法規出版 2020 年

[参考文献]

授業内で必要に応じて絵本、著書を紹介する

[試験の方法と学修成果の評価基	基準]
【平常試験】	
①到達度の確認 (20%)	
③実技・作品発表等(20%)	
【定期試験】	
①筆 記 試 験 (%)	
②レ ポ ー ト (60%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験(%)	

[フィードバックの方法]

レポート課題提出後に参考例を開示する。

[備考] (留意事項)

- ・「認定絵本士養成講座」で「認定絵本士」の称号を得るためには「こどもと絵本 1」「こどもと絵本 2」の 2 科目の単位を取得しなければならない。
- ・「こどもと絵本1」の単位修得のためには15回授業の8割を出席しなければならない
- ・「認定絵本士養成講座」に関わる授業科目の資料等は、各自でファイル管理すること。
- ・事前・事後課題の提出は提出期日を守り必ず提出すること。

授業のタイトル (科目名)			授業の種類(講義・演習・実技・実習)			授業担当者				
こどもと絵本 2		講義		正置友子	代田盛一郎	野村	朋			
							ほか			
授業の回数	15 回	時間数(単位	数) 1	単位	配当	2 セメン	スター	選	建 択	
☑ 実務経験	🛛 実務経験 授業内容にあわせ絵本研究者、絵本作家、図書館司書、書店、出版社、「おはなし会」の実践者などが担当						í			
[授業の目的・ねらい]						主に対応っ	するDP			
保育士・幼稚園教諭の養成課程並びに「こどもと絵本1」の学修をさらに深めるため、以下の内容につい					1, 3,	1				
て学び、認定絵本士の取得を目的とする。					, т					
①多様な人へ絵本を選択する力、紹介する力の習得と実践、②ブックトーク、おはなし会等の手法の理解										
と実践、③認定絵本士としての役割と活動内容。										

[授業全体の内容の概要]

本科目では、「こどもと絵本1」の内容をさらに深める観点から、絵本の紹介や活用について、ブックトークや書評・紹介文の書き方、おはなし会等について実践者から教授する。また、絵本を取り巻く状況や絵本のある空間、絵本が生まれる現場などについて、絵本作家や出版社、その他の専門職を講師に迎え、絵本に関するさらに深い理解と、認定絵本士に求められる役割や活動内容についての理解を深める内容となっている。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

- 1. 多様な人へ絵本を選択する力、紹介する力を身につけ、実践することができる。
- 2. ブックトーク、おはなし会の手法を理解し、実践することができる。
- 3. 認定絵本士としての役割を理解し、活動するべきことを説明することができる。

[授	業の日程(担当者)と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容の詳細]
1)2月17日月2限	絵本の世界を広げる技術③	テキスト(p. 102-107)
(家近)	絵本のコンシェルジュ術の体得	事前・事後学習(1時間)
2) 2月17日月3限	絵本を紹介する技術② ◎実技を伴う演習授業	テキスト (p. 114-119)
(家近)	客観的な絵本の捉え方と書評・紹介文の書き方の体得	事前・事後学習 (1時間)
3) 2月17日月4限	絵本を紹介する技術③ ※事後課題の提出	テキスト(p. 120-127)
(野村)	支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割と紹介方法	事前・事後学習(1時間)
4) 2月 18 日火 2 限	おはなし会の手法② ◎実技を伴う演習授業 ※事後課題の提出	テキスト(p. 134-140)
(岩本)	おはなし会のテクニックの理解と実践	事前・事後学習(1時間)
5) 2月18日火3限 (藤川)	おはなし会の手法① ◎実技を伴う演習授業 ※事後課題の提出 おはなし会の理解とプログラム作成、運営手法の体得	テキスト (p. 128-133) 事前・事後学習 (1 時間)
6) 2月18日火4限	絵本を紹介する技術① ◎実技を伴う演習授業 ※事後課題の提出	テキスト (p. 108-113)
(正置)	ブックトーク及びビブリオトークの理解と技術の体得	事前・事後学習(1時間)
7) 2月19日水2限	心に寄り添う絵本	テキスト (p. 148-153)
(野村)	心のケアと絵本の関わり方	事前・事後学習 (1時間)
8) 2月19日水3限	子どもの心をとらえるもの	テキスト (p. 160-165)
(代田)	子どもの興味関心、子どもを惹きつける表現方法	事前・事後学習 (1時間)
9) 2月19日水4限(今中)	絵本のある空間 子どもにとって絵本のある望ましい空間	テキスト (p. 154-159) 事前・事後学習(1時間)
10)2月20日木2限(正置)	絵本の持つ力 絵本の持つ力の理解、絵本についての批評	テキスト (p. 142-147) 事前・事後学習(1時間)
11)2月20日木3限	大人の心を豊かにする絵本 ※事後課題の提出	テキスト (p. 166-171)
(正置)	絵本が大人に与える影響	事前・事後学習 (1時間)
12)2月20日木4限	ホスピタリティに学ぶ	テキスト (p. 172-177)
(木下)	子ども達に対するホスピタリティの理解	事前・事後学習 (1 時間)
13)2月21日金2限	絵本が生まれる現場① ※事後課題の提出	テキスト (p. 178-183)
(H@L)	絵本作成における過程と絵本作家の感性	事前・事後学習 (1時間)
14)2月21日金3限	絵本が生まれる現場②	テキスト (p. 184-189)
(吉田)	絵本の編集業務と絵本の構造	事前・事後学習 (1 時間)
15)2月21日金4限	ディスカッション ◎グループディスカッション	テキスト (p. 190-195)
(代田)	「認定絵本士」の資質及び技能、今後の活動計画	事前・事後学習 (1 時間)
「信用テキフト」		

[使用テキスト]

絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ編集 『認定絵本士養成講座テキスト』 中央法規出版 2020 年

[参考文献]

音書を紹介する こうしゅう こうしゃ こう こうこう こうしゅう こう こうしゅう こう こう こうしゅう こう こう こう こう こう こう こうしゅう こう

[フィードバックの方法]

レポート課題提出後に参考例を開示する。

[備考] (留意点)

- ・「認定絵本士養成講座」で「認定絵本士」の称号を得るためには「こどもと絵本 1」「こどもと絵本 2」の 2 科目の単位を取得しなければならない。
- ・「こどもと絵本2」の単位修得のためには15回授業の8割を出席しなければならない
- ・「認定絵本士養成講座」に関わる授業科目の資料等は、各自でファイル管理すること。
- ・事前・事後課題の提出は提出期日を守り必ず提出すること。

子ども福祉学科		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	・実習) 授業担当者
学童保育概論	講義	代田 盛一郎
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2 セメスター
□ 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 学童保育に	は「放課後児童健全育成事業」としてそ	の一部分が児童福祉法に位置付 主に対応するDP
·	ハては今後さらに整備されることが求め	
	放課後における「子どもの権利」及び「 ,	子どもの最善の利益」のあり様
について考えることを目的としま、		の江弘中央・中陸ののとについてフトアト日
	育に関して、①放立適程、②機能と役割 現場理解を深めるためにゲストスピーカ	、③活動内容・実践の3点についてそれぞれ具 による議業も予定しています
		・ による時報も「足しくいよう。 小学生の放課後における「子どもの権利」及び
	に関する自分なりの問題意識を持つこと	
	テーマ・内容・授業方法	[準備学修の内容]
1) イントロダクション~"学童保		授業の振り返りとリアクションペーパー作成
2) 学童保育が生まれたわけ 		(以下、同じ)
3) 学童保育って何をするところな	このか	
4) 学童保育の活動内容①遊び		
5) 学童保育の活動内容②生活		
6) 学童保育の職員の仕事と役割		
7) 学童保育と放課後の子どもたち	っの"最善の利益"	
8) まとめとふりかえり		
[使用テキスト]		
なし(授業ごとに資料を配布しま	す)。	
[参考文献]	A	
初回の授業にてリストを配布し紹介	-	
[試験の方法と学修成果の評価基準	=]	
【平常試験】		
①到達度の確認 (60%)		
②実技・作品発表(40%)		
【定期試験】		
①筆 記 試 験 (%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験(%)		
平常点評価	☑ 受講態度その他必要と認められる事	耳項を学修成果の評価に加味する
	□ 受講態度その他必要と認められる事	写項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 最終回にフィードバックを行いま [*]	d-	
最終回にフィートハックを11 (*ま] [備考]	7 0	
ENW AT		

- こも伸性子科								
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・	実習) 授業担当者						
国際理解	演習	永原 直子						
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 4 セメスター						
□ 実務経験								
[授業の目的・ねらい] 学生間の交流をとおして豊かな人間性と社会性を身につけ、異文化の人とコミュ 主に対応するD								
ニケーションを取れるようになる。積極的	なコミュニケーションをする姿勢	勢を身につけ、様々な価値観に 4						
触れる。								
[授業全体の内容の概要] 様々な国籍の学生同士で共同作業を通じた交流を行う。また、学生同士で交流イベントを企画								
し、実施する。内容については授業内で決	め、そのための準備活動等を通	して交流を深める。						
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 異	なる価値観や文化的背景を持つ	他者と積極的に関わることができるようにな						
3 .								
[授業の日程と各回のテーマ・	内容・授業方法]	[準備学修の内容]						
1) オリエンテーションと自己紹介		日本語で1分程度の簡単な自己紹介ができる						
本科目の説明、受講ルールおよび評価方	法について説明する。	ように準備しておく。(10分)						
また、受講生同士で簡単な自己紹介をす	·る。							
2)~15)		取り組みの内容について、各自でやってみた						
授業内で取り組む内容について受講生全	員で決める。活動内容は受講者	いことを考えておく。(10分)						
全員が参加可能で交流しながら取り組むこ	ことができるものであればなん							
でも良い。また、活動に際して役割分担を	し、各自が積極的に取り組むこ							
とを求める。								
[使用テキスト] 特に指定しない。必要に帰	なじて資料を配布する。							
[参考文献]								
[試験の方法と学修成果の評価基準]								
【平常試験】								
①到 達度 の 確 認 (100%) 授業および	学生間交流への積極度、リアク	ションペーパーの提出と内容で評価する。						
②実技・作品発表 (%)								
【定期試験】								
①筆 記 試 験(%)								
②レポート(%)								
③実 技 試 験 (%)	***************************************							
④面 接 試 験 (%)	***************************************							
☑ 受講	‡態度その他必要と認められる事	項を学修成果の評価に加味する						
平常点評価	 態度その他必要と認められる事	項を学修成果の評価に加味しない						
[フィードバックの方法]								
授業内での振り返りにおいてフィードバックを行う。								
[備考]								

- とも倫征字科		
授業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実	
教職論 授業の回数 15 回		平尾 達夫・大冨 八重・今滝 憲雄 配当 4 セメスター
		111 1
1		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
[授業の目的・ねらい]幼児教育における幼 内容を理解し、保育者としての適性につい		ます そして保護者 専門
職間との連携・協働の重要性を理解すると		1 9
		実習での経験や現場における実例に基づき授
業を進行します。また同時にテーマにそっ	てディスカッション、ディベート	、グループワーク等を行います。
	ものとなっています。本科目では	ニーズは年々多様化し、「せんせい」と呼ば :「保育者(幼稚園教諭/保育士)」の存在意
授業の日程と各回のテーマ		 [準備学修の内容]
		①保育者をめぐる動向について、メディア
進行に関するガイダンス、「役割」「責務」		
ぶ内容の意味を説明します。		と、②「幼稚園教育要領解説」「保育所保
		育指針解説」を通読しておくこと。
2) 幼稚園教諭/保育士の役割:幼稚園教諭	俞/保育士とは一体何をする存在	
なのか、その「役割」について学びます。		
3) 幼稚園教諭/保育士の責務:幼稚園教訓		
務は何なのか、その「責務」と「倫理」及び		
4) 幼稚園教諭/保育士の職務内容①子ど本的な職務内容について学びます。	もたちの活動や生活に関する基	
5) 幼稚園教諭/保育士の職務内容②子ど	よの主体的な活動や集団生活に	
おける職務内容について学びます。		
6) 幼稚園教諭/保育士の職務内容③計画	・記録・要録などの資料作成につ	
いて、その必要性について学びます。		
7) 幼稚園教諭/保育士の職務内容の実際(D	
8) 幼稚園教諭/保育士の職務内容の実際(2)	
9) 幼稚園教諭/保育士の職務内容の実際(
10) 幼稚園教諭/保育士の職務内容の実際		
11) 幼稚園教諭/保育士の自己評価と資質	_	
資質向上の意味について学びます。		
12) 幼稚園教諭/保育士の協力体制チーム	ワーク、チーム労働、「同僚性」	
などをキーワードにしてその協力体制につ	いて学びます。	
13) 養成課程 (カリキュラム) から探る基準	本的職務:内容幼稚園教諭/保育	
士になるための教育課程(カリキュラム)	についてその検証を行います。	
14) 保護者・地域・小学校との連携保護者		
援を含む)、地域、小学校、他機関等との	連携について学びます。	
15) 授業のふりかえり・まとめ		
[使用テキスト] ■文部科学省(著),『		
■厚生労働省(著), 『保育所保育指針解 ■中間内		
■内阁府・又部科子省・厚生カ側省(者)■講義内で必要なプリント(幼稚園におけ		・保育要領解説』, 2018 年, フレーベル館 ます
[参考文献] ■平尾達夫(著), 『「かし		
■保育小辞典編集委員会(編), 『保育小		. 1,
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(50%)		
②実技・作品発表 (50%)		
【定期試験】		
①筆記試験(%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
(4)面 接 試 験 (%)	光広りのルンエーコントレップラ	5 + 凶(な(4) 田 の気(1/10) - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10 - 1-10
■ 平常点評価	態度その他必要と認められる事項	
□ □ 受講	態度その他必要と認められる事項	
[フィードバックの方法] 第 15 回講義時に	−件砒し、ノイートハツクを仃り。	

授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実	長習) 授業担当者
保育ゼミⅢ	演習 演習	2年ゼミ指導教員
		配当 3 セメスター
□ 実務経験	时间数(平匝数) 1 平匝	配当 3 ヒアハケ
「授業の目的・ねらい		主に対応するDP
これまでの実習や講義をはじめとする学	びの中から 保育・教育に関わる興味	
文献の収集および読解と整理を行い、卒		1,5,6,1
「授業全体の内容の概要」	(1)	
	引や講義での学びを振り返り、調べ	学習等を行いながら、自分の問題意識をまと
めあげる。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)]		
卒業研究レポートを作成し、発表に向けて	て準備をする。	
[授業の日程と各回のテーマ	・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) 卒業研究レポートとは何か、書き方と	作成計画	×業研究レポートの手引きを読んでおくこと
2) 卒業研究レポートのテーマ設定、情報	・資料収集①	
3) 卒業研究レポートのテーマ設定、情報	と・資料収集②	
4) 卒業研究レポートの作成①		
5) 卒業研究レポートの作成②		
6) 卒業研究レポートの作成③		
7) 卒業研究レポートの作成④		
8) 卒業研究レポートの発表に向けて(中	間発表)	
[使用テキスト]	A	
『卒業研究レポートの手引き』(大阪健康	康福祉短期大学作成)	
[参考文献]		
授業中に適宜紹介する。		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(100%)提出物、	プレゼンテーション等	
②実技・作品発表 (%)		
【定期試験】		
①筆 記 試 験 (%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験 (%)		
	講態度その他必要と認められる事項	[を学修成果の評価に加味する
平常点評価	講態度その他必要と認められる事項	夏を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]		
[備考]		

授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	・実習)	授業担当者			
保育ゼミIV	演習		2年ゼミ指導教員			
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位		配当 4 セメスター			
□ 実務経験						
[授業の目的・ねらい]			主に対応するD]			
保育ゼミⅢで作成した卒業研究レポートを						
とめる」、「他者に説明する」、「他者の	意見を聞いて自分の意見を発え 	長する」等	≦の力量を養う。 			
[授業全体の内容の概要]	지지 선수 소. 스크					
保育・教育に関するテーマについて調べ学 ョンする。	智等を行い、問題意識をまと <i>め</i>	めけた内	谷の発表準備を行い、プレセンテージ			
3 / 9 ©。 「授業修了時の達成課題(到達目標)]						
卒業研究レポートを完成させて、発表する						
[授業の日程と各回のテーマ・			[準備学修の内容]			
1) 卒業研究レポートの作成①		卒業研究	ピレポートの手引きを読んでおくこと			
2) 卒業研究レポートの作成②						
3) 卒業研究レポートの発表①(発表会に向	けての準備)					
4) 卒業研究レポートの発表②(グループワ	ーク、ディスカッション等)					
5) 卒業研究レポートの発表③(グループワ	ーク、ディスカッション等)					
6) 卒業研究レポートの発表④(発表会での	プレゼンテーション)					
7) 卒業研究レポートの発表の総括						
8) 保育ゼミ活動全体のまとめ						
[使用テキスト]						
『卒業研究レポートの手引き』(大阪健康	福祉短期大学作成)					
[参考文献]						
授業中に適宜紹介する。						
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
①到達度の確認(40%) プレゼンラ	ーション、提出物等					
②実技・作品発表 (%)						
【定期試験】						
①筆 記 試 験 (%)						
②レ ポ ー ト (60%) 期限内での	既定の様式による卒業研究レ	ポートの挑				
③実 技 試 験 (%)						
④面 接 試 験 (%)						
✓ 受講						
平常点評価 □ 受講態度その他必要と認められる事項						
[フィードバックの方法]	30 C - 122 X C PD - 24 V W -	. AC 1 18	AND ALIBRITANIA C.C.			
[備考]						
┃						

1) キャリアアップ教育皿で学ぶ内容についての説明。放職活動に向かうための自らの課題などの自己点検を行う。放職活動への取り組み方、水人栗、広夢原則、能験に関する諸機関の利用方法などを学習する。進路アンケート等記入。グループ討議で長所を出し合い、履歴書の「自己アピール」欄にいかす。レポート「私の長所」の作成、履歴書の書き方。 2) 個人面談① 進路希望や破職活動についてのアドバイスをうける。レポート「私の長所」を完成させる。履歴書の作成を始める。「一般・専門教養、常識問題プリント」(今回から①~⑥)にとりくむ。知識を広げる努力を進める。 3) 個人面談② 進路希望や破職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の完成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 4) 個人面談② 進路希望や破職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の完成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 5) 「イナ・講座」をおこなう。面接試験で求められる面接のマナー、言葉づかいの注意、面接でよく開かれる管間等について、専門の講師から実践的な課義を受ける。 6) 小論文(作文)の作成にとりくむ① 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原積用紙の使い方などを学ぶ。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 7) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 7) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 9) 小部文(作文)の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 (一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 (一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 (一般・本専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 (一般を要しないなどからないますのではなってる。9) 小は、中華のないないます。 (一般・本・サーン大を行います。 (一般・本・サーン大を行います。 (一般・本・サーン大を作成と立てる。9) 小は、「企業記録」 (単常記録) (単述記録) (単常記録) (単語記録) (単語記録) (単語記述) (単	Pども福祉学科 		1	T	
投業の回数 1 2 回 時間数(単位数) 単位 配当 3 セメスター 日来外系統 日東の目的・おらい 社会人、職業人として来められる能力を身につけ、2年生時での就職活動を進め 世上がよりの 日東金化の内容の観要 「キャリアメ接切イド」(大学作成) などを学習する。社会人になるための素美と観騰活動に受な知識を学ぶ。 「投業他で内の達成課題 (到達目標) 履延事の作成、面接、小論文など就職活動に必要な課題に取り組める力をつける。 「投業の日程と各回のテーマ・内容・投棄方法 「作業や後の内容 日東金化の内容 日本を見ず の表別 の	授業のタイトル (科目名)		授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者	
□ 実務経験 「接条の目的・おらい」 社会人、職業人として求められる能力を身につけ、2 年年時での疎顕活動を進め 「投棄全体の内容の敬褒」「キャリア支援ガイド」(大学作成) などを学習する。社会人になるための素美と乾燥活動になるないの表美と乾燥活動に変ない顕微と学ぶ。 「投棄金体の内容の敬褒」「キャリア支援ガイド」(大学作成) などを学習する。社会人になるための素美と乾燥活動に変ない顕微と学ぶ。 「接寒を自動とを回のウーマ・内容・投棄方法」 「接寒性「事か」未聴課題(到達目標)」 硬原素の作成、面接、小論文など乾糖活動に必要な課題に取り組み、自信をもて成職試験に取り組める力をつける。 「接寒性「事か」未聴力」 「投寒の目息とを回のウーマ・内容・投棄方法」 「本・リアアップ教育田で学ふ内容についての顕明、辞和活動に向からかの自らの課題などの自己点検を行う。 就機活動への収り組み方、水人裏、北等原則、放像に関する諸機関の利用方法などを学習する。 造器アングート等記人、グループ 対議で長所を出し合い、複歴書の「自己アビール」標にいから、走着を上し、連接を立ている。 一般・本門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 加州人面談② 連路希望や歌噪活動についてのアドバイスをうける。 履歴書の作成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 別個人面談② 連路希望や歌噪話動についてのアドバイスをうける。 履歴書の完成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 別個人面談② 連路希望や歌噪話動についてのアドバイスをうける。 履歴書の完成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 別人面談② 接着音音を歌劇を歌かられる面接のマナー、言葉づかいの住意、面接でよく間かなどの管理、とおくなり、の作成にとりくむ② 存在当くホテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の供表に作文・の作成ととりくむ② 存在当くホテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の供表に対立と答案の表 (本) 小論文(体文)の作成にとりくむ② 存在当くホテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の供表に対立とを学成果の評価法類「正常社験」(公務員実験レベル)の問題にとりくれ、その傾向と対策を学ぶ。自分の表表を学は、神のないと思います。「全方教験」等になし「後寒の方法と学を成果の評価に関する。 「企業技験」「水上を登まませられる事項を学修成果の評価に知味する 受済態度での他必要と認められる事項を学修成果の評価に知味する 受済態度での他必要と認められる事項を学修成果の評価に知味する で養素を受ける。 「一般・発力で作成したレポート等について観別に指導する。「「電行」とレポート等について観別に指導する。「「電行」とレポート等について観別に指導する。「「電行」とロボート等について観別に指導する。「「電行」とロボート等について観別に指導する。「「電行」とロボート等について観別に指導する。「「電行」とロボート等について観別に指導する。「「電行」とロボート等について観別に指導する。「「など、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは、対しないでは	キャリアアップ教育Ⅲ	·	演習	代田	盛一郎
接案の目的・和6い 社会人、職業人として求められる能力を身につけ、2年年時での放験活動を進め ていくための基態的な力を身につける。 ていくための基態的な力を身につける。 「投業を行時の確認課題 「キャリア大板ガイド」(大学作成) などを学習する。社会人になるための素素と脱職活動に必要な知識を学ぶ。 接来の目覚とを回のケー・・ 内容・技楽方法] 「保備学修の内容 投票の目覚とを回のケー・・ 内容・技楽方法] 「保備学修の内容 1) キャリアアブ教育即で学ぶ内容についての説明、脱職活動にかかうたかの目の問題などの自己点接を行う。 推議活動への取り組み方、水人男、応寒間、議職に関する活機関の利用方法などを受する。 地路イン・トート 「私の長所」の作成、履歴書の世を八元をうける。レボート 「私の長所」の作成、履歴書の世を八元をうける。レボート 「私の長所」の作成、履歴書の世を八元をうける。レボート 「私の長所」の作成、同歴書の世を八元をうける。 し一般・専門教育、常識問題プリント」により (も) 知識を広げる努力を進める。 3 個人面談② 進路希望や関係活動についてのアドバイスをうける。 腹壁書の作成。「一般・専門教育、常識問題プリント」にとり (も) 「一大・専門教育、常識問題プリント」にとり (も) 「一大・専門教育、常識問題プリント」にとり (も) 「一大・専門教育、常識問題プリント」にとり (も) 「一大・専門教育、常識問題プリント」にとり (も) 「一大・専門教育、常識問題プリント」にとり (も) 「一大・専門教育、常識問題プリント」にとり (も) 「一般・専門教育、常識問題のサリント」にとり (も) 「一般・保証をとなる。 「一般・専門教育、常識問題のサリント」にとり (も) 「一般・保証をとなる。 「一般・専門教育、常識問題のアリント」にとり (も) 「一般・保証をとなる。 「一般・専門教育、作業 (力) (も) 「一般・実際などを学ぶ。「一般・専門教育、(企務員試験レベル) の問題にとり (も) その規定 (単位の (100%) 「全) リア文裁ガイド」(大学作成) (本) リア文裁ガイド」(大学作成) (本) 東京 (100%) 「全) 「一株・東京 (100%) 「全) 「一株・東京 (100%) 「全) 「一株・東京 (100%) 「全) 「一株・東京 (100%) 「一株・東京 (10%) 「一株・東京 (10%) 「一株・東京 (10%) 「一株・東京 (10%) 「一株・東京 (10%) 「一株・東京 (10	授業の回数 12 回		時間数(単位数) 1 単位	配当 3	セメスター
(日接金産体内内容の頻繁) 「キャリア支援ガイド」(大学作成) などを学習する。社会人になるための素美と規議活動に必要な知識を学ぶ。 [接金検下時の手放課題 (到達目標)] 順限書の作成、面接、小論文など規様活動に必要な課題に取り組み、自信をもて 就職試験に取り組める力をつける。 [授業の日報と各国のケーマ・内容・授業方法]	□ 実務経験				
接案全権の内容の概要] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) などを学習する。社会人になるための素養と健職活動に必要な課題に取り組み、自信をもて、環境等に対して、対して、関連を関係して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対	[授業の目的・ねらい] 社会人、	、職業人と	して求められる能力を身につけ、2年生	時での就職活動を	進め 主に対応するDP
要な知識を学ぶ [接着に背の連接課題 (到達日標)] 限歴書の作成、面接、小論文など健康活動に必要な課題に取り組み、自信をもって聴騰対験に取り組める力をつける。 [接換の日限と各回のテーマ・内容・接案方法] [準備学権の内容 1) キャリアアップ教育 国で学ぶ内容についての説明、健康活動に向かうための自らの課題などの自己点検を行う。 乾酸活動への取り組み方、水人栗、底原原則、就職に同する諸機関の利用方法などを学習する。 連携アンケート等型人のグループ計議で長所を出し合い、限歴書の「自己アビル」欄にいかす。レボート「私の長所」の作成、履歴書の集ま方。 2 個人面談① 連算希望や破賊活動についてのアドバイスをうける。レボート「私の長所」を完成させる。限歴書の作成を始める。「一般・専門教養、常識問題プリント」(今回から①~⑥)にとりくむ。知識を広げる努力を進める。 3) 個人面談② 連絡希望や破賊活動についてのアドバイスをうける。限歴書の完成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 の (ていくための基礎的な力を身につ	つける。			4
授業修丁時の連段課題 (到達日票)] 顧歴書の作成、面接、小論文など敬職活動に必要な課題に取り組み、自信をもて、 「投業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法」 「準備学修の内容 「投業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法」 「準備学修の内容 「投業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法」 「準備学修の内容 これを作う。 就職活動への取り組み方、永人票、応募原則、就職に関する諸機関の利用方法などを 学習する。進路アンケー・等記人、グループ計議で長所を出し合い、履歴書の「自己アピール」 類に いかす。レポート「私の長所」の作成、展歴書の書き方。 2 個人面談① 直路希望や逮職活動についてのアドバイスをうける。レポート「私の長所」を完成 させる。原歴書の作成を始める。「一般・専門教養、常識問題プリント」(今回から①〜⑥)にとり くむ。 知識と広げる努力を進める。 3 例入面談② 連絡希望や逮職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の作成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとり くむ。 3 例入面談② 連絡希望や逮職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の作成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとり くむ。 6 小論文 作文)の作成にとり くむ。 6 小論文 作文)の作成にとり くむ① 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の 使い方などを学ぶ。「一般・専門教養、常護問題プリント」にとり くむ。 7 小論文 (作文) の作成にとり くむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとり くむ。 9 一般・要用教養、常識問題プリント」にとり くむ。 9 一般の表所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9 つ2 学内外の逮職プェアへの参加を行います。詳細は提案内にガイダンスを行います。 「使用文法」 「キャリア支援ガイド」(大学作成) (「企業を設」 特になし 「記録の方法と学修成果の評価基準 【平常試験】 「企業を設」 1 回 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「「受講態度・の他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「「受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「「受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「「受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「「受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「「受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「「「受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「「「大学内で作成したとバート等について個別に指導する。	[授業全体の内容の概要] 「キャ	・リア支援ス	ガイド」(大学作成)などを学習する。社	会人になるための	素養と就職活動に必
(京都職就験に取り割める力をつける。 [授業の日程と各回のアーマ・内容・授業方法] [第個学権の内容] [1) キャリアアップ教育皿で学ぶ内容についての説明。税職活動に向かっための自らの課題などの自己点検を行う。税職活動の取り組み方、求人票。応募原則、税職に関うる諸権関の利用方法などを学習する。進路アンケート等記人。グループ封護で長所を出し合い、履歴書の「自己アピール」欄にいかす。レポート「私の長所」を完成した。 「他の長所」を完成をさせる。履歴書の作成を始める。「一般・専門教養、常識問題プリント」(今回から①~⑥)にとりくむ。加蔵を広げる努力を進める。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 3) 個人面談② 進路希望や歌騒活動についてのアドバイスをうける。履歴書の作成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 4) 個人面談② 進路希望や歌騒活動についてのアドバイスをうける。履歴書の作成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 5) 「マナー講唆」をおこなう。面接試験で求められる面接のマナー、言葉づかいの注意、面接でよく用かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 6) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 元成をする。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくも。 7) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 元成をする。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 9) 一般教養、保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と張題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9) 一般教養、保育士専門試験(公務員試験レベル)、「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 9) 一般教養、保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と張題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9) 一2〕 学内外の乾臓フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) (受力を放展) 特になし 「企業試験 (%) 「一般・発表(%) 「一定計価談 (%) 「一定計談験) 「公園・技工、験 (%) 「一定計価を表し、 %) 「一定計価を表し、 %) 「一定対談験 (%) 「一定計価表表」 「一定計画験) 「一定計画を表し、 %) 「一定計画を表し、 %) 「一定計画を表し、 %) 「一定対談験 (%) 「一定計画表」 (%) 「一定対域 (%)	要な知識を学ぶ。				
[陸衆の日盤と各回のテーマ・内容・授業方法] 「本倫学修の内容] 「本倫学修の内容] 「本倫学修の内容] 「本倫学修の内容] 「本倫学修の内容] 「本倫学修の内容] 「本人の子のであり組み方、水人県、応募原則、就議に動に向かうための自らの課題などの自己点検を行う。就議活動に向り組み方、水人県、応募原則、就議に関する諸機関の利用方法などを学習する。地路アンケート等記入、グループ封護で長荷を出し合い、履歴書の「自己アビール」欄にいかず。レボート「私の長所」の作成、履歴書の書き方。 2 個人面談② 進路希望や歌園活動についてのアドバイスをうける。レボート「私の長所」を完成させる。履歴書の作成を始める。 3) 個人面談② 進路希望や歌園活動についてのアドバイスをうける。履歴書の作成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 4) 個人面談② 進路希望や歌園活動についてのアドバイスをうける。履歴書の完成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 5) 「マナー講座」をおこなう。面接試験で求められる面接のマナー、言葉づかいの注意、面接でよく関かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 6) 小論文(作文)の作成にとりくむ① 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の校い方などを学ぶ。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 7) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 8) 一般教養・保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9)・12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は投業内にガイグンスを行います。 「使用テネスト」「ネャリア支援ガイド」(大学作成) 「参す故財」等になし 「武験の方法と学修成果の評価基準」 「平常試験] 「四弾 産産 「報表 験 (%) 「企業試験] ① 受講施度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「受講施度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「受講施度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「受講施度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「受講施度との他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「欠請施度との他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「欠請施度との他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「欠請施度との他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「欠請施度との他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「欠請施度との他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「欠請施度との他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「欠請施度との他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「欠請施度としただけ、予定	[授業修了時の達成課題(到達目	標)]履	歴書の作成、面接、小論文など就職活動	に必要な課題に取	り組み、自信をもっ
1) キャリアアップ教育皿で学ぶ内容についての説明。 意職活動に向かうための自らの課題などの自己点検を行う。 複雑活動への取り組み方、求人票、応募所則、鋭線に関する諸機関の利用方法などを学習する。 進路アンケート等記入。グループ討議で長所を出し合い、履歴書の「自己アビール」欄にいかす。レポート「私の長所」の作成、履歴書の書き方、2) 個人面談① 進路希望や歌職活動についてのアドバイスをうける。レポート「私の長所」を完成させる。 履証書の作成を始める。「一般・専門教養、常識問題プリント」(今回から①~⑥)にとりくむ。知識を広げる努力を進める。 3) 個人面談② 連路希望や職話動についてのアドバイスをうける。 履歴書の作成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 4) 個人面談② 連路希望や職話動についてのアドバイスをうける。 履歴書の完成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 5) 「マナー講座」をおこなう。 面接試験で求められる面接のマナー、言葉づかいの注意、面接でよく開かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 6) 小論文(作文)の作成にとりくむ① 何を書くカテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくま。 7) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくす。 8) 一般教養・保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくれ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9)・12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイグンスを行います。 「使用フキスト」「キャリア支援ガイド」(大学作成) 「参考支献」特になし、第二次の事組出第 【平常試験】 ① 資産 の確認(100%)②実技・作品発表(%) 「定期試験】 ① 重恵 試、験 (%) ② 定該、験 (%) ② 定該、数 験 (%) ② では、数 験 (%) ② では、数 数 (%) ② では、数 数 (%) ② では、数 数 (%) ② の情数 数 数 数 (%) ② の情数 数 数 (%) ② の情数 数 数 数 (%) ② の情数 数 数 (%) ② の情な 数 数 (%) ② の情な 数 数 (%) ② の情にしたして、一等について他別に指導する。	て就職試験に取り組める力をつい	ける。			•
□点検を行う。歳職活動への取り組み方、求人票、応募原則、就職に関する諸機関の利用方法などを 学習する。進路アンケート等記入、グループ討議で長所を出し合い、履歴書の「自己アビール」欄に いかす。レポート「私の長所」の作成。履歴書の書き方。 ② 個人面談① 進路希望や蔵職活動についてのアドバイスをうける。レポート「私の長所」を完成 させる。履歴書の作成を始める。「一般・専門教業、常識問題プリント」(今回か6①~⑥)にとり くむ。知識を広げる努力を進める。 ③ 側人面談② 進路希望や蔵職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の作成。「一般・専門 教業、常識問題プリント」にとりくむ。 4)個人面談③ 進路希望や逮職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の作成。「一般・専門 教業、常識問題プリント」にとりくむ。 5)「マナー講座」をおこなう。面接試験で求められる面接のマナー、音集づかいの注意、面接でよ く間かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 (間かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 (間かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ② 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の 使い方などを学ぶ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 6) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にと りくむ。 8)一般教養、保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自 分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9)一般教養・保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自 分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9)一般教養・保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学が、自 のの表表に「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 「使教子の配と事情が、特にとしています。 「使期子を対しています。 「と明試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(96) 【を財試験】 ①第一意辞(96) ②と対、事にし、第一記を課題といる事項を学修成果の評価に加味しない 「全講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「全講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「全講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「全講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「全講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「全講態度との他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「全講態度との他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「全講態度との他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「全講態度との他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない	[授業	の日程と名	各回のテーマ・内容・授業方法]		[準備学修の内容]
学習する。進路アンケート等記入。グループ討議で長所を出し合い、履歴書の「自己アピール」欄にいかす。レボート「私の長所」を完成といいす。レボート「私の長所」の作成。履歴書の書き方。 2) 個人面談① 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。レボート「私の長所」を完成させる。履歴書の作成をめる。 3) 個人面談② 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。屋歴書の作成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 4) 個人面談② 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の作成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 5) 「マナー講座」をおこなう。面接剥験で求められる面接のマナー、音楽づかいの注意、面接でよく間かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 6) 小論文(作文)の作成にとりくむ① 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方なと学ぶ。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 7) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 8) 一般教養・保育上専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9)-12) 学内外の歌職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 「使用テキスト」「キャリア支援ガイド」(大学作成) 「参考文献」特になし 「政験の方法と学修成果の評価基準」 【平常試験】 ①資 宮 記 試 験 (%) ②文技・作品発表 (%) 「定期試験】 ①章 記 試 験 (%) ②で ボート ト (%) ③変 技 就 験 (%) ④面 按 試 験 (%) ④面 按 試 験 (%)	1) キャリアアップ教育Ⅲで学ぶ	う内容につい	いての説明。就職活動に向かうための自	らの課題などの自	
いかず。レボート「私の長所」の作成。履歴書の書き方。 2) 個人面談① 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。レボート「私の長所」を完成させる。履歴書の作成を始める。「一般・専門教養、常識問題プリント」(今回から①~⑥)にとりくむ。知価を広げる努力を他める。 3) 個人面談② 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の作成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 4) 個人面談③ 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の完成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 5) 「マナー講座」をおこなう。面接試験で求められる面接のマナー、言葉づかいの注意、面接でよく開かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 6) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 7) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 8) 一般教養、保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9)-12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用アキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ① 資本に記録 (96) ② 実技・作品発表 (96) 【正期試験】 ① 文譜態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「フィードバックの方法」 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	己点検を行う。就職活動への取り	り組み方、	求人票、応募原則、就職に関する諸機関	の利用方法などを	
2) 側人面談① 進路希望や敵職活動についてのアドバイスをうける。レポート「私の長所」を完成 させる、殿歴書の作成を始める。 「一般・専門教養、常識問題プリント」(今回から①~⑥)にとり くむ。 知識を広げる努力を進める。 3) 個人面談② 進路希望や敵職活動についてのアドバイスをうける。 履歴書の作成。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 4) 個人面談③ 進路希望や敵職活動についてのアドバイスをうける。 履歴書の完成。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 5) 「マナー講座」をおこなう。 面接試験で求められる面接のマナー、言葉づかいの注意、面接でよく問かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 6) 小論文 (作文) の作成にとりくむ① 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の 使い方などを学ぶ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりまた。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりまた。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりまた。 「一般・事識文・専成教会、 「一般教養、 「一般教養、 「一般教養、 「一般教養、 「一年書試験】 「一定計談験】 「① 「正常試験】 「① 「正常試験】 ① ① ② 文講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「フィードバックの方法」 「受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「フィードバックの方法」 授業内で作成したレボート等について個別に指導する。 [偏考]	学習する。進路アンケート等記え	入。グルー	プ討議で長所を出し合い、履歴書の「自	己アピール」欄に	
 させる。履歴書の作成を始める。「一般・専門教養、常識問題プリント」(今回から①~⑥)にとりくむ。知識を広げる努力を進める。 3) 個人面談② 進路希望や草庵活動についてのアドバイスをうける。履歴書の作成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 4) 個人面談③ 進路希望や草庵活動についてのアドバイスをうける。履歴書の完成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 5) 「マナー講座」をおこなう。面接試験で求められる面接のマナー、言葉づかいの注意、面接でよく間かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 6) 小論文(作文)の作成にとりくむ① 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 7) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 8) 一般教養・保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9) 一20 学内外の愛瀬フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [武験の方法と学修成果の評価基準] [平常試験] ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) [正期試験] ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) [正期試験] ①到 達度の確認(100%) ②実技・除品発表(%) [正知試験] ①対 法 験 (%) ②と ボート (%) ③変 技 試 験 (%) ②と ボート (%) ④変 技 試 験 (%) ②と ボート (%) ④変 技 試 験 (%) ②と ボート (%) ④変 技 試 験 (%) ②と ボート (%) ④変 技 試 験 (%) ②と ボート (%) ④変 技 試 験 (%) ②と ボート (%) ④変 技 試 験 (%) ②と ボート (%) ④変 技 試 験 (%) ②と清鑑度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレボート等について個別に指導する。 [偏考] 	いかす。レポート「私の長所」	の作成。履	愛歴書の書き方。		
 〈む。知識を広げる努力を進める。 ③ 個人面談② 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の作成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとり〈む。 4 個人面談③ 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の完成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとり〈む。 5 「マナー講座」をおこなう。面接試験で求められる面接のマナー、言葉づかいの注意、面接でよく問かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 6 小 小論文 (作文) の作成にとり〈む① 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとり〈む。 7) 小論文 (作文) の作成にとり〈む② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとり〈む。 8) 一般教養・保育士専門試験 (公務員試験レベル) の問題にとり〈む。をの傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9 ー12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 (使用テキスト) 「キャリア支援ガイド」(大学作成) (大学作成) 特になし (試験の方法と学修成果の評価基準) 【平常試験】 ①到達度の確認 (100%) ②実技・作品発表 (%) ②実技・作品発表 (%) ③更 技 試 験 (%) ③の更 技 試 験 (%) ④の面 接 試 験 (%) ④の面 接 試 験 (%) ④の面 接 試 験 (%) ④の 支護を呼応は、の評価に加味しない (フィードバックの方法) 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考] 	2) 個人面談① 進路希望や就職	銭活動につ り	いてのアドバイスをうける。レポート「	私の長所」を完成	
3) 個人面談② 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の作成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 4) 個人面談③ 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の完成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 5) 「マナー講座」をおこなう。面接試験で求められる面接のマナー、言葉づかいの注意、面接でよく問かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 6) 小論文(作文)の作成にとりくむ① 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 フ 小論文(作文)の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 シー般教養・保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9) 一2) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 「平常試験] ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 「定期試験] ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 「ご 対験 験(%) ②レ ボート(%) ③実 技 試 験 (%) ②レ ボート(%) ③実 技 試 験 (%) ②で講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	させる。履歴書の作成を始める。	, 「一般・	専門教養、常識問題プリント」(今回か	ら①~⑥) にとり	
教養、常識問題プリント」にとりくむ。 4) 個人面談③ 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。限歴書の完成。「一般・専門 教養、常識問題プリント」にとりくむ。 5) 「マナー講座」をおこなう。面接試験で求められる面接のマナー、言葉づかいの注意、面接でよく問かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 6) 小論文 (作文) の作成にとりくむ① 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 7) 小論文 (作文) の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 8) 一般教養・保育士専門試験 (公務員試験レベル) の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9) -12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」 (大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 「平常試験] ①到達度の確認 (100%) ②実技・作品発表 (%) ②定技・験(%) ②定技・験(%) ②定技・験(%) ②定議態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ○ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ○ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	くむ。知識を広げる努力を進める	る。			
4) 個人面談③ 進路希望や就職活動についてのアドバイスをうける。履歴書の完成。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 5) 「マナー講座」をおこなう。面接試験で求められる面接のマナー、言葉づかいの注意、面接でよく問かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 6) 小論文(作文)の作成にとりくむ① 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 7) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 8) 一般教養・保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9) 一(12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①単 記 試 験(%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験(%) ②D 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない 「フィードバックの方法」 授業内で作成したレボート等について個別に指導する。 [備考]	3) 個人面談② 進路希望や就職	銭活動につい	いてのアドバイスをうける。履歴書の作	成。「一般・専門	
数養、常識問題ブリント」にとりくむ。 (1)	教養、常識問題プリント」にと	りくむ。			
5) 「マナー講座」をおこなう。面接試験で求められる面接のマナー、言葉づかいの注意、面接でよく聞かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 6) 小論文(作文)の作成にとりくむ① 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 7) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 8) 一般教養・保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9)-12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①強度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆記試験(%) 【定期試験】 ①筆記試験(%) 【定期試験】 ① 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する。 「備考]	4) 個人面談③ 進路希望や就職	銭活動につ り	いてのアドバイスをうける。履歴書の完	成。「一般・専門	
 〈関かれる質問等について、専門の講師から実践的な講義を受ける。 6) 小論文(作文)の作成にとりくむ① 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の使い方などを学ぶ。	教養、常識問題プリント」にと	りくむ。			
6) 小論文 (作文) の作成にとりくむ① 何を書くかテーマを決める。文章表現の基本、原稿用紙の 使い方などを学ぶ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 7) 小論文 (作文) の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にと りくむ。 8) 一般教養・保育士専門試験 (公務員試験レベル) の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自 分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9)-12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」 (大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認 (100%) ②実技・作品発表 (%) 【定期試験】 ① (②) に 試 験 (%) ②レ ボート (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 「フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	5) 「マナー講座」をおこなう。	面接試験	で求められる面接のマナー、言葉づかい	の注意、面接でよ	
使い方などを学ぶ。 「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 7) 小論文(作文)の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 8) 一般教養・保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9)-12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験(%) ②レ ポート(%) ③実 技 試 験(%) ③更 技 試 験(%) ④面 接 試 験(%) ④面 接 試 験(%) 「で知試験」 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	く聞かれる質問等について、専	門の講師か	ら実践的な講義を受ける。		
「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 7) 小論文 (作文) の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 8) 一般教養・保育士専門試験 (公務員試験レベル) の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9)-12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」 (大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 「フィードバックの方法」 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	6) 小論文(作文)の作成にとり	りくむ①	何を書くかテーマを決める。文章表現の	基本、原稿用紙の	
7) 小論文 (作文) の作成にとりくむ② 完成させる。「一般・専門教養、常識問題プリント」にとりくむ。 8) 一般教養・保育士専門試験 (公務員試験レベル) の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9)-12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」 (大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認 (100%) ②実技・作品発表 (%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ボ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	使い方などを学ぶ。				
りくむ。 8) 一般教養・保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9)-12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ② レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ② レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ② ア常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	「一般・専門教養、常識問題プ	リント」に	ことりくむ。		
8) 一般教養・保育士専門試験(公務員試験レベル)の問題にとりくむ。その傾向と対策を学ぶ。自分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9)-12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験(%) ②レ ポート(%) ③実 技 試 験(%) ④面 接 試 験(%) 平常点評価 ☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	7) 小論文(作文)の作成にとり	くむ② き	完成させる。「一般・専門教養、常識問	題プリント」にと	
分の長所と課題を知るために「自己分析表」を作成し、自己評価に役立てる。 9)-12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポート (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	-				
9)-12) 学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。 [使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」(大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]				と対策を学ぶ。自	
[使用テキスト] 「キャリア支援ガイド」 (大学作成) [参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認 (100%) ②実技・作品発表 (%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]					
[参考文献] 特になし [試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	9)-12) 学内外の就職フェアへの)参加を行い	います。詳細は授業内にガイダンスを行	います。	
[試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	[使用テキスト] 「キャリア支持	援ガイド」	(大学作成)		
【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]					
【平常試験】 ①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポート(%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]					
①到達度の確認(100%) ②実技・作品発表(%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]		3-1-1			
②実技・作品発表 (%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]					
【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]					
 ①筆記試験(%) ②レポート(%) ③実技試験(%) ④面接試験(%) 平常点評価 ☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考] 					
②レ ポ ー ト (%) ③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	T				
③実 技 試 験 (%) ④面 接 試 験 (%) 平常点評価 ☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]					
 ④面接試験(%) 平常点評価 ☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考] 					
平常点評価 ② 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]					
平常点評価 □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	(4)			- Nm	. 1
□ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]	平常点評価				
授業内で作成したレポート等について個別に指導する。 [備考]		口 受請	觜態度その他必要と認められる事項を学 値	形成果の評価に加明	ミしない
[備考]			11. 114.246.3		
		ついて個別	川に指導する。		
学内外の就職フェアへの参加を行います。詳細は授業内にガイダンスを行います。					

子ども福祉学科		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者
キャリアアップ教育IV	演習	代田 盛一郎
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 4 セメスター
□ 実務経験		
[授業の目的・ねらい] 社会人、職業人	、として求められる能力を身につけ、2年	生時での就職活動を進め 主に対応するDF
ていくための基礎的な力を身につける。		4
[授業全体の内容の概要] 「キャリアす	反援ガイド」(大学作成)などを学習する。	社会人になるための素養と就職活動に
必要な知識を学ぶ。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)]	履歴書の作成、面接、小論文など就職活動	動に必要な課題に取り組み、自信をもっ
て就職試験に取り組める力をつける。家	t職後に備え、社会人としての素養を可能	な限り身につける。
[授業の日程]	と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) 就職活動等の計画を立てる。キャリ	アアップ教育Ⅲを踏まえ、就職に向け、2	2年生後半に各自が
行わなければならない課題を設定する。	各自の就職活動の到達状況について、クラ	ラスおよびグループ
で交流する。「一般・専門教養、常識問	題プリント」(今回から①~⑥)にとり〈	くみ、知識を広げる
努力を進める。進路アンケートに記入す	⁻ る。	
2) 保育士登録・幼稚園免許状申請の方	法を学ぶ。	
3) 社会人としての基礎力を養う(その	1)。社会人とは何か。国民の3大義務、	参政権などの基本
的人権について学習する。自己の長所、	短所等を自己分析する。「一般・専門教育	養、常識問題プリン
ト」にとりくむ。		
4) 社会人としての基礎力を養う(その	2)。労働者とは何か。働くことと労働者	者の生活、権利、内
定後の生活、心がけること、仕事とスト	・レスについて。「一般・専門教養、常識問	問題プリント」にと
りくむ。		
5) 社会人としての基礎力を養う(その	3)。労働者の諸権利、労働法制について	て学ぶ。この課題を
テーマに、外部からの専門的な講師の搭	受業を受ける(「ワークルールセミナー」) 。
6) 社会人としての基礎力を養う(その	4)。「仕事のやめ方」を学習。退職、輔	伝職のとらえ方、退
職と労働者の権利等を学び、積極的に再	F就職に向くように、必要な知識を身につ	ける。「一般・専門
教養、常識問題プリント」にとりくむ。		
7) 働く先輩の話を聞く。保育所、こど	も園、幼稚園、児童養護施設等で働く卒業	業生から、現場の楽
しさ、苦労、やりがい、生活等の話を聞	き、働くことへの意欲を高め、就職活動の	の取り組みの強化を
はかる。		
8) まとめ。自らの将来を展望しながら	、2年間の短大生活をふりかえり、自らの	の成長、これからの
キャリア、生き方などについての考えを	きまとめる。	
[使用テキスト]「キャリア支援ガイド」	(大学作成)	<u> </u>
[参考文献]特になし		
【平常試験】		
①到達度の確認 (100%)		
②実技・作品発表 (%)		
【定期試験】		
①筆記試験(%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
(4)面 接 試 験 (%)	7. # 松克 7. 5 L. 7 東京之 2	- W-> H o = 1/m) - + + + + + +
	を講態度その他必要と認められる事項を学	
	受講態度その他必要と認められる事項を学	・18以朱の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	ロロリントが洗すって	
授業内で作成したレポート等について個	別に指導する。	
[備考]	ト 詳細け授業内にガイダンスを行います	

ども福祉学科	Les Niles and a service of the servi	
授業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習	
情報リテラシー演習	演習	
授業の回数 8 回	1 11 12 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	単位 配当 3 セメスター
▼ 実務経験		や、チラシ・帳票類の作成を行い、その経験に基づ
いた実践に役	さつ技能や情報を講義で伝える	
[授業の目的・ねらい]		主に対応するDI
		、メールや SNS の使用においては、他 4
		ポスターを Word や PowerPoint を使用
して作成できるスキルを身につ	ける。	
[授業全体の内容の概要]		
	報を適切に活用できる技能を養い、	それを実践できるパソコンスキルを、演習課題を交え
ながら学んでもらう。 		
[授業修了時の達成課題(到達目	. 1010	do 1 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1
		身につけ、Windows の基本操作や「Word」「Excel」
「PowerPoint」を使用して身近		
2000 11 20 11	のテーマ・内容・授業方法] 	[準備学修の内容]
	ュリティ、メール・Web コミュニケー	-ショ
ン、モバイル機器の活用と管理		
2) Windows の基本操作、Word で	で基本的な文章作成	
)Word(図、表、画像の挿入、	段組み、PDF)、Excel(表の作成の	基本
操作) 		
)Excel(グラフの作成)		
i) Excel (データベース、シー	ドの操作)、PowerPoint(プレゼンラ	ーシ
ョン作成の基本操作)		
5) PowerPoint(図形、画像の指	挿入、画面切り替え、アニメーション	チラシ、ポスター作製のための構想を練る(3 分~1 時間)
7)「Word」または「PowerPoin	t」でチラシ、ポスター作製①	チラシ、ポスター作製のための構想を練る (3 分~1 時間)
B) 「Word」または「PowerPoin	t」でチラシ、ポスター作製②	
 [使用テキスト]		
『情報リテラシー 入門編 Wind	lows 10 / Office 2019 対応』,209	20 年, FOM 出版
[参考文献]		
試験の方法と学修成果の評価基	基準]	
【平常試験】		
① 到達度の確認(50%)	講義内容や PC 機能の理解や操作の習	習得度を、授業内や提出課題において確認する。
② 実技・作品発表 (30%)	Word、PowerPoint で作成したチラシ	・ポスターの発表で、到達度や完成度を評価する。
【定期試験】		
① 筆 記 試 験(%)		
② レポート(20%)	最終授業で作成したチラシ、ポスタ	ー をブラッシュアップして提出する。
③ 実技試験(%)		
① 面接試験(%)		
	☑ 受講態度その他必要と認めら	れる事項を学修成果の評価に加味する
平常点評価		れる事項を学修成果の評価に加味しない
7. 8時間目でしっかり チラ	シ、ポスターづくりの演習の時間を	確保し、その中で、まとめや総評 大事かポイント
7, 8時間目でしっかり、チラ を伝える。	シ、ポスターづくりの演習の時間を	確保し、その中で、まとめや総評、大事なポイント

子ども福祉学科		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実持	
社会福祉	講義	稲垣 由香里
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	L
	E支援センター職員としての経	
動向と課題について理解し、考察できる。		基礎的な知識を学び、社会福祉の 主に対応するDF 3
		で遷や社会福祉における子ども家庭支援の視点に
ついて理解する。また、社会福祉の制度や かかわる仕組み、社会福祉の動向と課題に		こ、社会福祉における相談援助や利用者の保護に
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 社に基づいて説明できる。	会福祉の基礎的な事項や子ど	ら家庭における現状と課題について、学んだ知識
[授業の日程と各回のテーマ・		[準備学修の内容]
1) オリエンテーション:社会福祉の概念		・予習:社会福祉の概念についてテキストの該 当頁を確認する。(20分)
2) 社会の変容と暮らし:現代社会の現状	と課題(ディスカッション)	・予習:現代社会の現状と課題についてテキストの該当頁を確認する。(20分) ・復習 現代社会の課題について取り上げた記事・ニュースを確認する。(30分)
3) 子どもと家族の福祉:妊娠・出産にお	ける子育て支援の仕組み	・予習:子どもと家族の福祉についてテキスト の該当頁を確認する。(20分)
4) 社会福祉と関係法:戸籍制度と親権((グループワーク)	・予習:社会福祉と関係法についてテキストの該当頁を確認する。(20分)
5) 子どもの養育に関わる制度・施設・行		・予習:子どもの養育に関わる制度についてテ
児童手当などの制度と子育て支援の国 6) 社会福祉サービス利用の仕組み	除比較	キストの該当頁を確認する。 (20分) ・予習: 社会福祉サービス利用の仕組みについ
利用者の立場に立った社会福祉制度の		て該当頁を確認する。(20分)
7) 社会保障と関連制度:社会保障の仕組	みと年金制度・医療保険	・予習:社会保障と関連制度についてテキストの該当頁を確認する。(20分)
8) 前半の振り返り・確認小テスト		・1) ~7) の講義内容を復習する。(120分)
9) 地域福祉:地域福祉の捉え方(グルー	プワーク)	・予習:地域福祉についてテキストの該当頁を確認する。(20分)
10) 地域福祉:地域福祉の捉え方と地域福	祉を支える機関・団体	・予習:地域福祉についてテキストの該当頁を確認する。(20分)
11) 障がい児・者福祉: 障がいの捉え方や	制度、合理的配慮の視点	・予習:障がい児・者福祉についてテキストの該当頁を確認する。(20分)
12) ソーシャルワーク:保育士がソーシャ	ルワークを学ぶ意義	・予習:ソーシャルワークについてテキストの
ソーシャルワークの体系 13) 低所得者福祉:子どもの貧困と支援、	型連制度	該当頁を確認する。(20分) ・予習:低所得者福祉についてテキストの該当
10 MATH	IAC IIIA	頁を確認する。(20分)
14) 高齢者福祉:介護保険制度と利用者保	護	・予習:高齢者福祉についてテキストの該当員を確認する。(20分)
15) 総括:確認小テスト		・9) ~15) の講義内容を復習する。(120分
[使用テキスト]		
立花直樹、他(編著), 『プラクティス/	保育・福祉のはじまり「社会	福祉」』,2024年,ミネルヴァ書房
[参考文献] 適宜資料を配付		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(100%)リアクショ	ンペーパーの提出と授業内で	2回実施する確認小テストにより評価を行う。
②実技・作品発表 (%)		
【定期試験】		
①筆記試験(%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④ 接 試 験 (%)		
	能度その他必要と認められる	事項を学修成果の評価に加味する
亚堂占証価		事項を学修成果の評価に加味しない
	. フィ・し、	『施後に解説し、フィードバックを行う。
[備考]		

チとも福祉字科 			
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習	・実技・実習)	授業担当者
子ども家庭支援論	講義		稲垣 由香里
授業の回数 15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当 3 セメスター
☑ 実務経験 児童養護施設・児童家庭	E支援センター職員の経験	を踏まえて、抗	受業を行う。
[授業の目的・ねらい] 現代の子どもを取	り巻く社会状況と家庭支払	爰、子育て支援	について現状と課題を 主に対応するDP
理解する。また、保育の専門性を活かした			足し、支援体制を学ぶ。 2
さらに、地域の子育て家庭への多様な支援			ラウナ域を存さましの 本 業し初めと四
[授業全体の内容の概要] 家庭の意義と家解する。さらに子育てを取り巻く状況につ			
展開と関係機関の連携について考察を行う			
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 子			
ども家庭支援の意義と基本について理解で			ついて理解できる。子育て家庭のニー
ズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭		て理解できる。	
[授業の日程と各回のテーマ・内			[準備学修の内容]
1) オリエンテーション:子ども家庭支援の)基本的考え方	・自分の「強	み」について考える。(10分)
(ディスカッション) 2) 子ども家庭支援の目的と機能		• 促杏而促苔	「指針・幼稚園教育要領を確認する。
保育所保育指針・幼稚園教育要領にみる	子ども家庭支援	(20分)	11日年1 クリ中国公内外で推開する。
3) 社会環境の変化と子ども家庭支援			対策白書を確認する。(20分)
データで見る日本の現状			
4) 保育の専門性を活かした子ども家庭支持	受とその意義		で観察した子ども家庭支援について
子ども理解と保護者理解		振り返る。(
5) 子育て家庭を支える法・制度および社会	÷資源 		いて条文を確認する。 (20分)
6) 保育士に求められる基本的態度			『で観察した保育士の対応について振 0.00
7) 保育士としての自己理解・他者理解(2)	デループローカ)	り返る。(2	0分) こおける自己覚知について振り返る。
(7) 休月エとしての自己達牌・他有達牌(2	·/v-/9-9)	(20分)	- わりる日に見知に"フいて派り返る。
8) 前半の振り返り・確認小テスト			講義内容を復習する。(120分)
9) 保育所を利用する子どもの家庭への支払	·····································	・保育所実習	『で観察した保護者対応について振り
		返る。 (20	
10) 地域の子育て家庭への支援			観察した地域支援について振り返る。
 11) 要保護児童等及びその家庭に対する支		(20分)	学んだ支援について振り返る。
多機関連携による子ども家庭支援(デ		(20分)	于70亿文版に 20 で派り返る。
12) 障害のある子どもの理解と家庭に対す			や施設実習で観察した障害児支援に
			る。(20分)
13) 子どもの貧困の理解と家庭への支援			[困に関する記事・ニュースを確認す
		る。(20	
14) 子ども家庭支援におけるソーシャルワ	ーク (グループワーク)	・日常の相談	場面について振り返る。(20分)
15) 総括・確認小テスト		・9)~15)の言	講義内容を復習する。(120分)
[使用テキスト] 講義内で必要な資料を配	付		
[参考文献] 講義内で必要な資料を配付			
[試験の方法と学修成果の評価基準]			
【平常試験】			
	ンペーパーの提出と授業	内で2回宝施す	トる確認小テストにより評価を行う。
②実技・作品発表 (%)	**************************************		2 MEBEN 1 / 2 / 1 (C & 2 II I III G I I 2)
【定期試験】			
①筆記試験(%)			
②レポート(%)			
③実 技 試 験 (%)			
④ 接 試 験 (%)			
	態度その他必要と認めら	h.ス重佰た学修	5成果の評価に加味する
平常貞評価			が成果の評価に加味する を成果の評価に加味しない
□ ヌ神 □ ヌ神 □ ス神 □ ス神		いるずなて于形	>/AZZU < > U Im(← \/ \/ \/ \/ \/ \/ \/ \ \ \ \ \ \ \ \
[備考]			
【別用名】 ※体田ニャスト及び会来立就は図書館に幼めこれ。			

子

授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	· 実習) 授業担当者
子どもの理解と援助	演習	山本 翔太
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1	単位 配当 3 セメスター
☑ 実務経験 児童発達支援セン	/ターで発達相談員として勤務してお	り、現場での実践を踏まえた授業を行う。
授業の目的・ねらい]		主に対応するD
子どもの発達を理解し、その過程で	生じるつまずきや、様々な問題につい	っても触れ、それらに対する援助 1
つあり方を学ぶ。また、子どもへの	援助と共に、保護者の理解や、支援の	つための知識や技術を学ぶ。
授業全体の内容の概要]		•
子どもの姿を発達的な視点を踏まえ	て理解を深めていく。発達の過程で生	こじるつまずきや、障害、子育てに関わる現代的
課題について、具体的な事例を通し	て理解を深め、子どもや保護者への技	受助・支援のあり方について学ぶ。
授業修了時の達成課題(到達目標)]	
子どもの発達を把握することの意義	について説明できる。子どもや保護者	その持つ、様々な悩みや問題を理解し、それにな
して自分なりにどのような援助・支	援を行っていけばよいか、考察するこ	ことができる。
[授業の日程と各回のラ	ーーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
)子ども理解の意義と基本的な視点	点	発達心理学に関する基本的な視点を調べてお
		< ∘
と) 子どもを理解する方法 (観察・教	・ 発達検査・面接などについて)	
3) 子どもの生活と遊び		自分自身の子どもの頃の生活や遊びをふり返
グループワークを通して生活や過	佐びの支援を考える。	りメモをまとめておく。
) 子どもの集団での育ち		集団経験が子どもにもたらすことについて、
グループワークを通して子どもし	ことっての集団経験の意義を考える。	自分の考えをメモにまとめておく。
発達の過程におけるつまずきや	章害をもつ子どもの理解と援助	「発達心理学」や「障害児保育」の授業内容
		を復習しておく。
う) 子育てに関わる現代的課題と援助		子どもを取り巻く様々な課題・社会情勢な。
		のニュース・新聞記事に目を通しておく。
7)保護者との連携・支援		保育現場で保護者への支援をどのように行っ
到達度の確認テスト		ているのか調べておく。
3) 就学への支援		園から小学校への「移行期」について調べて
まとめとふりかえり		<.
[使用テキスト]		
必要に応じてレジュメ、参考資料を	配布する。	
参考文献		
	が変わるとき』,2018年,かもがお	出版
試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
	*もへの援助のあり方、保護者や職員	間の連携について考察できる。
②実技・作品発表 (%)		
【定期試験】		
D筆記試験(%)		
③実技試験(%)		
	英継能庁之の仏ツ冊し妻以といって	f 佰も学校式用の部件) テカロナーフ
平常点評価		
フィードバックの方法]		
.フィードハックの万伝」		

授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演	習・実技・実習)	授業担当者	
保育内容(環境)	演習		前日	日 公美
授業の回数 8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当 3	セメスター
☑ 実務経験 社会福祉法	人大地福祉会遊こども園園長として	ての経験を踏まえ	<u> 授業を行う</u>	
[授業の目的・ねらい]				主に対応するD
	て考え、環境を通して行う保育に	ついて学ぶ。		1
[授業全体の内容の概要]				
	から「環境」について理解を深め、			I -);)
	促す環境構成の工夫や保育者とし、	ての役割を埋解し	ン、思考刀・美践力	力をつける。
[授業修了時の達成課題(到達目・スピルを取り券と環境(自然)	ョほ)」 ・動植物・人・物・社会環境等)(こついて思ふたる	・モー白と老うとも	n Z
	・動植物・八・物・社云泉境寺)。 かわり生活や遊びに取り入れてい。			
望ましい環境について考えられ			F77号を通じて子(), 1 c 0/cc) (
	▼。 最も影響力のある人的環境である。	ことを自覚し、自	自らの生き方や態度	度を考えようとする
[授業の日程と	各回のテーマ・内容・授業方法]		[準備生	 学修の内容]
1) 子どもの育ちと領域「環境」	J ①			
領域「環境」とは・	環境を構成するとは			
2) 子どもの育ちと領域「環境」] 2		前回の授業の復	E E
・子どもの発達と環境・	子どもの好奇心・探求心			
3) 身近な環境とのかかわり①			前回の授業の復	NA É
・さまざまな物とのかかわ	り (グループワーク)			
4) 身近な環境とのかかわり②	・自然とのかかわり		前回の授業の復	習
5) 身近な環境とのかかわり③		グループワーク	用デザイン案の作品	
・保育環境と環境構成(保	育室内環境・園庭環境)(グルー)	プワーク)	前回の授業の復	百
6) 人的環境① ・子どもの遊びを支える保育者の役割		前回の授業の復	iii iii	
7) 人的環境② ・友達とのかか	いわり(同年齢児・異年齢児とのか	かわり)	前回の授業の復習	
8) 授業のまとめ			全7回の授業の	復習
[使用テキスト]				
・講義内で必要なプリントを配	布			
[参考文献] ・近藤幹生(監修)				
	,『子どもの生活・環境・遊びに	[向き合う] , 20	13年,萌文書林	
[試験の方法と学修成果の評価基	[
【平常試験】				
①到達度の確認(50%)				
②実技・作品発表 (50%)				
【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%)				
① 単 記 試 映 (%) ② レ ポ ー ト (%)				
③実 技 試 験(%)				
① 接 試 験 (%)				
	☑ 受講態度その他必要と認め	られる事項を学ん	※成果の評価に加り	 味する
平常点評価	□ 受講態度その他必要と認め			
			- , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
L 2 1				

子ども福祉学科			
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者	
保育内容(人間関係)	演習	橋本 永	子
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3 セメ	スター
☑ 実務経験 保育者としての経験を活	5かし、事例をもとに乳幼児を中心とし	た人間関係の形成につい	ヽて考える
[授業の目的・ねらい]			ナルサウィフロ
乳幼児の発達・成長に必要な「人間関係」	の形成における保育者の援助について	理解する	主に対応するDP
あそび等の実践を通して、人間関係を深め	る具体的な方法を身に付ける		1
[授業全体の内容の概要]			
領域「人間関係」のねらいや内容を踏まえ	た実践から、乳幼児の人間関係形成に:	おける保育者の援助につ	いて講義する
こども・保育者・保護者をつなぐ方法とし	て、あそび等の実践について演習を行	j	
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
領域「人間関係」のねらいや内容を踏まえ	、乳幼児の人間関係構築に於ける保育	者の援助について説明で	きる
こども・保育者・保護者をつなぐ方法とし	て、あそび等の実践指導ができる		
[授業の日程と各回のテーマ・	内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) オリエンテーション こども観察記録:	ンートについて 親子等	の関わり観察	
	親子等	 の関わり観察	
3) 幼児の人間関係		の関わり観察	
4) 乳幼児の人間関係についての実践「おる		の関わり観察	
5) 到達度テスト①		の関わり観察・幼児期の	かそび体験
6) こども・保育者・保護者をつなぐあそび		の関わり観察・幼児期の	
7) こども・保育者・保護者をつなぐあそび		の関わり観察・幼児期の	
8) 到達度テスト②		の関わり観察・幼児期の	
9)	N. 1. 4.	*ノ ス 4フ ノ 戦/示 - ジリノロバリ *	
10)			
11)			
12)			
13)			
14)			
15)			
[使用テキスト]			
適宜資料配付			
[参考文献]			
□ 文部科学省(著), 『幼稚園教育要領解	翌治 平成 20 年 2 日』 2019 年 フレ	一、ベル・名台	
■ 又部件子自(者), 『幼稚園教育妄识所 ■ 厚生労働省(著), 『保育所保育指針解			
[試験の方法と学修成果の評価基準]		7 - ДН	
【平常試験】			
①到達度の確認(100%)第5回・第	8回に到達度確認テスト①②を行い評		
②実技・作品発表 (%)			
【定期試験】			
①筆 記 試 験 (%)			
②レポート(%)			
③実 技 試 験 (%)			
(4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)			
		 修成里の評価に加味する	
平常点評価 平常点評価	態度その他必要と認められる事項を子		
コーヌ曲 [フィードバックの方法]	一点人 こう回点 女 こ 即 ツ り 4 0 夕 事 以 色 十	シッペンド・2月1 M (こ/)ロ/)N し (4	. •
上ノイ	ドバックを行う		
[備考]事前学習:幼稚園教育要領等、領域		て学習しておく	
・毎回子ども観察記録シートを提出する	CONTRACTOR MODIFICATION	· 1 日 ○ / 40 /	

チとも <u>保祉学科</u>				
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習	・実技・実習)	授業担当者	
保育内容(健康)	演習		出水 和	美
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1	単位	配当 3 セメ	スター
☑ 実務経験 保育者として 16年	三(現在に至る)の経験のよる第	実践的内容を踏	ほえ授業を行う。	
[授業の目的・ねらい]				主に対応するDP
・乳・幼児期の子どもの発達を心身高	両面から捉え、領域「健康」の	内容を理解する	00	1
・保育内容「健康」を実践する為に、	身体運動、生活習慣、食事、	安全教育などに	こついて知識や技能を	
習得する				
[授業全体の内容の概要]				
テーマに応じて、実技やグループ討論				
[授業修了時の達成課題(到達目標)				
保育現場で応用実践できる「健康」に		導方法を習得す ■■■■	-	
[授業の日程と各回のテ	ーマ・内容・授業方法」		[準備学修の内容	
1) 第1章 保育の基本と領域「健康]			
2) 第2章 乳幼児の身体と健康				
3) 第3章 乳幼児の生活リズムと生	活習慣 → 指導(第8章)			
4) 第4章 乳幼児期の食生活 →	食育にかかわる指導(第9章)			
5) 第5章 乳幼児の運動発達 →	運動遊びにかかわる指導(第1	0章)		
6) 第6章 乳幼児期の安全 →安全への配慮と子ども	っへの安全教育(第11章)			
7) 第7章 領域「健康」と保育方法				
8) 第12章 領域「健康」にかかわ	る現代的課題と動向			
[使用テキスト]				
河邉 貴子、他(編),『保育内容	「健康」(最新保育講座)』, 2	2009年,ミネノ	レヴァ書房	
[参考文献]				
[試験の方法と学修成果の評価基準]				
【平常試験】				
①到達度の確認 (50%)				
②実技・作品発表(%)				
【定期試験】				
①筆 記 試 験 (%)				
②レポート(50%)				
③実 技 試 験 (%)				
④面 接 試 験 (%)				
	西港能庁之の加沙西し知はさ、		SGU P D 証 価 / z th n th - ナフ	
平常点評価	受講態度その他必要と認めら			
	受講態度その他必要と認めら	れる事埧を字修 	※ 放果の評価に加味しな	
[フィードバックの方法]				
[備考]				

ども福祉学科			
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・領	実技・実習)	授業担当者
総合表現	演習		甲〆 由利子・井下 べに・伊藤 達也
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単	位	配当 4 セメスター
□ 実務経験			
授業の目的・ねらい]			主に対応するD
保育内容における表現技術を応	用し、表現活動を体験することで子ど	もにとっての	の表現について学ぶ。 1
自らが表現者として取り組むこ	とを通して、一つの作品を協力・協同	しながらつく	りあげる中で、表現を
通した集団づくりを体験的に学	<i>ప్</i> .		
授業全体の内容の概要]			
呆育士・幼稚園教諭が、表現活	動の指導を行う上で必要とされる知識	、技術を体験	倹的に習得し、協同して取り組む。
集団的議論の中で、企画・立案	・準備・作品完成の過程を通して、協	同して取り約	且むことの重要性を習得する。
授業修了時の達成課題(到達日			
保育士・幼稚園教諭として必要	とされる表現活動の知識・技術を総合	的に習得し、	その成果を発表できる。
また、保育現場における表現活	動では、何が重要であるかについて説	明できる。	
[授業の日程と各回]のテーマ・内容・授業方法]		[準備学修の内容]
)2)オリエンテーション		本授業は	ュ、学生の主体性を非常に大切にして
題材を決め、グループ内で	で分担等話し合う。	いる。」	取り組みの進捗状況によっては、授業
) 4) 教材分析、構成について	託し合う	外での	自主活動が必要な場合もある。個々の
) 6) 各分担での作業(台本、		 役割に	責任と自覚を持って挑むように普段な
) 8) 各分担での作業、劇づく		ら心がし	けてほしい。
) 10) 劇づくり (脚本案に沿っ			
1) 12) 劇づくり (脚本案に沿			
音響や道具と合わせる			
3) 14)練り直し、リハーサル②	2)		
式験)劇の発表をする	. 1 ×		
5) 本番や授業全体の振り返り	をする 		
使用テキスト			
寺に指定しません。			
参考文献]			
適宜資料を配布します。			
試験の方法と学修成果の評価基	表準]		
【平常試験】			
D到達度の確認(70%)	活動記録表、振り返りレポート		
②実技・作品発表(30%)	劇の発表		
【定期試験】			
D筆 記 試 験 (%)			
②レポート(%)			
③実 技 試 験(%)			
①面接試験(%)			
	☑ 受講熊度その他必要と認められ	る事項を学作	************************************
平常点評価	□ 受講態度その他必要と認められ		
	ロ 文冊窓及(ソ門公安)にのりり	シザスです!	> by √ v × v 1
7 . 18 .8 . 4 . T. 14 . 1			
フィードバックの方法]	数マグの担用しみったは、^^・・	.)	
	終了後の提出となるため、Google cla	ssroom にて	フィードバックを行います。

子とも保祉学科		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者
子どもの保健Ⅱ (健康と安全)	演習	山口 千惠子
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3 セメスター
☑ 実務経験 医療機関及び保育所に	 こおける看護業務の経験をもとに授業を行う。	0
	を基本にした保健活動を行う。	主に対応するD
	義や方法を理解し応用することができる。	,
③ 心身の課題を抱える子どもへの保健的	的働きかけを考察する。	
[授業全体の内容の概要]		
集団保育の中の保健活動の基礎知識を身は	こ付けて実践できるように、演習・シミュレ	ーションを重点にした授業を行う。
[授業修了時の達成課題(到達目標)]		
保育の中の保健活動、子どもの健康と安全	全を守る具体的な方法を理解し実践できる技	能を身に付ける。
[授業の日程と各回の	テーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) 保健Ⅱ授業の概要説明・講義(30分)	授業ふり返りレポートを当日提出
	「環境と保健衛生、専門職の連携	
演習:身体測定・健診介助(30分)	各回ミニレポート (30分)	
2) 講義 (30 分) 海羽・保奈山に予測される子どもの思う	常症状や病気を想定して基本の看護(40分)	
	どものケガ・事故・誤飲・アレルギーショッ	2) の授業ふりかえりレポート提出
クなどを想定した保護者対応と応急処		
シミュレーション:応急処置(40分)		
4) 講義(30分)集団保育を想定した一時	持救命処置	3) の授業ふりかえりレポート提出
シミュレーション:心肺蘇生法(40分)	やわらかい空ペットボトル1本
5) 講義(20分)予防医学的視点をもちこ	L どもの主体性を促す健康教育	4) の授業振り返りレポート提出
	表診断・平和と性教育・身体づくりなど)	
	(50分) テーマ・教材・ストーリー・担当者	
6) プレゼンテーション (40分) テーマ:健康教育(手洗い指導・虫歯 ⁻	予防・食育・性数育・身休づくりたり)	5) の授業振り返りレポート提出
教材づくりの例:紙芝居・ペープサー		
7) 講義 (15分) 今求められる子どもの主		6) の授業振り返りレポート提出
演習(40分)ベビーマッサージ・赤ち	ゃん体操(DVD 使用)	授業ふり返りレポートを当日提
8) ふりかえりとまとめ		
[使用テキスト] 授業中に資料を配布する	5.	
[参考文献]		
■鈴木美枝子(編), 『保育者のための■髙内正子(著), 『心とからだを育む-	「子どもの健康と安全」 [改訂版] 』, 2022	年,創成社
	F 20 分!子どものからだと心を元気にする	「つむぎ休撮」』 2011 年 合同出
	赤ちゃん体操&ベビーマッサージさあはじぬ	
	った・おおきくなあれ―保育園の健康教育 36	
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(%)		
②実技・作品発表(%)		
【定期試験】		
①筆 記 試 験 (50%)		
②レポート(50%)		
③実 技 試 験 (%)		
(4)面 接 試 験 (%)		
	と講態度その他必要と認められる事項を学修 ₆	 戈果の評価に加味する
平常点評価	と講態度その他必要と認められる事項を学修R	
[フィードバックの方法]		
ミニレポート・筆記試験・シミュレーショ	ョンの講評は授業時間内に行う※レポートの	み適宜加筆して返却する。
[備考]		

子

授業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習・実	技·実習)	授業担当者
保育・教育相談演習	演習		山本 翔太
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1	単位	配当 3 セメスター
☑ 実務経験 発達相談員(心理職)	として勤務しており、保育・療	ま育現場を 中	中心とした実践を踏まえた授業を行う
授業の目的・ねらい]			主に対応するD
子ども自身や、子育て中の保護者が抱えて	ている生活上の様々な悩みや不	安などへの)理解を深め、保育・教 1,2
育と相談援助のかかわりやその役割を学び	び、実践へとつなげていく。		
授業全体の内容の概要]			
礼幼児期の子どもを中心に、発達過程でタ			
る悩みや不安について理解を深める。その			
と共に、援助を実施していくにあたり、タ	地域の社会資源の活用や関係機	と関との連携	考について理解する。
授業修了時の達成課題(到達目標)]			
子どもの発達と、その過程で生じる問題の	つとらえ方を学び、具体的な事	例に対して	どのような支援や対応を行えばよいの
かを説明できるようになる。 		I	
[授業の日程と各回のテーマ	・内容・授業方法]		[準備学修の内容]
1) 保育・教育相談の意義と役割		1	習などで保育者が子どもや保護者にと
子育てを取り巻く現代の状況・保育と	相談援助について 		こ関わっているのかを観察する。
2) 相談援助について考えてみよう			国際生活機能分類)について調べてお
相談援助の視点と基本的技法・個別ワ	ークを通して自己理解を深める		
り相談援助者になるために I	0		どの相談などを「傾聴」する体験をし
他者理解・共感的理解の方法を、ロー	·ルプレイを通して字ぶ 	てみる。	
」)相談援助者になるためにⅡ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	د کلامت ر کر باد د رافت د باد .		語コミュニケーション」について、ど
基本的態度とコミュニケーション技術	を、ロールプレイを通して字。		ものか事前に調べておく。
5) 相談援助をすすめるために I			主む地域の社会資源(子どもに関する
生活課題の把握・社会資源の活用・関	徐煖鬨との連携		爰を行っている場)を調べておく。 サマナルといる場)を調べておく。
5) 相談援助をすすめるためにⅡ 担勢採曲のプロセスの理解			助で求められる技法について復習し [、]
相談援助のプロセスの理解		おく。	
/) 授業のまとめと到達度の確認 事前課題をもとにしたグループワーク	レー列達度の確認テフトを宝	tida:	
3) 子どもの発達的課題と理解・授業のま			
事例をもとに相談援助のプロセスの理解			切りプロピハにリャで後日しておく。
「使用テキスト」	けと体が、反来主件となり返る	<u> </u>	
込要に応じてレジュメ、参考資料を配布 ⁻	す る。		
「参考文献」	, 00		
道田 章 (著), 『保護者とかかわるとき(のきほん』. 2014 年. ちいさい	いなかま社	
試験の方法と学修成果の評価基準]		3111 31 12	
【平常試験】			
①到達度の確認(100%)			
②実技・作品発表 (%)			
【定期試験】			
D筆 記 試 験 (%)			
②レポート(%)			
③実 技 試 験 (%)			
①面 接 試 験 (%)			
☑ 중	講態度その他必要と認められる	う事項を学	 多成果の評価に加味する
平常点評価			
平市总計(2) 「	講熊度その他必要と認められる	5事項を学作	参成果の評価に加味しない
フィードバックの方法] □ 受	講態度その他必要と認められる	事項を学修	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

[備考]

子ども福祉学科						
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習	・実技・実習)	授業担当者			
保育・教職実践演習	演習		実習	₹G 2		
授業の回数 1.5 回	時間数(単位数)	2 単位	配当 4			
□ 実務経験	··1639(4-E39)	5 + <u>12</u>	1 11 1			
[授業の目的・ねらい] これまでの学習 について総合的に学びを深め、現場での実 確にする。目標の達成に向けて努力をする	選力を高める。保育者・教 中で自らの保育観・教育	数育者としての自 観を深化させるこ	身の課題や目標を とを目的とする。	≥明 1		
[授業全体の内容の概要] 今までの実習る。保育現場の見学やディスカッション、						
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 体験を振り返り、考察して学び、実践とつ	っなぐことを通じて、自ら	の保育観・教育観	見を深める。			
[授業の日程と各回のテ	ーマ・内容・授業方法]		[準備学	修の内容]		
1) オリエンテーション/これまでの実習の 全体のオリエンテーション。学習の振り 習体験を振り返り、個人面談を通して到達と	返りのためのカルテを作成す	する。今までの実		閉の記録』を読み返 図りを行う。		
2) これまでの実習の振り返り② これまでの実習体験を振り返り、個人面間 めざす保育者像」を書く	炎等を通して到達と課題を明	確にする。「私の	前講を振り返りしる。テーマは授業			
3) 事例検討とディスカッション・学習① 「安全・事故防止」「保護者対応」等のテー 事例検討・学習を行う。	マをピックアップし、グルー	ープワーク形式で	前講を振り返りしる。テーマは授業			
4) 施設見学 (ガイダンスを含む) グループ毎に見学の視座を明らかにし、 も	施設見学を行う(保育所、約	動稚園、認定こど		レポートを提出す 約に説明する。		
5) 指導案作成(教材研究・準備を含む) 施設見学のまとめを参考に模擬保育、現場 6) 指導案作成(教材研究・準備を含む)	場実践の指導案作成、教材研	f究・準備を行う。				
施設見学のまとめを参考に模擬保育、現場 7) 指導案作成(教材研究・準備を含む)			る。テーマは授業 前講を振り返り	的に説明する。 レポートを提出す		
施設見学のまとめを参考に模擬保育、現場 8)模擬保育(リハーサルを含む) 保育者、子ども、ギャラリーの3つのロー			前講を振り返り	レポートを提出す		
相互評価を行う。 9) 模擬保育 (リハーサルを含む) 保育者、子ども、ギャラリーの3つのロー相互評価を行う。	ール(役割)を交替で担当し	模擬保育を行い、		レポートを提出す		
10) 模擬保育 (リハーサルを含む) 保育者、子ども、ギャラリーの3つのロー 相互評価を行う。	ール(役割)を交替で担当し	模擬保育を行い、		レポートを提出す é内に説明する。		
11) 現場実践 施設見学に行った現場で遊び の役割を分担する。 12) 現場実践 施設見学に行った現場で遊び			る。テーマは授業			
の役割を分担する。13) 現場実践のふりかえり①②実践を行ったグループ(実践者/記録者)	つ で現場実践のふりかえり	を行う。	る。テーマは授業 前講を振り返り る。テーマは授業	レポートを提出す		
14) 現場実践のふりかえり③④現場実践のふりかえりをまとめ、発表会15) 保育・教職実践演習のふりかえりとまと	にとりくむ。		前講を振り返り る。テーマは授業	レポートを提出す		
本授業でのとりくみをふりかえり、自ら		とめ発表する。	た資料をまとめて			
[使用テキスト] 授業で資料を配布する [参考文献] 久富陽子(編著),『幼稚園	保育所実習 指導計画の)考え方・立て方	』,2017 年,萌文	 書林		
[試験の方法と学修成果の評価基準]						
【平常試験】						
①到達度の確認(80%)						
②実技・作品発表(20%)						
【定期試験】						
①筆 記 試 験 (%) ②レ ポ ー ト (%)						
②レポート(%) ③実技試験(%)						
①美 校 試 験 (%)						
	‡態度その他必要と認めら	れる事項を学修成	戈果の評価に加味	する		
□ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない [フィードバックの方法] 最終授業で講評する。						
「フィートハックの方法」						
※保育現場実践のため、担当する保育園までの交通費は実費です。(堺市内予定)ご準備ください。						

子ども福祉学科						
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)		授業担当者			
子どもと言葉	講義	1 H. H.	正置を安子・高砂			
授業の回数 8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当 3 セ	メスター		
□ 実務経験 □ 3/31/5/51#		2				
	についての学問的な背景や基盤と			主に対応するDI		
	のように指導するのか」の「何を」	_		1		
	のか」を担う「保育内容(言葉)		L_			
	葉」に関する基礎知識についてテ	キスト・資料を	用いて身に付けると共に	、映像資料等		
により、保育内容と関連付けて学	:\$`.					
[授業修了時の達成課題(到達目	票)]領域「言葉」の指導の基盤と	なる、幼児が豊	かな言葉や表現を身に付	け、想像する		
楽しさを広げるために必要な専門	的事項に関する知識を身に付ける	0				
「授業の日程と冬后			 「準備学修の内容	 ·]		
1) 本講義のオリエンテーション			子ども・保育問題に関する社会事象に目			
- 1 417 424 - 7 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			を向け、新聞やニュースを見聞きしてお			
子どもの育ちと言葉遊び 言葉に対する感覚の育ち			を同り、利用でーユーへを見聞さしておくこと。			
2) 幼児期における言葉の機能(イメージ、コミュニケーション、文字)			, = = 0			
2) 切児期にわける言葉の機能 (〈ゲストスピーカー〉	(1) 「 ン、 ロミューケーション、		前講を振り返りレポートを提出する。テ			
			ーマは授業内に説明する。			
3) 子どもの育ちと児童文化財	てくいいは一个)		前講を振り返りレポートを提出する。テ			
1) フじょのおとし旧会立ル財	(スの①紅世尺)		ーマは授業内に説明する。 前講を振り返りレポートを提出する。テー			
4) 子どもの育ちと児童文化財 〈ゲストスピーカー〉	(その①紙之店)			1出りる。/-		
	(7, 0,0 thm≥T 7, 0,1th)		マは授業内に説明する。			
5) 子どもの育ちと児童文化財	(その②物譜、その他)		前講を振り返りレポートを提出する。テ			
の、サナフをはの一葉の様々(一本の以上地 / 丁里 /		は授業内に説明する。	1111-1-7 =		
6) 生きるための言葉の獲得 1	言葉の胎生期〈正直〉		を振り返りレポートを提	出する。アー		
			授業内に説明する。	ULL-7 -		
7) 生きるための言葉の獲得2	言葉の形成期〈正置〉		を振り返りレポートを提	出する。アー		
			授業内に説明する。	1111-1-7 =		
8) ふりかえりとまとめ 人間と言葉			前講を振り返りレポートを提出する。テーマは授業内に説明する。			
「使用テキスト〕		1.4.19	授業的に説明りる。			
204,11	「指針解説』,2018 年,フレーベル)	館				
	要領解説』,2018年,フレーベル					
	省 (著),『幼保連携型認定こども		『循解説』、2018 年、フレ	ーベル館		
■その他: 必要資料は講義内にて			()/////////////////////////////////////			
「参考文献」						
5 0 2 4114 13	・ の絵本』, 2015年, かもがわ出版	ī				
「試験の方法と学修成果の評価基準						
【平常試験】						
①到達度の確認(100%)						
②実技・作品発表 (%)						
【定期試験】						
①筆記試験(%)						
②レポート(%) ③実技試験(%)						
④ 接 試 験 (%)						
	☑ 受講態度その他必要と認めら	れる事項を学				
平常点評価	□ 受講態度その他必要と認めら		. , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	```		
			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			
	- - - - 義時に総評しフィードバックを行	う。				
[備考]	4× 41-4-641 0 × 1 1 1 7 / 2 (1)	~ ∪				
平常点としてレポートの提出を求	:める。					
が使用テキスト及び参考文献は図書館に が使用テキスト及び参考文献は図書館に						

子

子ども福祉学科				
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	・実習) 授業	担当者	
子どもと環境	講義	大内田 真理		理
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当	3 セメス	スター
☑ 実務経験 保育士の経験を活かし、	事例をもとに人間関係を築く」	こで重要なこと	を講義・演習を行	· う。
	、環境を通して保育を行うこと	の重要性につい	いて学び、保育に	主に対応するDP
 おける保育内容 5 領域の位置付けと、その	なかの領域環境からみる子ども	の育ちと保育者	か援助、指導法	1
について理解する。				
	物や自然、物や道具、社会文化	 的事象等) へ興	味や探究心をもっ	 って関わること
で、数や文字等の基本的な生活を構成する	要素を自然に取り入れる力を着	ようために必要 しゅうしゅん かんしゅん かんしゅん かんしゅん かんしん かんしん かんしん かんし	となる専門的な知	『識や技術を習
 得できるよう講義を行う。領域「環境」の				
体を理解し、実践する能力を身につけられ				
なることを意識し、保育者となるための自				
「授業修了時の達成課題(到達目標)				
1) 領域「環境」のねらい及び内容につい	で理解し、保育内容全体を理解し	たうえで専門	的な知識と技術が	ぶ身につく。
2) 身近な環境とかかわる重要性についての				
3) 保育者自身が人的環境であることを理解				
「授業の日程と各回のテーマ・			「準備学修の内容]	
1) 保育の基本:保育とは、環境を通して行				I
			210 (104)	1+ 887
2) 保育における環境:領域「環境」のねる			リントの復習(1月	
3) 自然に親しみ、植物や生き物に触れる		削凹の配布フリ	リントの復習(1月	時間)
が体験していることから子どもの育ちを				- L. PPIN
4) ものや道具にかかわって遊ぶ:身近な	ものや道具と関わり、子どもの	前回の配布プリ	ノントの復習(1:	時間)
主体性を育む教材研究を行う				
5) 思考力の芽生え:好奇心・探求心を満た			リントの復習(1月	
6) 文字や標識、数量や図形に関心をもつ		前回の配布プリ	リントの復習(1月	時間)
味や環境構成について学ぶ(グループ!	フーク)			
7) 日本の文化や様々な文化に触れる①:	日本文化や伝統行事、伝統的な	前回の配布プリ	リントの復習(1月	時間)
遊びに触れ、環境について考える(グノ	レープワーク)			
8) 日本の文化や様々な文化に触れる②:	多様な文化に触れる環境につい	前回の配布プリ	リントの復習(1月	時間)
て考える (グループワーク)				
[使用テキスト] 授業内で必要なプリント	を配布する			
[参考文献]				
■文部科学省(著), 『幼稚園教育要領解	¥説 平成 30 年 3 月』, 2018 年	,フレーベル館	चें च	
■厚生労働省(著), 『保育所保育指針解	·			
■内閣府・文部科学省・厚生労働省(著)			屛説』,2018 年,	フレーベル館
■無藤隆(監修), 『新訂 事例で学ぶ保	:育内容〈領域〉環境』,2018年	F, 萌文書林 		
[試験の方法と学修成果の評価基準]				
【平常試験】				
①到達度の確認(70%)				
②実技・作品発表 (30%)				
【定期試験】				
①筆 記 試 験 (%)				
②レポート(%)				
③実 技 試 験(%)				
④面 接 試 験 (%)				
□ 受講 □ 受講	態度その他必要と認められる事	項を学修成果の)評価に加味する	
平常点評価	受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]				
提出された課題や確認テストについて、授	業内や授業終了後に解説し、フ	ィードバックを	≥行う。	

子ども福祉学科				
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者		
子どもと人間関係	講義	伊藤 達哉		
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3 セメスター		
□ 実務経験				
[授業の目的・ねらい]		主に対応するDP		
	背景や基盤となる考え方を学ぶことを目的			
	うに指導するのか」の「何を」にあたる語			
	か」を担う「保育内容(人間関係)」と夏 践事例から専門的知識・技術の習得を図る			
[授業全体の内容の概要]	MANUAL MA	0		
領域「人間関係」に関する基礎知識につ	いてテキスト・資料を用いて身に付けると	: 共に、映像資料等により、保育内容と		
関連付けて学ぶ。				
[授業修了時の達成課題(到達目標)]	公田のしし眼をフナの本とは関イフ市田	佐東西(アム)、マの伽弥ナ ウ(ア仏)ナ		
	幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的			
5000	回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学習の内容]		
1) 本講義のオリエンテーション(ガイダ 幼児と人間関係の変遷と現代的特徴、				
2) 社会性の基盤としての人間関係				
乳幼児と人間関係における現代的課題	HI C			
3) 乳幼児期における人間関係の発達①				
乳児における人と関わる力の発達と例	R 育			
4) 乳幼児期における人間関係の発達②				
1歳以上3歳未満児における人と関わ	・る力の発達と保育			
5) 乳幼児期における人間関係の発達③		る。テーマは授業内に説明する。		
3歳以上児における人と関わる力の発	:達と保育 			
6)集団と人間関係 家族や地域との関りにおける育ちと多	Ě達と保育			
	塩性・規範意識			
保育所保育所指針、幼稚園教育要領等	における領域「人間関係」について			
8) 領域「人間関係」を中心とした指導まとめ、定期試験について	h画と実践事例の読み解き、ふりかえりと	ま		
[使用テキスト・参考文献]				
■文部科学省(著), 『幼稚園教育要領	解説 平成 30 年 3 月』,2018 年,フレー	-ベル館		
■厚生労働省(著), 『保育所保育指針	一解説 平成30年3月』,2018年,フレー	ーベル館		
■その他:授業中に適宜資料を配付する	0			
[参考文献]				
	らはじめる 領域・人間関係』, 2022年,	株式会社みらい		
[試験の方法と学修成果の評価基準]				
【平常試験】	1.4 1.7% ニット)ァト・ア四級中ナ	M 7		
①到達度の確認(100%) 毎回の ②実技・作品発表(%)	レポート及び小テストによって理解度を	최		
【定期試験】				
①筆記試験(%)				
②レポート(%)				
③実 技 試 験 (%)				
④面 接 試 験 (%)				
1/ 常 占 沙 佛	受講態度その他必要と認められる事項を学 受講態度その他必要と認められる事項を学			
[フィードバックの方法]				
[備考]				
・小テスト (30%)				
・毎回の授業の最後に提出する小レポー	卜 (70%)			

受業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者
子どもと健康	講義	眞鍋 穣・山口 千惠子
受業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3 セメスター
② 実務経験 医療機関及び福祉に関	わるおける実務経験をもとに授業を行	ð.
受業の目的・ねらい]		主に対応する□
礼幼児の健康と安全の基本について学び	、保育の中の子どもの姿を具体的にイ	メージしながら説明でき 1
受業全体の内容の概要]		•
i域「健康」に関する基礎知識についてラ	・ キスト・資料を用いて身に付けると共	に、映像資料等により、保育内容と具
に関連付けて学べるように授業を進める	5.	
受業修了時の達成課題(到達目標)]		
[域「健康」の指導に関する、幼児の心身	の発達、基本的な生活習慣、安全な生	活、運動発達などの専門的事項につい
知識を身に付ける		
[授業の日程と各回のテーマ	・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
幼児の健康問題		
健康の発達的意味	前請	‡ 1)の授業ふりかえりレポート提出
集団保育の中で育つ子どもの特徴と値	動きかけ (乳児) (A-	4 1枚)
気になる子どもの理解と集団保育	N. et	
対児期の 体の諸機能の発達の特徴 集団保育の中で育つ子どもの特徴と側		\$ 2)の授業ふりかえりレポート提出 4 1 枚)
集団保育の中で行う健康診断の意義・	7 6 17 17 (747) 27717	1 (1)
幼児期における生活習慣の形成		‡ 3)の授業ふりかえりレポート提出
年齢別健康教育の意味と実践内容の具体	体化(実践例) (A-	4 1枚)
安全な生活と健康		\$4) の授業ふりかえりレポート提出
保育中の事故防止・安全対策・危機管理		
- ケガや病気の予防と対応 集団保育の中でみられるケガ、病気の身	[· · · · · ·	₹5) の授業ふりかえりレポート提出 4 1枚)
集団保育の中で行う具体的な感染予防と		1 (1)
乳幼児期の年齢別運動発達の特徴と保		‡6)の授業ふりかえりレポート提出
社会背景を理解したうえでの保育内容の		4 1枚)
ふりかえりとまとめ 		\$7) の授業ふりかえりレポート提出 4 1枚)
使用テキスト]		
業中に適宜資料を配布する。		
参考文献]		
文部科学省(著),『幼稚園教育要領角	翼説 平成 30 年 3 月』,2018 年,フレ	ーベル館
髙内正子(著),『心とからだを育む	子どもの保健 I』,2019 年,保育出版社	E
保育者のための子どもの保健(創成社)	他	
試験の方法と学修成果の評価基準]		
平常試験】		
)到達度の確認(%)		
)実技・作品発表 (%)		
定期試験】		
筆 記 試 験 (80%)		
)レ ポ ー ト (20%)		
)実 技 試 験 (%)		
面 接 試 験 (%)		
□ 受記	構態度その他必要と認められる事項を学	************************************
平常点評価	構態度その他必要と認められる事項を学	
		12 /20 IN 2 H I IMIT = 741 / IN O : 00 .
フィードバックの方法]		

子ども福祉学科		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	・実習) 授業担当者
ピアノ3	演習	井下 べに
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3 セメスター
□ 実務経験		***************************************
[授業の目的・ねらい]		主に対応する[
受講者のピアノ技能の習熟度に応じた学育・幼児教育現場で必要となるピアノ表を養っていく。		=/=
[授業全体の内容の概要]		
受講者のピアノ技能の習熟度に応じた個 現場で求められる表現力や実践力の習得		や読譜力を強化するとともに、保育・幼児教
[授業修了時の達成課題(到達目標)]		
これまでに習得したピアノ奏法や読譜力行うことができる。	」を土台として、応用的なピアノ独	奏曲の演奏やリズム運動、弾き歌い曲の伴奏
[授業の日程と各回のテーマ	マ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) オリエンテーション 本授業の目的		これまでのピアノ学習曲について復習する。
2)~4) ピアノ独奏に関する応用的表現(授業時間外の日々の練習が大変重要である。
バイエル 100 番以降程度の曲		練習に関する質問や、課題曲の範奏等について積極的に申し出る。
5)~7) ピアノ伴奏・弾き歌いに関する	· 応用的表現③	授業時間外の日々の練習が大変重要である。
応用的な弾き歌い曲の伴奏、リズム追	重動の伴奏	練習に関する質問や、課題曲の範奏等について積極的に申し出る。
8) ピアノ独奏/ピアノ伴奏・弾き歌い		人前での演奏ということを特に意識して、
授業の中間まとめ: プレゼンテーショ 9)~10) 保育現場を想定したピアノ表明		分に演奏曲を準備する。 子ども役の学生の様子を見られるように伴
子どもを前に歌の伴奏をすることを想		に余裕を持たせられるように伴奏曲の準備 十分にしておく。
	現④	授業時間外の日々の練習が大変重要である。
ブルクミュラー25 の練習曲以降のピ		
意の曲		て積極的に申し出る。実技発表への準備。
13)~14) ピアノ伴奏・弾き歌いに関す 応用的な弾き歌い曲の伴奏、リズム通		授業時間外の日々の練習が大変重要である 練習に関する質問や、課題曲の範奏等につ て積極的に申し出る。実技発表への準備。
15) ピアノ独奏/ピアノ伴奏・弾き歌レ	に関する実技発表	人前での演奏ということを特に意識して、
授業のまとめ:プレゼンテーション 「使用テキスト]		分に演奏曲を準備する。
	編), 『いろいろな伴奏で弾ける	ition 「やさしい楽典」付』, 2006 年, 音導 選曲こどものうた 100』, 1982 年, チャイル
[参考文献]		
練習曲』,1955年,全音楽譜出版社 ■	■今井 顕 (著), 『ソナチネアル/	■北村智恵(解説), 『ブルグミュラー25 ドム1(校訂版)』, 2003年, 全音楽譜出版 普出版社 ■小林仁(編), 『ソナタ・アル
200』, 1996年, チャイルド本社 ■在		975 年,チャイルド本社 ■『続こどものう: 奏による幼児のうた 100 曲』,2007 年,全音
楽譜出版社 [試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
	、リー(練習曲リスト)、演奏技術	·····································
	· 演奏発表	
①筆記試験(%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験 (%)		
半军点評価	と講態度その他必要と認められる事	
L 5	受講態度その他必要と認められる 事	事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	E 本の羽前 中に マッツ == 11 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	マル かぶしなみを
毎回の授業において担当教員より、受講 [備考]	4日の百然度に応して課題に対する	ノィートハツクを打り。
L MHコ l		

子ども福祉学科		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・	実習) 授業担当者
保育実習Ⅱ(保育所)	実習	高砂・今滝・北川・実習G
授業の回数 80 時間	時間数(単位数) 2 単位	配当 3 セメスター
□ 実務経験		
[授業の目的・ねらい] ・保育所の役割や	P機能について、具体的な実践を通	通して理解を深める。 ・子ど 主に対応する
もの観察や関わりの視点を明確にすること	を通して、保育の理解を深める。	・既習の教科目や保育実習 1,2,3,4
Iの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育	て支援について総合的に理解する	る。 ・保育の計画・実践・観
察・記録及び自己評価について、実際に取	り組み、理解を深める。 ・保育	「際の業務内容や職業倫理につ
いて、具体的な実践に結び付けて理解する	・実習における自己の課題を	と明確化する。
[授業全体の内容の概要]		
・保育所での責任実習を行いながら、子と	、も理解を深め、保育の方法・技術	所を実践的に学ぶ。
[授業修了時の達成課題(到達目標)]		
実習を通して、保育者として必要な保育・	養護の知識・技術を身につけ、実	践できる。・実習での実践や気づきをまと
考察することで自己課題・努力目標を明確	にする。 ・めざすべき保育者像	象や子ども観・保育観を言語化できる。
[授業の日程と各回のテーマ・	・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
①保育所の役割や機能の具体的展開		「保育実習指導Ⅱ」で事前・事後指導を行
・養護と教育が一体となって行われる保	:育について学ぶ。	
・保育所の社会的役割と責任について理	!解する。	
②観察に基づく保育の理解		
・子どもの心身の状態や活動、保育士等	の援助や関わりを理解する。	
・保育所の生活の流れや保育の展開を把	!握する。	
③子どもの保育及び保護者・家庭への支援	と地域社会等との連携	
・環境を通して行う保育、生活や遊びを通	して総合的に行う保育を学ぶ。	
・保育ニーズの多様化に伴い、子ども・1	保護者に必要な支援のあり方や	
過程・地域社会との連携について学ぶ	•	
④指導計画の作成・実践・記録・評価		
・全体的な計画に基づく指導計画の作成	・実践・省察・評価と保育の過	
程の理解を深める。		
・作成した指導計画に基づく保育を実践	・評価することで、具体的・実	
践的に学ぶ。		
⑤保育士の業務と職業倫理		
・多様な保育の展開を学び、保育士の業務	や職業倫理について理解する。	
⑥自己の課題の明確化		
・実習の成果を「実習の記録」の記録・	整理し、事故の学習課題や努力	
目標を明らかにする。		
[使用テキスト] 「実習の記録」「実習バ	ンドブック」・配布資料 等	
[参考文献] 久富陽子(編著),『幼稚園	・保育所実習指導計画の考え方・	・立て方』,2017年,萌文書林
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(40%)		
②実技・作品発表(60%)		
【定期試験】		
①筆 記 試 験(%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験 (%)		
□ 受講師 □ 受講師		を学修成果の評価に加味する
平常点評価	態度その他必要と認められる事項	を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 実習終了後に面記		
[備考]実習・実習指導は連動します。評価	-	
※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められ		

授業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実	習) 授業担当者
保育実習指導Ⅱ (保育所)	演習	高砂・今滝・北川・実習G
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3 セメスター
□ 実務経験		
[授業の目的・ねらい] ・保育所の役割	や機能について、具体的な実践を通し	して理解を深める。 ・子ど 主に対応するD
もの観察や関わりの視点を明確にするこ	とを通して、保育の理解を深める。	・既習の教科目や保育実習 1.2.3.4.
Iの経験を踏まえ、保育及び子育て支援	について総合的に理解する。 ・保育	育の計画・実践・観察・記録
及び自己評価について、実際に取り組み		
体的な実践に結び付けて理解する。 ・		
		学習し、実習における注意事項など実習・
		5上で大切することを学ぶ。 ・保育所のサ
日の流れを埋解し、指導計画系を立案・ を理解する。 ・実習を振り返り、まと		書き方を学び、保育士としての気づきの視。 の考察な出去しなる
を埋解する。 ・ 美音を振り返り、まと 「授業修了時の達成課題(到達目標)]	めたことを報合しめりことに、美自	クち祭を共有 しめ J。
・指導計画の作成・実践・評価を通して	子ども理解を深める。	
・保育所の役割を理解し、保育士の援助		
・グループ討議や報告会を通して、実習っ	での学びから、自己課題を明確にし、	めざす保育者像を言語化することができる
[授業の日程と各回のテーマ	・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1)「保育実習Ⅱ」の意義・目標・目的・	・内容の理解 保・	育実習Ⅰaの振り返り、保育実習Ⅱの目標
2)事前訪問について 保育所の役割、実	習施設の保育理念・方針の理解・ 事	前訪問の注意事項の理解、概況の記入
3) 保育の基本について 保育の流れと例	保育者の援助の理解 保音	育所の役割・機能について理解を深める
4) 保育実習における自己課題について	実習の意義、目的の理解実	習の意義、目的を熟読しておく
5) 「実習の記録」の書き方 「実習記録	录」の意義・書き方の理解 既 ³	習科目で実習記録の書き方を理解する
6) 「指導計画」の書き方 「指導計画」	意義、書き方の理解 既	習科目で指導計画の書き方を理解する
7) 「指導計画」の作成 「模擬保育」の	つための教材準備 指記	導計画案の作成・教材研究をしておく
8) 「指導計画」の実践 「模擬保育」の)実践、「指導計画」の改善主	体的に実習準備やまとめを行う
9)実習直前指導 「指導計画」「自己語	果題」の確認 実 ²	習の心構え、注意事項について熟読する
10) 実習事後指導 実習の振り返り	・お礼状の作成実	習の評価・反省、課題をまとめる
11) 実習報告会① 実習のまとめ、実	習での学びを深める実	習での気づき、学びをまとめる
12) 実習報告会② グループ討議・「実	習のまとめ」報告書作成 グ	ループ討論での気づき、学びをまとめる
13) 全体報告会③ グループによる報告	書の発表① グル	ループ発表の内容、学びをまとめる
14) 全体報告会④ グループによる報告	書の発表② グル	ループ発表の内容、学びをまとめる
15) まとめ 振り返り・自己評価	実"	習や報告会での自己課題をまとめる
[使用テキスト] 「実習の記録」、「実	習ハンドブック」、配布資料	
[参考文献]久富陽子(編著), 『幼稚園	園・保育所実習指導計画の考え方・立	て方』,2017 年,萌文書林
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(40%)		
②実技・作品発表(60%) 【空間計略】		
【定期試験】 ①筆 記 試 験 (%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験 (%) <u></u>		
平常点評価	講態度その他必要と認められる事項? 講態度その他必要と認められる事項?	
		a == c2.10.7x v / b== 100.0 / / 10.0x 1 / / 1 V '

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

[備考] 実習・実習指導は連動します。評価は総合的に行います。

「こで 10 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11			
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・	実技・実習)	授業担当者
ピアノ4	演習		
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単	並位	配当 4 セメスター
☑ 実務経験 ピアニストとして経駅	倹を活かし演奏する上での	マナー、心意気	、技術、表現力を指導する
[授業の目的・ねらい]			主に対応するDP
本授業は保育・幼児教育の現場において			
度なピアノ演奏技術と、ピアノを用いた 就職試験、保育士実技試験に備えて人前			
「授業全体の内容の概要」	「 (も、 v・) もの天力が光増	早くさるよりな!	別外でする。
ピアノ1~3で修得した基礎技能に加え	.、より応用的なピアノ演奏	を技能と読譜力:	を身につけるため、総合的な実技演習
を行う。(バイエルだけでなく、自由に	選曲し様々な曲に挑戦する	5)	
ピアノ演奏に加え、各自の能力、必要性		単にも取り組み、	、アンサンブル能力を身につけ、
楽しくより豊かな表現力を修得できるよ [授業修了時の達成課題(到達目標)]	つに導く。		
より高度な演奏技術と表現力を身につけ	· 発表会で披霞することが	ぶできる。様々に	なジャンルにまたがろ多くのピアノ曲
のレパートリーを身につけ実際に弾くこ		CC Do IA C	av (v) (carea de (v) c) / m
[授業の日程と各回のテーマ・			[準備学修の内容]
1) 授業内容について説明			い曲がある場合はその楽譜を持参。よ
それぞれのピアノ学習経験の違いを踏ったのなった。			
点の確認を行い選曲する。曲が決まった	. ら恛人練育にとりかかる。	な曲が好きか、採用試験課題	どちんしみる。 曲が分かっている場合は楽譜を持参。
(2) \sim (6)		実技科目は、	日々の練習が非常に重要です。現在の
個人練習とそれぞれの能力に合わせた個	人レッスン		ることなく、より高い芸術性、技術力
ピアノ演奏法 演奏解釈、弾き歌い、連弾			えを持って練習に取り組むようにして ヨ15分からでも続けることで必ず力
(大)		になります。	
7) 中間発表会			
現段階でできるところまで、みんなの前	「で演奏する。		
人前で演奏することに慣れる。	アナナスし白くわりてるだ		
聴衆の時間は、良かったこと、もう少しこと感じたこと等を文章にまとめる。	上大りのと良くなりてりた		
$8) \sim 12)$		1日15分ず ⁻	つでも練習時間を作る。
引き続き個人練習と個人レッスン	. 10 VII 4		、1 時間を目標にできる限り時間を増や
中間発表で気づいたそれぞれの課題に取	り組む。		高める努力をする。 ンで指摘された注意点を理解しながら
		練習に取り組	
13) 【プログラムビルディングとチラシ			
最終発表会のプログラム順番を考え、チャルの特別と	ラシの作成方法を学ぶ。		
残り時間は、個人練習と個人レッスン。 14) 最終発表会に向けてより完成度高&	たれる F う個 A 練習 と個	人前で離くる	レを相定したがら 発表会で後
人レッスン	グりなるよう個人派目と回		日々の個人練習に取り組む。
15) 【最終発表会】			
練習してきたことを、少しでも発揮できに人前で演奏する。 聴衆の時間は、良か			
ると良くなりそうだと感じたこと等を文			
[使用テキスト]		.1	
個別の進度に合わせて担当教員が指定す	るテキスト。その他、必要	とな場合は随時 はな場合は随時	教材プリントを作成し配布する。
[参考文献]			
[試験の方法と学修成果の評価基準]			
【平常試験】			
①到達度の確認(50%)			
②実技・作品発表(50%)			
【定期試験】			
①筆 記 試 験(%)			
②レポート(%)			
③実 技 試 験(%)			
④面 接 試 験 (%)			
□	 :講態度その他必要と認めら	 れる事項を学	修成果の評価に加味する
平常点評価	講態度その他必要と認めら		
)4100 尹·垻を子1	沙及木ツ朮叫(こ加水 しょく・
[フィードバックの方法] 授業内で講評	・ど仃り。		
[備考]			

する も 徳仙子科		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	・実習) 授業担当者
保育音楽	演習	井下 べに・満園 結・内海 由美子
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3 セメスター
□実務経験		
[授業の目的・ねらい]	(一) (の字際た理解) さの母母	主に対応するDP
声を出発点とした乳幼児のコミュニケーシャナのアストス末期の押したスストル		
たちの音による表現の場となることを受け		
な感覚を保育者の視点から身につける。ま動・音楽リズムの基礎を、演習を通してそ		
動・自来りへるの基礎を、傾首を通じてで 音楽的な表現活動やリズム運動に関する理		
[授業全体の内容の概要]	肝で体め、大阪に休日・幼儿教	月光物を芯足した天践力を占了。
	を学び 子どもと保育 音楽	運動遊びに関する基本的な理解を深め、具体的
な保育内容を構築し、実践できる力量形成		定動題 0 に関する 2 本的な程件を休め、 条件的
		音楽表現・身体表現に関する基本的な内容や方
法を理解し、保育・幼児教育現場を想定し		
[授業の日程と各回のテーマ・	内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) オリエンテーション、わらべうたの特征	数や游びを知り 実践する	わらべうたやわらべうた遊びについて調べる
2) 絵かき歌の構想と曲作りについて学ぶ	у (Во ем), Дву о	絵かき歌づくりの準備をする
	カ 甘 7株 ナ- ケn フ	一体ができなってもの中間でする
4) リズム運動の内容・意義を体験的に理解		
5) 実際の保育で行われているリズム運動		
い・内容・展開について実践的に理解する		
6) 実際の保育で行われているリズム運動(
い・内容・展開について実践的に理解	(幼児期)	=#-Y
7) リズム運動のまとめ レポート		講義で配布するプリントを読み小レポートを
実際の保育で行われているリズム運動の	の展開や指導力法について実践	作成する
的に理解し、習得する 8) 歌うための声作り①発声の基礎		 子どもの季節の歌を準備しておく。
リトミック的要素を取り入れながら体	なはって書む出土士法も労ど	丁ともの学則の畝を毕慵してねて。
季節の歌を用いて実践する。	を使うて声を出り力伝を子ぶ。	
9) 歌うための声作り②歌唱の基礎		発声練習と前回取り上げた歌の復習をする。
リトミック的要素を取り入れながら、	歌唱における発音(母音と子音)	
や音程について学ぶ。子どもの歌を用		
10) 歌うための声作り③歌唱表現		発声練習と前回取り上げた歌の復習をする。
歌詞(言葉)を理解し、表情や動きを	考えながら様々な歌唱表現を学	
ぶ。ボイスアンサンブルを用いてリズ		
11) アンサンブル①器楽合奏		豊かな歌唱表現ができるよう練習する。
ボディーパーカッションや保育楽器を	用いた器楽合奏を経験する。	
12) アンサンブル②重唱と劇表現		劇表現の基礎で用いる題材を準備する。
声を重ねる楽しさを学ぶ。劇表現の基	礎(歌唱・台詞・動き)を経験	
する。器楽合奏の仕上げ。) — Jarti	alIII. Labo albo)
13) 身近な音の発見、音や音楽から与えら	れるイメーンの表現	環境音について調べる
サウンドスケープについて学び、実践 14) 創造的な音楽表現①	19 Do	 音や音楽に関する絵本について調べる。
	ジを音楽で表現する	自不自未に関する版本に ガー に調べる。
15) 創造的な音楽表現② プレゼンテーシ		 発表の準備をしておく。
[使用テキスト] 必要に応じて教材プリン		12
■井戸和秀(編)/小林美実(編), 『いる		ものうた 100』,1982 年,チャイルド本社
[参考文献] ■井口太(著),『改訂版』	最新・幼児の音楽教育,』2024	年,朝日出版社.
■今泉明美、有村さやか(編), 『子ども	のための音楽表現技術 一感性	と実践力豊かな保育者へ〈第3版〉』,
		ちゃんから始まる音環境の創造(保育士・幼
稚園教諭養成課程)』,2016年,中央法規	見出版	
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認(50%) 授業内課題		
②実技・作品発表(50%) 発表		
【定期試験】		
①筆 記 試 験 (%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
①		
	*	では、
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		「項を学修成果の評価に加味する 「項を学修成果の評価に加味する
□ □ 攵誦	1. 思度での他必要と認められる事	T項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	※ 10 の極業味につ ・ いご よ	たたる オた 所用に共1 イル ルロの塩素
		を行う。また、質問に対しては、次回の授業
時に全体に向けて回答・説明し、必要に応 [備考]	・レて貝向有に⑩別に凹合・説明	19 V ₀
	ちと宝際にリズム運動を取り組	lみます。その際の保育園までの交通費は実費
です。持ち物・集合時間、諸注意は厳守し		/ 5 / 0 (**/

		T					
授業のタイトル(科目名	授業の種類	(講義・演習・実技・実習)	授業担当者				
保育実習Ⅲ b (児童福祉施訂	设)	実習	北川拓、	. 他			
授業の回数 80 時間	時間数(単位	拉数) 2 単位	配当 4 セメ	スター			
☑ 実務経験 児童相談所()	児童福祉司) 						
[授業の目的・ねらい]				主に対応するDP			
児童福祉施設における活動を実際	とに経験し、その機能と	役割について理解すると同	時に職員として必要な	1, 2, 3, 4			
資質・能力・技術を習得する	資質・能力・技術を習得する						
[授業全体の内容の概要]							
児童養護施設において現場の実	と習指導者の下、実習を	:行う					
○現場実習 …自己課題を中心に	に対人援助技術や児童福	A祉施設の機能・役割につい	て理解する				
○事後学習 …お礼状、振り返り	、まとめ、報告会						
[授業修了時の達成課題(到達目)	標)						
定められた期間の実習を達成し	、事前に受講生自身が	設定した課題についての達	成を目指す。				
[授業の日程	と各回のテーマ・内容	・授業方法]	[準備学修	の内容]			
・児童養護施設の機能、役割、活	動内容等を実際の体験	きを通じて理解する。	『実習ハンドブ	ック』			
・児童養護施設の一日の流れを理	Ľ解し、参加する。		保育実習指導Ⅲ	b (演習)で事			
子どもとのかかわりのなかで児	豊重の理解を深める。		前指導を行う				
児童養護施設職員による援助業	美務の種別と役割を理解	する。					
児童養護施設職員における各種	重事業等を理解する。						
・児童養護施設での実習を通して	て社会的養護の今日的課	関について理解する。					
・実習後の振り返りを通して自身	rの到達とは課題につい	て理解する。					
[使用テキスト]							
[参考文献]							
[評価の実施方法と基準]							
【平常試験】							
① 平常点評価(40%) 3	実習態度や実習記録の書	書き方実習課題に対して取り	組みなど総合的に評価	する			
② 到達度の確認(60%) 舅	実習課題が達成できてV	いるかレポートや発表内容な	どで総合評価する				
③ 実技・作品発表 (%)							
【定期試験】							
① 筆 記 試 験(%)							
② レポート(%)							
③ 実 技 試 験(%)							
④ 面接試験(%)							
	☑ 受講態度その他必要	 要と認められる事項を学修原	成果の評価に加味する				
平常点評価		要と認められる事項を学修り		, \			
[フィードバックの方法]							
授業ごとに振り返りと質問時間を設ける							
[備考]実習・							

授業のタイトル(科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・	·実習) 授業担当者
保育実習Ⅲ c (障害児・者が		野村朋
☑ 授業の回数 80 時間	時間数(単位数) 2 単位	配当 4 セメスター
実務経験 発達相談員		
[授業の目的・ねらい]		主に対応するD
	こおける保育や生活に参加し、保育活動や	
深める。		ZIII (8,9) 7 (7,1) 2,3) 9 1
	D家族の抱える問題やその社会的背景につ	いて理解し、保育士の保育内容
や他職種との連携について学ぶ。		
[授業全体の内容の概要]		
	すべて整えた上で保育実践現場に実習生。	として参加する。事後指導において学んだこ。
をまとめ、発表する。	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
「授業修了時の達成課題(到達目	標)]	
障害を持つ人の保育・養護におい	いて保育士として必要とされる技術・理解	力・判断力を養うとともに、自らの人間観につ
ながるものとしての障害観・保		
	のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) 障害児・者を対象とした施設	の人的配置や、物的条件について知る。	事前指導の内容を理解し必要事項を準備する
	の業務内容を体験的に把握する。	事前指導の内容を理解し必要事項を準備する
3) 障害児・者を対象とした施設 や発達援助の内容を知り、実践		事前指導の内容を理解し必要事項を準備する
	-	 事前指導の内容を理解し必要事項を準備する
4)対象允・有この主荷場面で、 解を深める。	協助の中でかれるりをうくり、対象有達	尹則相等の四谷を理解し必安争項を平備する
	における採助計画と実際の保育のかかわ	 事前指導の内容を理解し必要事項を準備する
のを知る。	.(C401) 包括奶用画C关係*/) 体育*//**//*	新川田寺(7月) 存で 在所 し 心安 事気で 中 畑 り る
-)下に指道員の補助的立場として対象者に	 事前指導の内容を理解し必要事項を準備する
対応する。	「「日母兵の間別」立場として対象日に	すの11日子*ノバコインと左所した。女子大と千冊 ケン
	や	 事前指導の内容を理解し必要事項を準備する
いて事例を学び、障害者問題の		THAT TO THE CHANGE OF A COMMENT
[使用テキスト]		L
実習ハンドブック		
[参考文献]		
 [試験の方法と学修成果の評価基	[準]	
【平常試験】		
①到達度の確認(40%)		
②実技・作品発表(60%)		
①筆記試験(%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験 (%)		
	☑ 受講態度その他必要と認められる事	
平常点評価 "	□ 受講態度その他必要と認められる事	
面談を行う		
囲吹を11フ		

	授業の種類(講義・演習・実	匡技・実習)	授業担当者
保育実習Ⅲd(児童館・放課後児童:	クラブ) 演習		代田 盛一郎
授業の回数 80 時間	時間数(単位数) 2 単位	<u>, ग</u> .	配当 4 セメスター
□ 実務経験			
授業の目的・ねらい] 児童館で	の活動を実際に経験し、その機能と役	割について	理解すると同時に職員 主に対応する[
こして必要な資質・能力・技術を	2習得する。		1, 2, 3, 4
授業全体の内容の概要]			
記童館において現場の実習指導者 			
授業修了時の達成課題(到達目	標)] 定められた期間の実習を達成し	、事前に受	講生自身が設定した課題についての
[授業の日程と各回の	のテーマ・内容・授業方法]		[準備学修の内容]
・児童館の一日の流れを理解し、 ・子どもとのかかわりのなかで別 ・児童館職員の業務を観察し、そ ・児童の遊びの実態を理解する。 ・児童館における子どものための ・遊びの指導計画の立案、実施、	記童の理解を深める。この役割を理解する。つプログラムを理解する。評価を行う。		引連の授業科目を復習しておくこと
元里 即にわける丁育(文抜機形	とについて理解する。		
・児童館における子育て支援機能 			
使用テキスト]	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 ²		(児童館) ■実習ハンドブック
使用テキスト]		卒業実習Ⅱ	(児童館) ■実習ハンドブック
使用テキスト] ■『児童館論』,2023 年,児童億 ■その他配布資料 参考文献]	建全育成推進財団 ■『実習の記録』2	卒業実習Ⅱ	(児童館) ■実習ハンドブック
使用テキスト] ■『児童館論』,2023 年,児童億 ■その他配布資料 参考文献] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 ²	卒業実習Ⅱ	(児童館) ■実習ハンドブック
使用テキスト] ■『児童館論』,2023 年,児童億 ■その他配布資料 参考文献〕 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹 試験の方法と学修成果の評価基	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 ²	卒業実習Ⅱ	(児童館) ■実習ハンドブック
使用テキスト] ■『児童館論』,2023 年,児童億 ■その他配布資料 参考文献] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹 試験の方法と学修成果の評価基 【平常試験】	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 ²	卒業実習Ⅱ	(児童館) ■実習ハンドブック
使用テキスト] ■『児童館論』,2023 年,児童億 ■その他配布資料 参考文献] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹 試験の方法と学修成果の評価基 【平常試験】	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 ²	卒業実習Ⅱ	(児童館) ■実習ハンドブック
使用テキスト] ■『児童館論』,2023年,児童館 ■その他配布資料 参考文献] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹 試験の方法と学修成果の評価基 【平常試験】 〕到 達度 の 確 認 (40%)	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 ²	卒業実習Ⅱ	(児童館) ■実習ハンドブック
使用テキスト] ■『児童館論』,2023年,児童館 ■その他配布資料 参考文献] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹 試験の方法と学修成果の評価基 【平常試験】 ②到達度の確認(40%) ②実技・作品発表(60%)	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 ²	卒業実習Ⅱ	(児童館) ■実習ハンドブック
使用テキスト] 『児童館論』,2023年,児童館 『その他配布資料 参考文献] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹 試験の方法と学修成果の評価基 【平常試験】 ②到達度の確認(40%) ②実技・作品発表(60%) 【定期試験】	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 ²	卒業実習Ⅱ	(児童館) ■実習ハンドブック
使用テキスト] ■『児童館論』,2023年,児童館 ■その他配布資料 参考文献] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹 試験の方法と学修成果の評価基 【平常試験】 ②到達度の確認(40%) ②実技・作品発表(60%) 【定期試験】	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 ²	卒業実習Ⅱ	(児童館) ■実習ハンドブック
使用テキスト] ■『児童館論』,2023年,児童信 ■その他配布資料 参考文献] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹 試験の方法と学修成果の評価基 【平常試験】 ②到達度の確認(40%) ②実技・作品発表(60%) 【定期試験】 ②年 記 試 験(%)	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 ²	卒業実習Ⅱ	(児童館) ■実習ハンドブック
使用テキスト] ■『児童館論』,2023年,児童館 ■その他配布資料 参考文献] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹 試験の方法と学修成果の評価基 【平常試験】 D到達度の確認(40%) ②実技・作品発表(60%) 【定期試験】 D筆記試験(%)	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 ²	卒業実習 Ⅱ	(児童館) ■実習ハンドブック
使用テキスト] ■『児童館論』,2023年,児童館 ■その他配布資料 参考文献] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹 試験の方法と学修成果の評価基 【平常試験】 ①到達度の確認(40%) ②実技・作品発表(60%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験(%) ②レ ポ ー ト(%) ③実技 技 試 験(%)	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 ²		
使用テキスト] 『児童館論』,2023年,児童信 《その他配布資料を考文献] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹試験の方法と学修成果の評価基 【平常試験】 ②到達度の確認(40%) ②実技・作品発表(60%) 【定期試験】 ②筆記試験(%) ②レポート(%) ③実技 技 試 験(%)	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 ² 介 準]	5事項を学修	5成果の評価に加味する
使用テキスト] 『児童館論』,2023年,児童信 ②その他配布資料 参考文献] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹 試験の方法と学修成果の評価基 【平常試験】 ②到達度の確認(40%) ②実技・作品発表(60%) 【定期試験】 ②筆記試験(%) ②レポート(%) ③実技試験(%) ②車接試験(%) ②車接試験(%)	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 2 介	5事項を学修	5成果の評価に加味する
使用テキスト] ■『児童館論』,2023年,児童修 ■その他配布資料 参考文献] 「保育実習指導Ⅲd」授業内に紹 試験の方法と学修成果の評価基 【平常試験】 ①到達度の確認(40%) ②実技・作品発表(60%) 【定期試験】 ①筆 記 試 験(%) ②レ ポート(%) ③実 技 試 験(%) ④面 接 試 験(%)	建全育成推進財団 ■『実習の記録』 2 介 準] ② 受講態度その他必要と認められる □ 受講態度その他必要と認められる	5事項を学修	5成果の評価に加味する

子ども福祉学科		
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者
保育実習指導Ⅲ b (児童福祉施設)	演習	北川 拓、他
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 4 セメスター
☑ 実務経験 児童相談所(児童福	—————————————————————————————————————	
[授業の目的・ねらい]	と実習)」の事前準備を行うい実習課題達成で	主に対応するDP することを目的とする。 1,2,3,4
○対象理解 …実習施設の機能と役割の ○実習準備 …保育実習指導Ⅲ b 指導語	前訪問、書類の整備と提出、施設実習の意義 D理解、対象児童の理解、事業所概要の理解	
[授業修了時の達成課題(到達目標) 定められた期間の実習を達成するた 通して自身の到達と課題について説明	めの課題に主体的に取り組むことができる。 できる。	ようにする。また実習後の振り返りを
[授業の日程と各回	のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) 施設実習の意義・目的について 実習先発表(実習施設について調べ 事前訪問についての依頼について 実習及び実習指導の概要・事務的準		『実習ハンドブック』
2) 実習記録の目的と意義 ・実習記録を書く際の留意点	己録と書く上でのポイント・実習記録の連続	『実習の記録』保育実習Ⅲ b 性)
3) 社会的養護の基本理念と原理・演習:事例研究・専門職の職業倫理とケースワーク		実習施設資料準備
4) 養育のあり方の基本	2) 養育のいとなみ (3)養育を担う人の	児童養護施設運営指針・乳児院 原則 運営指針
5) 「新しい社会的養育ビジョン」の 施設養護(児童養護施設、乳 自己課題の確認と、施設の事 実習の心構えと実習中の注意	児院等)と家庭養護(ファミリーホーム・! 前訪問時の課題の確認	「新しい社会的養育ビジョン」 里親)とは何か下調べをすることが
6) 自己課題の確認と事前訪問確認事項 グループワーク:施設が求め 採用試験模擬テスト(論文)	頁表点検	事前訪問時に施設からの事前課 題の確認
7) 実習の振り返り 実習のまとめ提出 お礼状の清書、送付 実習報告会資料準備		お礼状の下書きをしてくること
8) 実習報告会 実習のまとめ・発表	長・自己評価	
[使用テキスト]		
[参考文献]		
[評価の実施方法と基準]		
【平常試験】		
	備ができているか、発表内容は適切であった	こかなど総合的に評価する。
②実技・作品発表(60%)		
【定期試験】 ①筆記試験(%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験(%)		
立	講態度その他必要と認められる事項を学修 講態度その他必要と認められる事項を学修	
[フィードバックの方法] 授業ごとに打	長り返りと質問時間を設ける	
[備考]実習·		

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

子ども福祉学科

授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・	実習) 授業担当者		
保育実習指導Ⅲ c (障害児・者施設)	実習	野村 朋		
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 4 セメスター		
☑ 実務経験 発達相談員				
[授業の目的・ねらい]		主に対応するD		
・障害児・者を対象とした施設における保	育や生活に参加し、保育活動や生	生活援助の中で対象者の理解を 1,2,3,4		
深め、説明できる。				
・障害児・者施設の対象者とその家族の抱	える問題やその社会的背景につい	いて理解し、保育士の保育内容		
や他職種との連携について学ぶ。				
[授業全体の内容の概要]				
・障害児施設実習にあたり発達と基礎知識	え(教材含む)を復習し、実習に	活かせるようにまとめの冊子を作る。		
・障害児施設の概要を理解し、グループワ	'ークの中で報告し、学びを共有'	する。		
・障害児・者を対象とした施設における実	習に向けて事前・指導を行い、	必要な指導計画の立案、教材準備を行う。		
[授業修了時の達成課題(到達目標)]				
実習事前事後の学びを深めることによって	、自らの人間観につながるもの	としての障害観を深め、保育観の基礎を築く		
[授業の日程と各回のテーマ・	・内容・授業方法]	[準備学修の内容]		
1) オリエンテェーション;今までの実習	の振り返り・実習指導における	今までの実習記録を読み返す		
講義計画・実習に必要な書類の作成				
2) 実習施設の概況と保育内容の研究;事	前訪問について、自己課題設定	振り返りシートの記入		
3) 発達と障害についての基礎知識①;障害	害についての調べ学習を行う	調べ学習に必要な資料をそろえる		
4) 発達と障害についての基礎知識②;調	べたことを冊子にまとめ報告し	調べ学習に必要な資料をそろえる		
あうことで、学びの共有をする。				
5) 保育計画の作成・教材づくり①		担当するクラスについて調べておく		
6) 保育計画の作成・教材づくり② 指導計	画案に基づく模擬保育を行い、	指導計画の作成		
グループ討議を行い、深める。				
7) 実習直前指導; 実習の心構え、教材	準備	事前学習の内容を復習する		
8) 事後指導; 実習を振り返り、まとめ	をプレゼンテーションすること	実習での学びを振り返り、まとめる		
で、学びを共有する。				
[使用テキスト]				
■野村朋/荒木美知子(著), 『主体性をは	ぐくむ障がい児保育』, 2020年,	文理閣		
■授業の配布資料「実習の記録」「実習バ	ンドブック」			
[参考文献]				
[試験の方法と学修成果の評価基準]				
【平常試験】				
①到達度の確認(40%)				
②実技・作品発表(60%) 提出物・発	を表内容・実習記録の内容・次週	先からの評価		
【定期試験】				
①筆 記 試 験 (%)				
②レポート(%)				
③実 技 試 験 (%)				
④面 接 試 験 (%)				
☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				
平常点評価 □ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法]				
面談の中で保育実習Ⅲc と総合的に評価し	、講評する。			
[備考]				

授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習	图·宝技·宝翌)	授業担当者
「			代田 盛一郎
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1	 単位	配当 4 セメスター
□ 実務経験			L
[授業の目的・ねらい] 「保育実習	│Ⅲd(児童館・放課後児童クラブ)」の事前準備	情を行い、実習課題達成 主に対応するDP
をその目的とする。また実習後の	振り返りを通して自身の到達と課	題について理解	4 4 7 5 。
[授業全体の内容の概要] 以下の			
○事務的準備…アポイントメント、			. 12
○対象理解…実習施設の機能と役割○実習準備…保育指導計画(案)		所概要の埋解な	£ &
○事後課題…お礼状、振り返り・			
る。また実習後の振り返りを通して			
[授業の日程と各回の	テーマ・内容・授業方法]		[準備学修の内容]
1) 実習及び実習指導の概要・事務	5的準備に関するガイダンス	児童館	関連の授業科目を復習しておくこと
2) 対象理解と事前訪問準備		(以下、	同じ)
3) 実習準備(遊びのプログラムつ	5くり①)		
4) 実習準備(遊びのプログラムで	うくり①)		
5) 直前指導(記録指導を含む)			
6) 事後指導			
7) ふりかえり・まとめ①			
8) ふりかえり・まとめ②			
[使用テキスト]			
■『児童館論』, 2023 年, 児童健	全育成推進財団 ■『実習の記録	₹』卒業実習Ⅱ	(児童館) ■実習ハンドブック
■その他配布資料			
[参考文献] 授業初回に紹介する。			
「試験の方法と学修成果の評価基準			
【平常試験】	-1		
①到達度の確認(40%)			
②実技・作品発表(60%)			
【定期試験】			
①筆 記 試 験 (%)			
②レポート(%)			
③実 技 試 験 (%)			
④面 接 試 験(%)			
平常点評価 平常点評価	☑ 受講態度その他必要と認めら	れる事項を学信	修成果の評価に加味する
	□ 受講態度その他必要と認めら	れる事項を学値	疹成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]			
保育実習Ⅲd と総合的に評価し、調	挙評する。		
[備考]	2000	Or with free 2	
※履修前に設定されたオリエンテ	ーションに必ず参加し、説明内容	を理解すること	

-とも保祉学科			
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技	技・実習) 授業担当者	
特別なニーズをもつ子どもの教育	講義	五島 丸太・野村	上 朋
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 4 セメスク	ター
☑ 実務経験 発達相談員としての)経験を活かし、特別なニーズのあ	る子どもの教育について講義する	
[授業の目的・ねらい]		主	に対応するDP
障がいのみならず多様なニーズに関す	る支援の在り方について考えるたる	めに包摂的な保育・教育の考え方	1
について学ぶ、特別なニーズをもつ子	どもの発達保障を軸にした教育を	考察していく	
[授業全体の内容の概要]			
多様なニーズを持つ子どもを包摂的に	保育するインクルーシブな保育の	実践に向けて、それぞれの時期にお	さける支援の
在り方、「発達保障」の在り方を考察す	る。特別なニーズをもつ当事者と	D交流なども行い、実践的に学ぶ	
[授業修了時の達成課題(到達目標)]			
「発達を保障する」支援のありかたにつ	いて自分の考えを述べることがで	きる。	
ライフサイクルを見通して、特別なニ	ーズを持つ人の支援の在り方につい	いて考察する	
[授業の日程と各回のテー	マ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]	
1) 「共に育つ」ってどういうこと?	行事の参加を考える		
2) 障がいのある人もない人もともに第	終しめるユニバーサルゲーム①		
3) 障がいのある人もない人もともに第	 送しめるユニバーサルゲーム②	課題に取り組む(30分)	
4) 障がいのある人もない人もともに第	終しめるユニバーサルゲーム③	課題に取り組む(30分)	
5) インクルーシブ保育を考える		1年時の障害児保育の復習(30	分)
6) 難病の子どもの保育			,
7) 障害のある人との交流会企画立案	(ゲストスピーカー)		
8) 保護者が病気の場合の支援			
9) 性的マイノリティについて学ぶ (ク	デストスピーカー)		
10) 外国にルーツのある子どもの保育	を考える		
11) 交流会準備①		遊び実施に必要なものを用意する	
12) 交流会準備②		遊び実施に必要なものを用意する	
13) 畠山亮夏さんとの交流会(ゲスト	スピーカー)	遊び実施に必要なものを用意する	
14) 実践の読み取り			
15) レポート作成			
[使用テキスト]			
なし			
			018年. かも
がわ出版 ■玉村公二彦,黒田学,向井			
クルーシブ教育時代の基礎知識』,20			
[試験の方法と学修成果の評価基準]			
【平常試験】			
	 対よび演習参加態度		
②実技・作品発表(%)			
【定期試験】			
①筆 記 試 験 (%)			
	ポートの内容		
③実 技 試 験 (%)			
④面 接 試 験 (%)			
	受講態度その他必要と認められる		
平常点評価		事項を学修成果の評価に加味する 事項を学修成果の評価に加味しない	
	スm7551久 C */ 凹心女 C 1100/ り(100)	ナンのエアルグレッコ 一面(ごれ)が (こと)。	
レポート評価基準を公開する			
E Vm ∵ ₹ J			

授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実	実技·実習) 授業担当者
教育方法論	講義	今滝 憲雄
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単	4 セメスター
□ 実務経験	•	
[授業の目的・ねらい]		主に対応する
子どもの育ちを支える人となる	るために、教育の方法に関する知識・技能	能を習得し、実践できる力量を身に 1
つける。		
[授業全体の内容の概要]		
		踏まえた上で、子どもたち一人ひとりに寄り添う
育活動を展開するための方法記 「授業修了時の達成課題(到達		
		教育活動を援助するための知識・技能を身につ
	こついて提言できるようになる。	表音11到で1次列)。 TCWV Aniii、 IX 配と分(こ)
	回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) オリエンテーション、教育		配布資料を通読し、次講の事前学習を行う
2) 教育方法学の歴史①―近代		前講を振り返り、課題作文を作成する。
	学の成立から合自然の教育学へ	前講を振り返り、課題作文を作成する。
	 国家の教育学から子ども中心の教育へ	前講を振り返り、課題作文を作成する。
1) 教育の医子の歴史(4) 5) 教育方法学の歴史(4) 効率		前講を振り返り、課題作文を作成する。
5) 教育の伝子の歴史(3) ※ 6) 日本の授業と授業研究(1)—		前講を振り返り、課題作文を作成する。
	授業改造への挑戦と戦後の新教育	前講を振り返り、課題作文を作成する。
8) 日本の授業と授業研究③―		前講を振り返り、課題作文を作成する。
9) 教職の専門性とは何か―新	・しい教師像の探求 	次講のテーマについて、事前学習を行う。
10) 教育方法に関する提言に「「	向けて─グループ交流・研究① 	前講を振り返り、成果発表の準備を行う。
11) 教育方法に関する提言に「	句けて一グループ交流・研究②	前講を振り返り、成果発表の準備を行う。
12) 教育方法に関する提言に「	句けて―成果発表の準備	前講を振り返り、成果発表の準備を行う。
13) 教育方法に関するグループ	プ交流・研究の成果発表①	前講を振り返り、自己評価文をまとめる。
14) 教育方法に関するグルース	プ交流・研究の成果発表②	前講を振り返り、自己評価文をまとめる。
15) まとめ 全体を振り返り、	授業内容を総括する。	全体を振り返り、レポートを作成する。
[使用テキスト] 授業内で必要	要な資料を配布する。	
	『教育方法学』,1996 年,岩波書店	
【平常試験】		
①到達度の確認(70%)		
②実技・作品発表(%)		
【定期試験】		
①筆 記 試 験 (%)		
②レポート(30%)		
③実技試験(%)		
④面 接 試 験(%)		A Track When Direction and the Company of the Compa
平常点評価		る事項を学修成果の評価に加味する
	□□受講態度その他必要と認められる	る事項を学修成果の評価に加味しない
	削・返却し、一部授業内で紹介するかた。	ちでフィードバックを行う。
ロット/C I / / I / / / / / / / / / / / / / / /		2 - C 1 1 2 2 2 G 14 20

授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者
子どもと学習活動	講義	今滝 憲雄
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 4 セメスター
□ 実務経験		
授業の目的・ねらい		主に対応するⅠ
	の人格形成に果たす役割を理解し、将来経	効児教育の現場で子ども 1,3
たちとともに学習活動を展開するための		,
授業全体の内容の概要〕		L
長年幼児教育に携わった実践家の論考が	から、子どもにとっての学習活動の意義を	考察する。「森のようちえん」の実践
	どもの成長・発達に果たす役割について学	
授業修了時の達成課題(到達目標)]		
子どもにとって学習活動がいかなる意味	未を持つのか、説明することができる。	
「授業の日程と各回のテー		「準備学修の内容]
)オリエンテーション 学習活動とは	何か	テーマについて、事前学習を行う。
) 見ることについて①―目ざめさせる	指導とは 前講を	振り返り、レポートを作成する。
り 見ることについて②—眼の育ちと科		テーマについて、事前学習を行う。
り聞くことについて①一幼児が聞くと		振り返り、レポートを作成する。
i) 聞くことについて②—よく聞かせる		テーマについて、事前学習を行う。
が 対児の表現について①—身ぶり表現		振り返り、レポートを作成する。
) 幼児の表現について②—自由あそび		テーマについて、事前学習を行う。
) 劇について①—劇の意義と問題点		振り返り、レポートを作成する。
)劇について②一劇づくりの実際		テーマについて、事前学習を行う。
の 劇について③一完成と評価(よい劇		振り返り、レポートを作成する。
1) 「森のようちえん」の実践の分析(振り返り、気づいた点をまとめる。
2) 「森のようちえん」の実践の分析(2) 「森のようちえん」の実践の分析(振り返り、気づいた点をまとめる。
3) 「森のようちえん」の実践の分析(の実践の分析(振り返り、気づいた点をまとめる。
		振り返り、気づいた点をまとめる。
5) まとめ 全体を振り返り、授業内容		振り返り、メラントに点をよどのる。 振り返り、レポートを作成する。
####################################		版り返り、レホードをIFIXする。
	 	明する
	つおの保育物語 広岡キミヱの足跡と生涯』	
、 『ルポ 森のようちえん』, 2 (著), 『ルポ 森のようちえん』, 2		, 2002 T , PHI ■ 4040/CC U 4
(者) , 『パイン 森のようらんパ』, 2 試験の方法と学修成果の評価基準]	021 中,未天正	
【平常試験】		
D到達度の確認 (100%)		
②実技・作品発表(%)		
【定期試験】		
D筆 記 試 験 (%)		
③実技試験(%)		
①面接試験(%)		
	受講態度その他必要と認められる事項を学	修成果の評価に加味する
	スmmぶ及 C いに心女 C 恥いりりひず没と于	
平常点評価	受講能商子の他必要と認めたれる重面な学	修成単の沙価に加速しがい
平常点評価 □ 5	受講態度その他必要と認められる事項を学	修成果の評価に加味しない
平常点評価 フィードバックの方法]	受講態度その他必要と認められる事項を学 し、一部授業内で紹介するかたちでフィー	

-ども福祉学科				
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実	[習] 授業担当者		
教育実習指導Ⅰ・Ⅱ	演習	高砂・今滝・北川・実習G		
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3 セメスター		
□ 実務経験				
[授業の目的・ねらい] ○幼稚園教諭27	種免許状の取得希望者を対象に、	「幼稚園実習」の事前準備を 主に対応するDP		
行い、実習課題達成を目的とする。○幼稚	園等の役割や機能について、具体	的な実践を通して理解を深め 1.2.3.4.		
る。 〇子どもの観察や関わりの視点を明	確にすることを通して、教育・保	育の理解を深める。 〇教育		
課程論・実践・観察・記録及び自己評価に	ついて、実際に取り組み、理解を	深める。 ○教諭の業務内容		
や職業倫理について、具体的な実践に結び		る自己の課題の明確化と実習		
後の振り返りを通して、自身の到達と課題				
		本的に理解する。 ○教育・保育観察の方法、		
実習の記録の書き方のポイントを学ぶ。		た指導計画案の立案、教材準備を進める。		
○実践に活かせる教育・保育技術、技法を		+		
		を主体的に行うことができる。 〇実習施設		
		できる。 〇指導計画案を立案し、教材や実		
	に準備を進めることかできる。	○実習後の振り返りをまとめ、報告し合うこ		
とで、学びを共有し、自己評価できる。	内穴, 極業士沖1	「海供学校の内容」		
授業の日程と各回のテーマ・ 		[準備学修の内容] 		
2) 幼児教育の基本について 幼稚園の役割		が実育の振り返り、自己課題を明確にする 力稚園、認定こども園について調べる		
3) 実習記録の書き方 幼稚園の一日の流れ		J作園、認定ことも園について調べる E習記録の書き方を復習しておく		
4) 事前訪問の準備 実習の目的、自己課題 (今日字羽) のまきす 投道書		新前訪問の注意事項を熟読しておく 前導計画の書き方の復習をしておく		
5) 指導計画(全日実習)の書き方 指導語6) 指導計画の立案 指導計画の作成、教材		は は は は は は は は は は は は は は と い る に り る り る り る り る り る り る り る り る り る		
7) 立案した指導計画の実践① 実践、記録		は は は は は は は は は は は は は は は い た い た い		
8) 立案した指導計画の実践② 振り返り、		は は は は は は は は は は は は は は は い た い た い		
9) 実習直前指導 実習の心構え、実習中の		音号計画系の元成、教例の平順・初元を117 で習の注意事項を熟読、最終準備、確認を行う		
10) 実習事後指導 実習の振り返り、お礼		と目の任息事項を認記、取於平備、確認を117 と習の評価・反省、課題をまとめる		
10) 美自事後相等 美自の振り返り、ねん 11) 実習報告会① 実習のまとめ、実習で		と目の計画・及目、味趣をまとめる と習での気づき、学びをまとめる		
11) 天自報 0 天自 0 よと 6 、 天自 0 1 1 2) 実習報告会 2 グループ 討議・「実習		「ループ討論での気づき、学びをまとめる		
13) 全体報告会③ グループによる報告書		バループ発表の内容、学びをまとめる		
14) 全体報告会④ グループによる報告書		「ループ発表の内容、学びをまとめる		
15) まとめ 振り返り・自己評価		習や報告会での自己課題をまとめる		
[使用テキスト] 実習の記録、実習ハン	I	日(松日芸(の日日林圏でまこの)		
		方・立て方』,2017 年,萌文書林		
[試験の方法と学修成果の評価基準]	B 休月川大日 旧寺町画の与え	7、亚(万),2017年,明文音杯		
【平常試験】				
①到達度の確認 (40%)				
②実技・作品発表 (60%)				
②美技・作品発表(60%) 【定期試験】				
①筆 記 試 験 (%)				
②レポート(%)				
③実 技 試 験 (%)				
④面接試験(%)				
	能度その他必要と認められる重定	iを学修成果の評価に加味する		
平常点評価 マ常点評価 マ常点評価 マネカ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する 日本 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
□ 文神忠度での他必要と認められる事項を子形成未の計画に加味しない。 [フィードバックの方法] 最終授業で講評を行う。				
[備考]	. — . • . 0			

アと も 徳祉子科			
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習) 授業担当者	
幼稚園実習Ⅰ・Ⅱ	実習	高砂・今滝・北	川・実習G
授業の回数 4 週間	時間数(単位数) 4 単位	配当 3 セメ	スター
□ 実務経験		•	
[授業の目的・ねらい] ○幼稚園等の役割		通して理解を深める。	主に対応するDP
○子どもの観察や関わりの視点を明確にす	ることを通して、教育・保育の理解	を深める。	1. 2. 3. 4.
○既習の教科目や他の実習の経験を踏まえ	、子どもの教育・保育について総合	的に理解する。	
○教育課程論・実践・観察・記録及び自己	.評価について、実際に取り組み、理	解を深める。	
○教諭の業務内容や職業倫理について、具		747 (2 17) 2 (20)	
○実習における自己の課題を明確化する。			
「授業全体の内容の概要」			
幼稚園での観察実習・部分実習・責任実習	を行いたがら 現場に必要な「保育	者像」を学ぶ。	
「授業修了時の達成課題(到達目標)〕		1 M 2 1 40 0	
○教育・保育者の仕事に触れ、幼稚園やこ	ビも周の犯割や操能について理解1		
○集団教育・保育の中で大切にすることや			
			~
[授業の日程と各回のテーマ・	四谷・授耒万伝」	- 上半浦子1907円名	f]
1)			
○積極的に子どもと関わりながら子ども理		育実習指導Ⅰ・Ⅱ」で事情	前・事後指導を
即した指導や援助のあり方を学ぶ。	行う	0	
○実習園の教育・保育目標、特色、行事な	どに参加し、その意味と方法を		
把握する。			
○年間、学期、月、週、一日の流れを把握	し、クラスの子どもの実態に		
即した指導計画の立て方を学び、実践す	-る。		
○保護者とのコミュニケーションの方法を	学ぶ。		
○幼稚園等と地域社会との連携の方法を学	-\$i.		
○幼稚園教諭、保育教諭に求められている	資質や技能に照らし合わせて、		
自己の課題を明らかにする。			
「使用テキスト」	L		
実習の記録、実習ハンドブック、配布資料			
[参考文献]			
久富陽子(編著), 『幼稚園・保育所実習	 	年 · 前文 書 林	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	11年中国中国中国中国中国中国中国中国中国中国中国中国中国中国中国中国中国中国中		
【平常試験】			
①到達度の確認(40%)			
②実技・作品発表(60%)			
【定期試験】			
①筆 記 試 験 (%)			
②レポート(%)			
③実 技 試 験 (%)			
④面 接 試 験(%)			
□ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
平常点評価 ロ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 実習終了後に面詞			
[備考] 教育実習指導 I・Ⅱと合わせて、	総合的に評価を行		

- とも保祉学科				
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実習)	授業担当者		
保育と医療的ケア	講義	清水 従子		
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 4 セメスター		
☑ 実務経験 ペガサス保育園へ	がはさ園長としての経験を基に医ケア児との	インクルーシブ保育について講義する		
[授業の目的・ねらい]		主に対応するDP		
	ケア児とその家族の置かれている環境を知り	、危険行為やリスクを理 1		
解した上で適切な援助・保育が提供	できる。 			
[授業全体の内容の概要]				
	様子をスライドや動画で見ながら講義を進む	めます。現場で使用している医療機器を		
手に取り使い方の体験や、医療的ケ				
[授業修了時の達成課題(到達目標)				
	、リスクを把握した上で安全に保育を提供す 			
[授業の日程と各回	のテーマ・内容・授業方法] 	[準備学修の内容]		
1) 講義「医療的ケア児について・棚	程要」・胃ろう注入体験 			
2) 講義「あそびと保育」・おもちゃ	-作り			
3) 講義「家族支援」				
4) 講義「制度・法律・痙攣・嚥下」	モニター体験			
5) 講義「救急対応・喀痰吸引・染色	1体」アンビュー体験			
6) 講義「医療的ケア児を受け入れる	ために必要な備え」			
7) 講義「医療的ケア児の一日の生活	6・嚥下」とろみ作成、試飲・おもちゃ作り			
8) 試験「振り返り・論文」				
[使用テキスト]				
[参考文献]				
[試験の方法と学修成果の評価基準]				
【平常試験】				
①到達度の確認 (100%)				
②実技・作品発表 (%)				
【定期試験】				
①筆 記 試 験(%)				
②レポート(%)				
③実 技 試 験(%)				
④面 接 試 験(%)				
平常点評価	受講態度その他必要と認められる事項を学	*修成果の評価に加味する		
于市 杰 計	受講態度その他必要と認められる事項を学	修成果の評価に加味しない		
[フィードバックの方法]				
[備考]				

「こで領征子符			
授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実	技·実習)	授業担当者
児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法	講義		代田 盛一郎
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	<u>17.</u>	配当 3 セメスター
□ 実務経験			
[授業の目的・ねらい] 児童館・放課後児童	重クラブの活動内容と指導法に	こついて理	解し、実践的な力量を 主に対応するDP
身につけることを目的とします。またその別	記童館・放課後児童クラブの 裕	畐祉的側面	を踏まえ、今日的な課 1,2
題について実際の事例に基づき考察を深めま	ます。		
[授業全体の内容の概要] 受講生による事前	前学習に基づき各項目への理解	解を深めま	す。
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 児童	賃館・放課後児童クラブの活動	動内容と指	導法について理解し、自身のことばで
語ること、実践できるようになることを到達	室目標とします。併せてその背	背景となっ`	ている社会とその問題をとらえる視点
の獲得を目標とします。		·····	
[授業の日程と各回のテーマ・	内容・授業方法] 		[準備学修の内容]
1) オリエンテーション〜科目の目的、方法	、ガイダンスを含む	「児童館	[ガイドライン」の熟読
2) 児童館・放課後児童クラブの1日(週、	年) の流れと活動のねらい		
3) 児童館・放課後児童クラブにおける遊び	の環境構成		
4) 遊びを通じた支援の実際(プログラム作	り、具体的展開、支援法)		
5) 遊びを通じた児童の健全育成~基本的事	項と事例検討		
6) 児童館・放課後児童クラブにおけるグル	ープワーク~基本的事項と事	¥	
例検討			
7) 児童館・放課後児童クラブにおけるケー	スワーク~基本的事項と事例	ij	
検討			
8) 小学生の仲間づくり・居場所づくり			
 9) 子育て支援活動~子ども家庭福祉、地域	子ども・子育て支援事業とし		
T			
10) ボランティアの育成・支援			
11) 児童館・放課後児童クラブにおける生活	舌・学習支援		
12) 保護者・学校・地域との連携			
13) 子どもたちのニーズに基づいた行事や	 イベントの企画立案(演習)		
14) 企画発表会、講評			
15) まとめ			
「使用テキスト] なし(授業ごとに資料を	配右〕まま)		
[参考文献] 初回の授業にてリストを配布し			
[試験の方法と学修成果の評価基準]			
【平常試験】			
①到達度の確認(100%)			
②実技・作品発表 (%)			
【定期試験】			
①筆記試験(%)			
②レポート(%)			
③実 技 試 験 (%)			
(4面 接 試 験 (%)			
☑ 受講館	態度その他必要と認められる	事項を学修	
平常点評価	態度その他必要と認められる	· · · · · ·	7,70,71
フィードバックの方法] 最終回に解説、フ		- / - 1 12	/y==1- / H
[備考]「児童館ガイドライン」はインター		ールドワー	・クを予定しています。詳細は授業内
でガイダンスを行います。			
<u> </u>			

授業のタイトル (科目名) 授業の種類 (講義・演習・実	技·実習) 授業担当者
児童館・放課後児童クラブの機能と運営 講義	古田 説子
授業の回数 15 回 時間数(単位数) 2 単位	立 配当 4 セメスター
☑ 実務経験 児童健全育成指導士 (児童館及び放課後児童クラブ	·運営の職員として、またその主管部所担当とし
た勤務経験を踏まえ、実践的内容を講義する)	
	こついて理解を深め、0歳~18歳 主に対応するDF
の子どもたちの遊びや生活を通した発達支援に直接的にかかわる職員の	つための基礎を学ぶ 1,2
営指針」を基本として、児童健全育成事業の概要や、活動内容の留意点	、、健全育成の考え方、現代の子どもの健全育成」
の課題、遊びの意義等具体的内容を理解できることを目的とし、さらに	起源、経緯、施設概要、施設の規模別特徴、機能
と運営上の留意点、課題や展望について理解できるように説明する。	
)支援方法を説明、実演でき、児童の健全育成に資
する遊びの企画、指導ができる。	
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
	と 受講前に施設見学及び、情報収集。
2) 児童館の概要と特性「源流から現在の状況まで」(講義)	予習教科書 p6~26
3) 放課後児童クラブの概要と特性「源流から現在の状況まで」(講義)	放課後児童クラブについて情報収集
4) 児童館の活動①「遊び」による子どもの育成 (講義と演習)	予習教科書 p28~32 予習教科書 p123~124
5) 児童館の活動②子どもの「居場所」の提供(講義)	予習教科書 p33~36 予習教科書 p124
6) 児童館の活動③子どもの「意見を述べる場」の提供(講義)	予習教科書 p37~41 予習教科書 p124
7) 児童館の活動④「配慮を必要とする子ども」への対応(講義と演習)	予習教科書 p42~46 予習教科書 p124~125
8) 児童館の活動⑤「子育て支援」の実施 (講義)	予習教科書 p47~51 予習教科書 p125~126
9) 児童館の活動⑥「地域」の健全育成の環境づくり(講義と演習)	予習教科書 p52~54 予習教科書 p126
10) 児童館の活動⑦「ボランティア等」の育成と活用支援 (講義)	予習教科書 p55~60 予習教科書 p126
11) 児童館の活動⑧「放課後児童クラブ」の実施と連携(講義と演習)	予習教科書 p61~64 予習教科書 p124
12)子どもの安全対策・衛生管理(講義と演習)	予習教科書 p66~70 予習教科書 p131~133
13) 児童館活動・運営に関する業務 (レポートのプレゼン・講義)	予習教科書 p69~73 予習教科書 p129~131
14) 職員の職務(館長・児童厚生員・放課後児童支援員)職場倫理	予習教科書 p73~87 予習教科書 p127~128
15)機能と運営の内容確認(小テスト・レポートのプレゼン・講義)	前に指定した内容のレポート作成事前提出
「使用テキスト」 『児童館論』, 2023 年, 児童健全育成推進財団	INCOME OF THE PROPERTY OF THE
[参考文献] ■児童館研究委員会(編), 『子どもは歴史の希望児童館	理解の其礎理論』 2022 年 フレーベル館 ■原
童健全育成推進財団(著),『健全育成論』『安全指導・安全管理』『	
放課後児童支援員都道府県認定資格研修教材 ■田村学(監修), 『V	
ん』, 2022年,ポプラ社	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到 達度の 確認(100%)授業内の小テスト、レポート等の提出物	
②実技・作品発表 (%)	
【定期試験】	
①筆記試験(%)	
②レポート(%)	
③実技試験(%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	5事項を学修成果の評価に加味しない
	○ → 86 ユ ID/IA 小 V II IIII IE /III / M C / G V ·
ノイートハックの方法	
[フィードバックの方法] 小テスト形式で理解度を確認し、授業内で自己採点、個々が作成したレ	レポートを元にプレゼンテーションを講義内で行

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

[備考]

授業のタイトル (科目名)	授業の種類(講義・演習・実技・実	
国際理解	演習	永原 直子
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 4 セメスター
□ 実務経験		
授業の目的・ねらい]		主に対応するD
学生間の交流をとおして豊かな人間性	生と社会性を身につけ、異文化の人と	コミュニケーションを取れるよ
うになる。積極的なコミュニケーショ	ョンをする姿勢を身につけ、様々な価	値観に触れる。
授業全体の内容の概要]		
		交流イベントを企画し、実施する。内容につ
ては授業内で決め、そのための準備? 		
授業修了時の達成課題(到達目標)	-	
	者と積極的に関わることができるよう 	-
[授業の日程と各回のテ	ーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
)オリエンテーションと自己紹介		日本語で1分程度の簡単な自己紹介ができる
▶科目の説明、受講ルールおよび評値	西方法について説明する。	ように準備しておく。(10分)
また、受講生同士で簡単な自己紹介を	をする。	
)~15)		取り組みの内容について、各自でやってみた
受業内で取り組む内容について受講点	主全員で決める。活動内容は受講者全	いことを考えておく。(10分)
員が参加可能で交流しながら取り組	むことができるものであればなんで	
も良い。また、活動に際して役割分担	1をし、各自が積極的に取り組むこと	
を求める。		
[使用テキスト]		
寺に指定しない。必要に応じて資料? 	を配布する。	
参考文献]		
試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
D到達度の確認(100%) 授業	および学生間交流への積極度、リアク	ションペーパーの提出と内容で評価する。
②実技・作品発表 (%)		
【定期試験】		
D筆 記 試 験(%)		
②レポート(%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験(%)		
□ □ □	受講態度その他必要と認められる事	項を学修成果の評価に加味する
平常点評価 □ □	受講態度その他必要と認められる事	項を学修成果の評価に加味しない
フィードバックの方法]		
受業内での振り返りにおいてフィー	ドバックを行う。	